

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 12 号 (2006 年度)

KPMNH Yearbook

No. 12

2006. 4 – 2007. 3

Web版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Oct. 2007

館長あいさつ

皆さんの神奈川県立生命の星・地球博物館では、今日も元気な子供たちの歓声が響いています。エントランスホールのチンタオサウルスを見上げ、生命の神秘に感動するその瞳には、はるかな歴史のなかで文明と科学を切り拓いてきた多くの先人たちの叡智が輝いています。

総合受付の案内員さんの笑顔に迎えられ、いよいよ展示室に入ります。すると、そこには残念なことに動く「生命」はありません。しかし、音もなく静かではあっても、とても豊かな「生命」の世界が広がっています。博物館はいわばカタコンベかもしれません、子供たちの豊かな想像力は、化石の骨であっても原野を歩き回る生きた恐竜の姿に変えてしまいます。

古くから伝わる日本のよい言葉の「おもいやり」は、「相手の身になって考える」と解されますが、そこに含まれる意味には真に相手のことを考える「豊かな想像力」があると思います。「あわれみ」や「計算づく」では「骨」は「骨」にしきれませんが、「おもいやる」ことのできる子供たちにとって「骨」も実は雄弁な語り手です。

自然は様々な姿を私たちに見せてくれます。ときには雄大で荒々しく、またときには美しく繊細に。でも、自然はいつも悲鳴をあげて、警鐘をならしています。私たちは、地球の温暖化といわれるような気候の異変や自然の激しい災害に目を奪われがちですが、連綿と受け継がれてきた地球生命史のなかで、目には見えない緩やかな進化と生物の多様化や地球環境の激変にともなう大量絶滅を経験しながらも、それでも環境に順応しつつ毎日を精一杯生きている有象無象こそが、地球の明日を築いていくのだと思います。

ここ生命の星・地球博物館は、今では失われてしまった彼らが歌い奏でるメッセージに満ちています。その歌詞の、その楽譜の断片を、ひとつの交響曲としてまとめていくのが私たちの使命であると考えております。当館の職員はもちろんですが、館のいろいろな活動にご協力下さっている友の会の皆さん、ボランティアの皆さん、外部の研究者の皆さん、一人ひとりがオーケストラの構成員です。この年報はこの一年間の成果を収録したミニアルバムです。皆さんの耳にどのような演奏として届きますでしょうか。

当館の運営にお力添えいただいております多くの方々に深く感謝しつつ。

2007年10月

神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 齋藤 靖二

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源 (DNA) を表すスパイラル (らせん) をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として

地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

館長あいさつ	1
--------------	---

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命	2
シンボルマーク・ロゴタイプ	2

I 沿革	4
1. 沿革	4
2. 2006 年度の主な出来事	5

II 機能	6
1. 運営管理機能	6
1.1. 事業体系	6
1.2. 組織	7
1.3. 職員名簿	8
1.4. 入館者	9
1.5. 歳入歳出決算	10
1.6. 博物館課題研究会	10
2. 情報発信機能	11
2.1. 常設展示	11
2.2. 特別展示	15
2.3. 活動報告展およびその他の展示	18
2.4. ミュージアムシアター	20
2.5. ビデオライブラリー	21
2.6. ミューズ・フェスタ 2007	22
3. シンクタンク機能	25
3.1. 調査研究事業	25
3.2. 研究発表会	25
3.3. 研究助成金による研究	26
3.4. 委託調査等	26
3.5. 著作活動・学会発表等	27
3.6. 各種委員・役員・非常勤講師・その他	37
3.7. 講師依頼等	39
3.8. 学術交流	42
3.9. 他施設・団体への協力	43
3.10. 外部研究者の受け入れ	43
4. データバンク機能	44
4.1. 資料概況	44
4.2. 図書資料収集状況	51
4.3. 資料利用状況	51
4.4. 資料燻蒸	52
5. 学習支援機能	53
5.1. 生涯学習への対応	53
5.2. 学校教育への対応	62

5.3. 博物館実習	65
5.4. 各種研修	66
5.5. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	67
5.6. 団体利用対応	67
5.7. 博物館のボランティア活動	71
5.8. 友の会	74
5.9. 広報	76
5.10. 入館者を対象としたアンケート	77
6. 刊行物	79
6.1. 定期刊行物	79
6.2. 刊行物販売状況	81
7. 情報システム	82
7.1. システムの概要	82
7.2. サブシステムの紹介	83
7.3. インターネットの利用	84
7.4. 情報提供	85
8. 連携機能	86
8.1. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	86
8.2. サロン・ド・小田原	86
8.3. 館内施設等の状況	87
III 資料	88
1. 条例・規則	88
1.1. 神奈川県立の博物館条例	88
1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	89
1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則	89
2. 館年表	91
2.1. 再編整備決定から開館まで	91
2.2. 開館から 2006 年度末まで	91
3. 統計資料	94
3.1. 入館者状況	94
3.2. 入館者実績	96
3.3. 特別展・企画展開催実績	97
3.4. 資料登録実績	99
3.5. ホームページアクセス実績	100
4. 調査研究関連資料	101
4.1. 研究成果	101
4.2. 研究成果 (外部資金助成・共同研究等)	109
5. 施設概要	114
5.1. 土地・建物	114
5.2. 設備	115
5.3. 面積表	117
5.4. 平面図	118

ご利用案内	120
-------------	-----

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇陛下・皇后陛下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。 斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）

2. 2006 年度の主な出来事

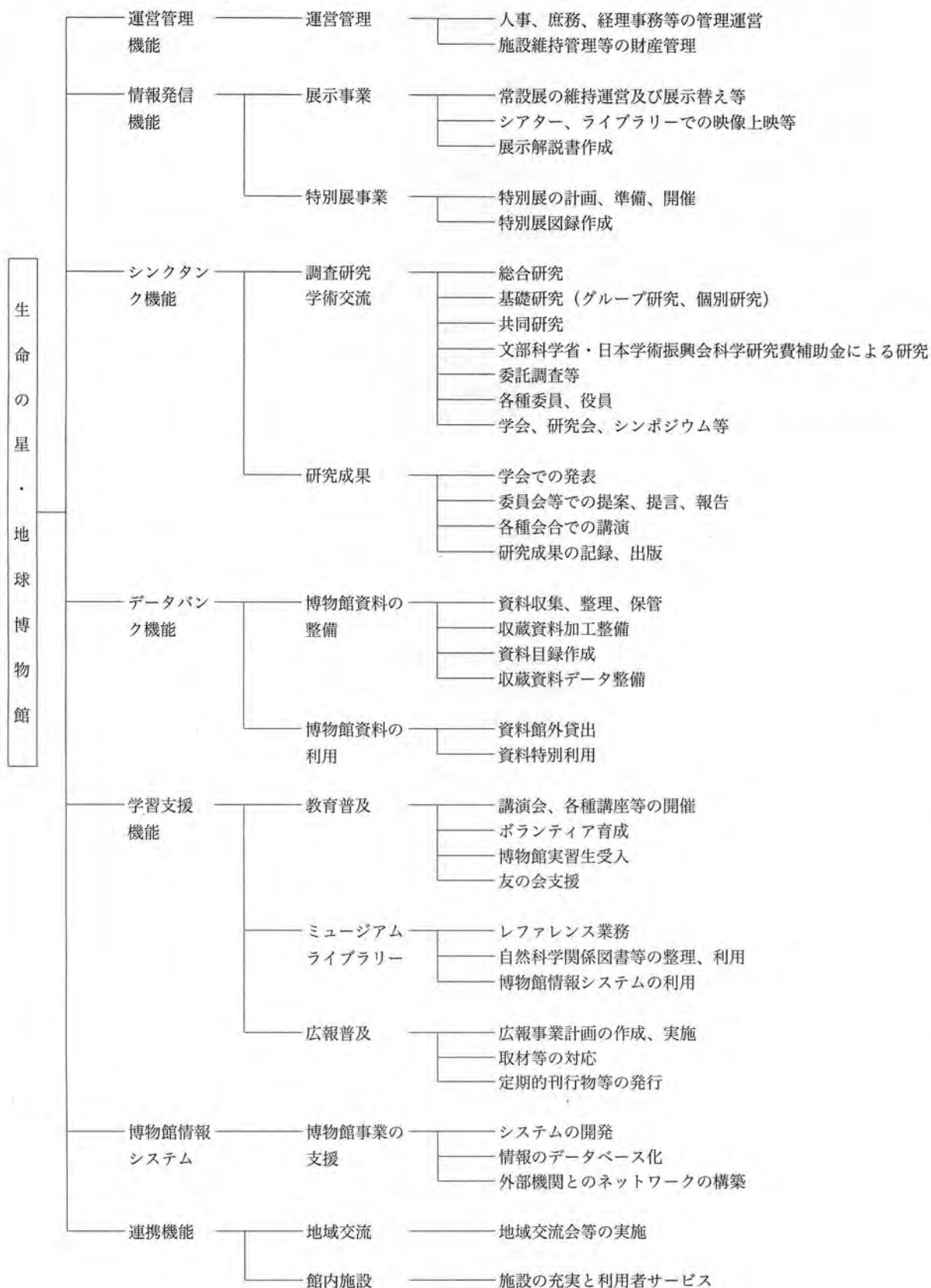
2006 年	4月1日	2部3課体制に組織改編 斎藤靖二館長就任 定期人事異動
	4月1日～10日	「マイミュージアム!みんなの活動報告・マイミュージアム写真展」
	4月15日	日本チョウ類保全協会臨時総会
	4月29日～5月28日	活動報告展「学芸員の活動報告展」
	5月9日	防災消防訓練
	5月11日	サロン・ド・小田原
	6月19日～23日	燻蒸
	6月29日	サロン・ド・小田原
	7月15日～11月5日	特別展「ふしぎな生きもの 菌類」
	7月17日～8月28日	夏休み中無休開館期間
	8月12日	サロン・ド・小田原
	9月17日	特別展関連講座「キノコ栽培講座」
	9月21日	情報セキュリティ立入調査
	9月30日～10月1日	特別展関連講座「変形菌を探してみよう」
	10月15日	特別展関連講座「分解者菌類に関する講演」
	11月4日	自然科学講演会「菌類感謝の日」
	11月12日	自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」
	11月14日	ISO 外部審査
	12月9日～2月25日	企画展「パノラマにつぼん」
	12月14日～15日	職員監査
	12月16日	サロン・ド・小田原
2007 年	1月9日	防災訓練
	1月23日	定期監査
	2月23日	サロン・ド・小田原
	2月28日	全国科学博物館協議会理事会総会
	3月17日～18日	ミューズ・フェスタ 2007
	3月17日～31日	「みんなの活動報告展」
	3月30日	博物館課題研究会

博物館の再編整備の決定以降、2006 年度までの出来事の詳細
に関しては、資料の項(91～93 ページ)に掲載した。

II 機能

1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

[平成19年3月31日現在]

区分	常勤				非常勤					合計
	事務職	技術職	学芸員	司書	館長	事務職	技術職	学芸員	司書	
館長					1					1
副館長	1									1
管理課	9				2	1				12
企画情報部	部長	1								1
	企画普及課	3	5		1				6	15
	情報資料課	1	3	1				1		6
	小計	5	8	1	1			1	6	22
学芸部	部長		1							1
	動物・植物		6							6
	古生物・地球環境		6							6
	小計		13							13
合計	15	21	1	1	3	1		1	6	49
	37				12					

指導員＝博物館学習指導員

[平成19年6月1日現在]

区分	常勤				非常勤					合計
	事務職	技術職	学芸員	司書	館長	事務職	技術職	学芸員	司書	
館長					1					1
副館長	1									1
管理課	8				2	1				11
企画情報部	部長	1								1
	企画普及課	2	5		2				6	15
	情報資料課	1	3	1				1		6
	小計	4	8	1	2			1	6	22
学芸部	部長		1							1
	動物・植物		5							5
	古生物・地球環境		6							6
	小計		12							12
合計	13	20	1	1	4	1		1	6	47
	34				13					

指導員＝博物館学習指導員

1.3. 職員名簿

[平成19年3月31日現在]

職名	氏 名	担当分野
館長（非常勤）	斎藤 靖二	地学（堆積学）
副館長	長島 敏雄	
管理課	課長	田賀 茂
	課長補佐	奥野 宏
	副主幹	橋本 隆
	〃	内田 晴康
	〃	野木 繁佳
	主査（事務）	石塚 公生
	〃	西尾 雄三
	〃	山口美穂子
	臨時主事	小澤 紅子
	非常勤技術嘱託	鍛代 勇
	非常勤事務嘱託	小山田大和
	〃	柴田美奈子
企画情報部	部長	二川 幸夫
企画情報部	課長 *	平田 大二 地学（鉱物）
	専門学芸員 *	新井 一政 動物（両生・爬虫類）
	〃 *	奥野花代子 博物館学
	主任研究員 *	木場 英久 植物（維管束植物）
	主任学芸員 *	佐藤 武宏 動物（無脊椎動物）
	主査（事務）	中島 功
	主事	本多 美穂
	専門員	佐藤 博行
	非常勤事務嘱託	木村 恭子
	非常勤博物館	杉山 連一
	学習指導員	松本 成美
	〃	山崎 純一
	〃	児玉 正彦
	〃	堀田 正弘
	〃	松岡 輝宏
情報資料課	課長 *	山口 佳秀 動物（哺乳類）
	主任学芸員 *	広谷 浩子 動物（霊長類）
	主任研究員 *	笠間 友博 地学（地質）
	主査（司書）	篠崎 淑子
	主査（事務）	落合 誠
	非常勤司書	工藤 敦子
学芸部	部長	高桑 正敏 動物（昆虫類）
	動担当	チームリーダー 勝山 輝男 植物（維管束植物）
	主任研究員	瀬能 宏 動物（魚類）
	主任学芸員	田中 徳久 植物（植物生態）
	〃	苅部 治紀 動物（昆虫類）
	技師	出川 洋介 菌類・非維管束植物
	学芸員	加藤 ゆき 動物（鳥類）
	臨時学芸員	岡村 綾子 動物（鳥類）
	古地生球物環境担当	チームリーダー 新井田 秀一 環境科学（海洋光学）
	主任学芸員	樽 創 古生物（哺乳類）
古地生球物環境担当	〃	大島 光春 古生物（哺乳類）
	主任研究員	山下 浩之 地学（岩石）
	主任学芸員	田口 公則 古生物（貝類）
	学芸員	石浜 佐栄子 地学（地球化学）

* 学芸部を兼務

[平成19年6月1日現在]

職名	氏 名	担当分野
館長（非常勤）	斎藤 靖二	地学（堆積学）
副館長	白畑 裕史	
管理課	課長	田賀 茂
	課長補佐	奥野 宏
	副主幹	橋本 隆
	〃	小林 康人
	〃	野木 繁佳
	主査（事務）	西尾 雄三
	主事	吉川ひとみ
	専門員	尾澤 道夫
	非常勤技術嘱託	鍛代 勇
	非常勤事務嘱託	柴田美奈子
	〃	石川 絵美
企画情報部	部長	二川 幸夫
企画情報部	課長 *	平田 大二 地学（鉱物）
	専門学芸員 *	新井 一政 動物（両生・爬虫類）
	〃 *	奥野花代子 博物館学
	副主幹	笹尾 賢二
	主任学芸員 *	佐藤 武宏 動物（無脊椎動物）
	学芸員 *	石浜 佐栄子 地学（地球化学）
	主事	本多 美穂
	非常勤事務嘱託	阿部 侃壽
	〃	木村 恭子
	非常勤博物館	松本 成美
	学習指導員	松岡 輝宏
	〃	稲井 慎治
	〃	山口 清
	〃	石井 裕
	〃	田中 淑生
情報資料課	課長 *	山口 佳秀 動物（哺乳類）
	副主幹	中里 義男
	副主幹（司書）	篠崎 淑子
	主任学芸員 *	広谷 浩子 動物（霊長類）
	主任研究員 *	出川 洋介 菌類・非維管束植物
	非常勤司書	工藤 敦子
学芸部	部長	高桑 正敏 動物（昆虫類）
	動担当	チームリーダー 勝山 輝男 植物（維管束植物）
	主任研究員	瀬能 宏 動物（魚類）
	主任学芸員	田中 徳久 植物（植物生態）
	〃	苅部 治紀 動物（昆虫類）
	学芸員	加藤 ゆき 動物（鳥類）
	〃	
	〃	
	古地生球物環境担当	チームリーダー 新井田 秀一 環境科学（海洋光学）
	主任研究員	笠間 友博 地学（地質）
古地生球物環境担当	主任学芸員	樽 創 古生物（哺乳類）
	〃	大島 光春 古生物（哺乳類）
	主任研究員	山下 浩之 地学（岩石）
	主任学芸員	田口 公則 古生物（貝類）

* 学芸部を兼務

1.4. 入館者

2006 年度の入館者総数は、241,549 人で、前年度比 103.2% であった。開館日数は 309 日であったため、1 日平均入館者数は 781.7 人であった。

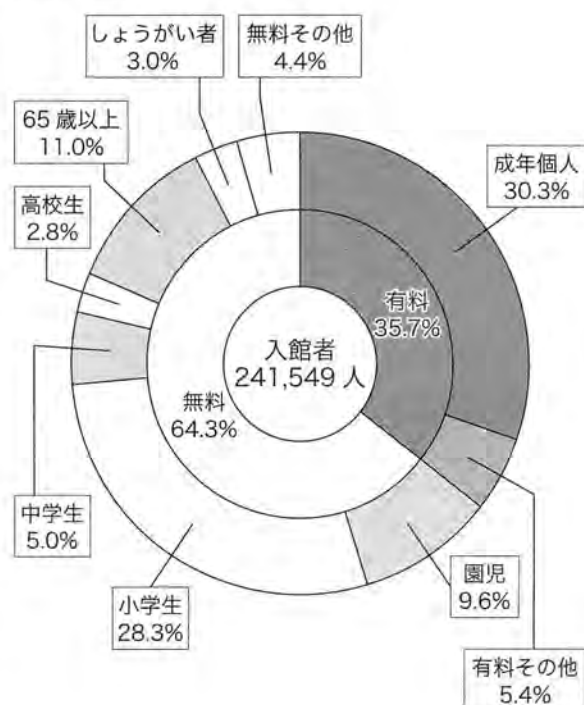
入館者数の内訳は、有料入館者 86,313 人（全体比 35.7%）、無料入館者 155,236 人（全体比 64.3%）であった。内訳に関しては、表およびグラフのとおりである。また、入館者数の月別推移に関しては、グラフのとおりである。

なお、詳細な入館者統計に関しては、資料の項（2006 年度の入館者状況は 94 ～ 95 ページ・開館以来の入館者実績は 96 ページ）に掲載した。

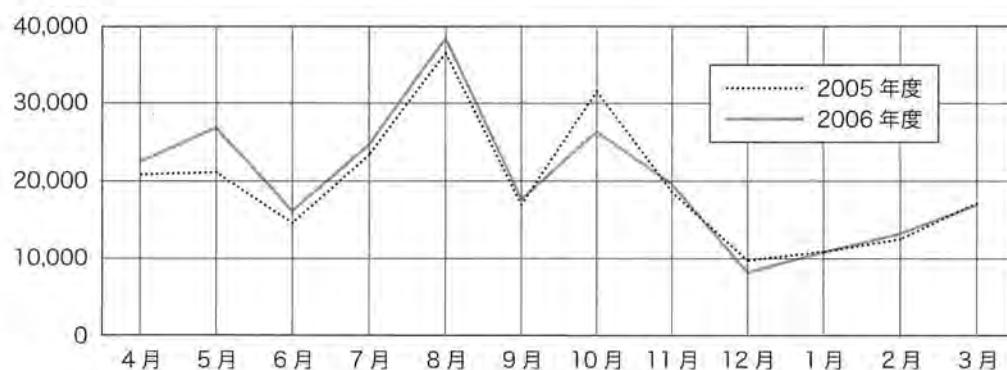
入館者状況

	入館者数 (人)	1日平均 (人)	全体比 (%)	前年比 (%)
有 料 入 館 者				
成年個人	73,266	237.1	30.3	105.4
同上特展のみ	1,911	6.2	0.8	105.1
未成年・学生個人	2,562	8.3	1.1	105.6
同上特展のみ	125	0.4	0.1	183.8
成年団体	4,100	13.3	1.7	97.6
未成年・学生団体	235	0.8	0.1	77.3
成年割引	3,714	12.0	1.5	97.6
未成年・学生割引	400	1.3	0.2	94.8
小計	86,313	279.3	35.7	104.6
無 料 入 館 者				
園児	23,182	75.0	9.6	109.9
小学生	68,475	221.6	28.3	101.7
中学生	12,044	39.0	5.0	105.6
高校生	6,862	22.2	2.8	103.7
65歳以上	26,683	86.4	11.0	98.9
しょうがい者	7,346	23.8	3.0	94.8
その他	10,644	34.4	4.4	103.3
小計	155,236	502.4	64.3	102.5
合計	241,549	781.7	100.0	103.2

入館者の内訳



入館者数の月別変化



1.5. 歳入歳出決算

平成 18 年度歳入

科目	金額（千円）	内訳
教育財産使用料	2,427	レストランほか 建物等使用料
博物館使用料	44,985	観覧料収入 常設展 41,386 特別展 3,599
受託事業収入	3,981	森林総合研究所からの受託 研究費
受講料収入	93	県立機関活用講座受講料
立替収入	1,526	レストランほか 電気・ガス・水道
雑入	3,823	展示解説書等販売収入 ライブラリー複写代
合計	56,835	

平成 18 年度歳出（人件費を含まず）

科目	金額（千円）	内訳
維持運営費	186,595	館の維持管理及び事業運営
展示事業費	18,480	総合案内業務 特別展の開催
調査研究 事業費	7,816	総合研究・基礎研究 調査研究報告書の作成
資料整備費	5,297	博物館資料収集 収蔵展示資料修繕・加工
学習支援 事業費	2,549	各種講座・講演会等の開 催・図書等資料整備・広報
県立機関活用講 座開催事業費	176	「5日間完全マスター『箱根 の植物』」開催
情報システム整 備費	2,292	データ入力等
合計	223,205	

1.6. 博物館課題研究会

当館が抱える諸問題を探り、その課題について博物館全体で共通理解を深めるとともに、課題解決にむけての職員の意識向上を図ることを目的とするものである。2001 年度から開催し、2006 年度は 6 回目の開催となった。

〔テーマ〕博物館をめぐる最近の動きと課題について

〔内容〕

近年、教育界やマスコミなどで青少年の自然離れ、理科離れが言われ続けている。このような状況において、自然科学の普及啓蒙の役割を担う自然史系博物館の存在意義とその活動はますます重要となってきた。一方で、社会状況の変化に伴い、博物館の運営方法やあり方の基本となる博物館法の見直しも検討されている。2006 年度の課題研究会では、小川氏より自然史系博物館におけるサイエンス・コミュニケーターの養成の必要性和期待される資質・能力、そして養成プログラムについて、およびサイエンス・コミュニケーションを進めていく上で、様々な機関との連携など、これからのサイエンス・コミュニケーションのあり方について話題提供をしていただいた。また、遠藤氏からは、

博物館法改正の動きとして、文部科学省の「博物館の在り方に関する検討協力者会議」や中教審分科会での法改正にむけての動向について情報提供をいただき、博物館法改正の背景と課題について研修した。

〔日時〕2007 年 3 月 30 日（金）13 時 30 分～16 時 30 分

〔場所〕当博物館講義室

〔演題・講師（所属）〕

「今、なぜサイエンス・コミュニケーションか？」

小川義和氏（独立行政法人国立科学博物館・学習課長）

「博物館法改正の背景について」

遠藤秀紀氏（京都大学霊長類研究所・教授）

〔出席者〕

当博物館職員、神奈川県立歴史博物館職員、神奈川県教育委員会生涯学習文化財課職員、当博物館友の会会員。

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の営みの神秘性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもって分かりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマ及びジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映するミュージアムシアター、ミュージアムライブラリーに設けられているビデオライブラリーなどで来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報

コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

展示室1「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

展示室2「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

展示室3「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

展示室4「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響を受け変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2006年度の展示変更および更新

「昆虫の世界」展示変更

〔展示期間〕2007年3月13日～

〔展示概要〕

生命展示室の昆虫の多様性の展示に新規標本を追加した。内容は、形態の面白いもの、美しい色彩のものなどでいずれも当館で初の常設展示になる。

〔展示資料〕

キオビカタビロノコギリカミキリ、ガビサンツノカナブン、ムラサキハデシラホシカミキリ、アメリカニセミヤマクワガタ、ムネスジノセミヤマクワガタ、オオキバキオビカミキリ、オオキバキオビカミキリ、トゲムネクシヒゲウスバカミキリ、クシヒゲツツカミキリ、ハヤシミヤマクワガタ、フチベニブラチナコガネ、バーツブラチナコガネ、フチドリブラチナコガネ、ツヤブラチナコガネ。

〔担当〕 菊部治紀

2.1.2. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

2006年度の展示更新

第17巻 神奈川の植物『四季のいどり(春の植物)』

〔展示期間〕2006年3月4日～4月28日

〔展示内容〕神奈川のスマレ・春に咲く木の花とその果実

〔展示資料〕

原色標本:ヒカゲスミレ、エイザンスミレ、マルバスマスミレ、オオモミジ、コブシ、ミツデカエデ、ジャケツイバラほか。

写真:ニオイタチツボスミレ、ノジスミレ、コミヤマスマスミレほか。

模型:アケボノスミレ、タチツボスミレ、フサザクラほか。

〔担当〕 勝山輝男・木場英久・田中徳久

〔協力〕 植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(春の植物)』

〔展示期間〕2006年4月29日～6月16日

〔展示内容〕富士・箱根・伊豆地域のツツジ・春に咲く木の花とその果実

〔展示資料〕

原色標本:ホカゲツツジ、ミツツバツツジ、オオモミジ、コブシ、ミツデカエデ、ジャケツイバラほか。

写真:ヤマツツジ、アシタカツツジほか。

模型:トウゴクミツバツツジ、ヒカゲツツジ、フサザクラほか。

〔担当〕勝山輝男・木場英久・田中徳久

〔協力〕植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(夏の植物)』

〔展示期間〕2006年6月17日～8月11日

〔展示内容〕富士・箱根・伊豆地域のツツジ・草原に咲く草花

〔展示資料〕

原色標本:ホカゲツツジ、ミツツバツツジ、ウツボグサ、オトギリソウ、フジアカショウマ、ツリガネニンジンほか。

写真:トモエソウ、コバギボウシほか。

模型:トウゴクミツバツツジ、カゲツツジほか。

〔担当〕勝山輝男・木場英久・田中徳久

〔協力〕植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(秋の植物)』

〔展示期間〕2006年8月12日～12月1日

〔展示内容〕秋の草花・草原に咲く草花

〔展示資料〕

原色標本:ラシナショウマ、キバナアキギリ、シロヨメナ、ウツボグサ、オトギリソウ、フジアカショウマ、ツリガネニンジンほか。

写真:オミナエシ、タムラソウ、トモエソウ、コバギボウシほか。

〔担当〕勝山輝男・木場英久・田中徳久

〔協力〕植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(冬の植物)』

〔展示期間〕2006年12月2日～2007年3月2日

〔展示内容〕冬枯れの植物と木の実・草の実

〔展示資料〕

原色標本:ガガイモ、テイカカズラ、イタヤカエデ、ミヤマハハソほか。

実物:ジャケツイバラ、トキリマメ、クヌギ、ミズナラほか。

〔担当〕勝山輝男・木場英久・田中徳久

〔協力〕植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(春の植物)』

〔展示期間〕2007年3月3日～

〔展示内容〕春を彩る草花・神奈川のスミレ

〔展示資料〕

原色標本:ホタルカズラ、ジュウニヒトエ、エイザンスミレ、ヒナスミレほか。

写真:コミヤマスミレ、フモトスミレ、サクラスミレほか。

模型:イチリンソウ、カタクリ、アカネスミレ、シコクス

ミレほか。

〔担当〕勝山輝男・木場英久・田中徳久

〔協力〕植物ボランティア

第27巻 トピックス『地学W杯2006ドイツ標本』

〔展示期間〕2006年5月26日～11月17日

〔展示内容〕

サッカーワールドカップドイツ大会にちなんで、当館に収蔵されている地学標本(岩石・鉱物・化石)の中から、ドイツで産出した標本を展示した。また、ワールドカップ出場国の地理的および地質学的情報についてもパネル展示を行なった。

〔展示資料〕

化石(ウミユリ、三葉虫、ベレムナイト、トリゴニア、アンモナイト、始祖鳥ほか)。鉱物(水晶、螢石、重晶石、黄鉄鉱、しのぶ石ほか)。岩石(ザクロ石カンラン岩、フォノライト、スエバイト、シャッターコーン)。

〔担当〕山下浩之・石浜佐栄子・笠間友博

〔協力〕地学ボランティア

第27巻 トピックス『西南日本の帯状構造』

〔展示期間〕2006年11月17日～

〔展示内容〕

日本列島の地質を、同じような時代にできた同じような地層や岩石にまとめてみると、帯のように並んでいることが知られている。特に西南日本では、何本もの帯が東西に細長く伸びていて、日本海側から太平洋側に向かって並んでいる。このような西南日本の帯状構造をつくっている岩石を、場所ごと、種類ごとに紹介した。また、日本列島がどんな岩石でできているのか、それらの岩石がどうやって日本列島をつくるようになったのか等についてもあわせて解説した。

〔展示資料〕

玄武岩、はんれい岩、サヌカイト、角閃石ダイサイト、花崗岩、球状花崗岩、砂岩、泥岩、赤色頁岩、石灰岩、チャート、赤白珪石、変麻岩、緑色片岩、エクロジャイト、紅れん石石英片岩、藍閃石片岩、緑れん石片岩、石墨片岩、絹雲母片岩ほか。

〔担当〕石浜佐栄子・山下浩之

〔協力〕地学ボランティア



展示の様子(第27巻トピックス『西南日本の帯状構造』)

2.1.3. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」前にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報を提供するウォールケースが設置されている。

情報展示パネル

〔展示内容〕 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

〔展示更新〕 随時

〔担当〕 新井一政・博物館友の会広報部

ウォールケース

最長3か月を目安に、最新の情報を提供することを目的として展示替えを行なった。

ティラノサウルス・レックスの魅力

〔展示内容〕

2005年に命名100周年を迎えた、世界で最も有名な肉食恐竜、ティラノサウルス・レックス(*T. rex*)に魅せられた、サイエンス・アーティスト大内健氏の作品を紹介し、ティラノサウルス・レックス(*T. rex*)の魅力を紹介した。同時に、ティラノサウルスに関して最近の研究でわかってきたこと、ティラノサウルス科恐竜の歯の化石を展示した。

〔展示期間〕 2006年4月5日～6月14日

〔展示資料〕

木彫塑1点(*T. rex* 頭部)、樹脂彫塑3点(*T. rex* 頭骨)、絵画3点(*T. rex* 骨格、摂食風景・走行風景)。恐竜の歯の化石3点(アルバートサウルス・リブラツス、ダスプレトサウルス・トロスス、ナノティランヌス・アンケンシス)。

〔担当〕 大内 健 (Atelier Ken)・大島光春

〔協力〕 佐藤武宏

広報誌「自然科学のとびら」45号とその関連資料

〔展示内容〕

広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料を展示した。

〔展示期間〕 2006年6月16日～7月13日

〔展示資料〕

「自然科学のとびら」45号の拡大版、解説パネル、「自然科学のとびら」45号。雑誌『NHK 趣味の園芸』2004年7月号、書籍『日本の野生植物 コケ』、『原色日本藓苔類図鑑』、『フィールド図鑑 コケ』。カルガモ剥製標本、チョウゲンボウ剥製標本、シジュウカラ剥製標本、ツバメ剥製標本、ハクセキレイ剥製標本、メジロ剥製標本、スズメ剥製標本、カワセミ剥製標本。アルジェリア産“砂漠のバラ”(石膏)標本。ヨロイモグラゴキブリ2点、ヒメマルゴキブリ2点、オオルリゴキブリの1種2点、ニジイロゴキブリの1種2点、ドクロ(ブラベルス)ゴキブリの1種2点、クロゴキブリ2点(成虫1点、幼虫1点)。



展示の様子(神奈川県レッドデータ生物(第1部:脊椎動物)より剥製・液浸標本)

オオゴキブリ2点。

〔担当〕 篠崎淑子・加藤ゆき・平田大二・高桑正敏・佐藤武宏

〔協力〕 菊川まゆ子・木場英久

神奈川県レッドデータ生物(第1部:脊椎動物)

〔展示内容〕

神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006の刊行にあわせて、レッドデータ生物調査の成果、レッドデータ生物資料を紹介した。第1部では、脊椎動物について展示を実施した。

〔展示期間〕 2006年7月14日～8月19日

〔展示資料〕

解説パネル3点(レッドデータブックの概要2点、レッドデータ種に関する統計資料)。レッドデータブック調査報告書(書籍)。哺乳類剥製(ホンダモモンガ、ヒメヒミズ、コテングコウモリ、テングコウモリ、コキクガシラコウモリ、ヒナコウモリ、モモジロコウモリ、カヤネズミ、ハタネズミ、カワネズミ各1点)。鳥類剥製標本(ウミウ、ヤマシギ、タゲリ、オオアカゲラ、ツバメ各1点)、鳥類剥製標本(ミゾゴイ、ヨタカ、ヒクイナ各1点)。両生類液浸標本(モリアオガエル1点、アカハライモリ1点2個体)。魚類液浸標本(ギバチ1点、ミヤコタナゴ1点、ヤリタナゴ1点、ゼニタナゴ1点、ホトケドジョウ1点6個体、メダカ1点6個体)。

〔担当〕 木場英久・広谷洋子・山口佳秀・瀬能 宏・加藤ゆき・高桑正敏・勝山輝男

神奈川県レッドデータ生物(第2部:植物)

〔展示内容〕

神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006の刊行にあわせて、レッドデータ生物調査の成果、レッドデータ生物資料を紹介した。第2部では、植物について展示を実施した。

〔展示期間〕 2006年8月20日～9月21日

〔展示資料〕

解説パネル3点(レッドデータブックの概要2点、レ

ドデータ種に関する統計資料)。レッドデータブック調査報告書(書籍)。植物群落写真資料2点(真鶴半島の照葉樹林、仙石原湿原と台ヶ岳のススキ草原)。コケ植物写真資料4点(コウヤノマンネングサ、ノグチサキジロゴケ、オオタマコモチイトゴケ、ヤスダゴケ)。菌類標本3点(ケシボウズタケ属の一種、ヒノキアスナクロクロベテングスビョウキン、タブノキキハダカビ)。維管束植物写真資料3点(キキョウ、ルリソウ、カワラノギク)、維管束植物さく用標本5点(ミシマサイコ、ヒメシオン、ホソバイヌタデ、ハマウツボ、アズマギク)。

[担当] 木場英久・勝山輝男・田中徳久・出川洋介・高桑正敏

[協力] 2006年度博物館実習生

神奈川県レッドデータ生物(第3部:昆虫)

[展示内容]

神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006の刊行にあわせて、レッドデータ生物調査の成果、レッドデータ生物資料を紹介した。第3部では、昆虫について展示を実施した。

[展示期間] 2006年9月22日～10月31日

[展示資料]

解説パネル3点(レッドデータブックの概要2点、レッドデータ種に関する統計資料)。レッドデータブック調査報告書(書籍)。写真資料8点(タガメ、ミヤマシジミ、ゲンゴロウ、コムラサキ、キバネツノトンボ、アオヤンマ(石川一氏撮影)、カワラバタ、アサカミキリ)。すでに絶滅してからかなり時間が経過した絶滅種の標本(タガメ2点、ヒメキシゲンゴロウ3点、ゲンゴロウ2点、コガタノゲンゴロウ2点、オオヒラタツクリゴミムシ2点、ヒトツメアオゴミムシ2点、アカガネオサムシ1点、オオキトンボ2点、オオセスジイトトンボ1点、オオモノサシトンボ2点、シラホシハナムグリ1点、ヒメシジミ2点)。この10年で新たに絶滅した種の標本(チャイロシマチビゲンゴロウ2点、キヒロコガシラミズムシ3点、カミヤコガシラミズムシ3点、ヒメイトトンボ2点、キトンボ2点、ミヤマシジミ2点、ツマグロキチョウ2点)。残る産地が1～数ヶ所の種の標本(ヤマキチョウ2点、ヒメシロチョウ2点、ウラギンズジヒョウモン2点、ヘリグロチャバネセセリ1点、カワラバタ2点、ホソハンミョウ2点、ハネナシアメンボ2点、エサキアメンボ1点、オオイトトンボ2点、コサナエ1点、ネアカヨシヤンマ1点、ガムシ2点、コオイムシ2点、シマゲンゴロウ2点、クロゲンゴロウ2点)。この10年で再発見された種の標本(オオサカアオゴミムシ3点、キボシキシゲンゴロウ4点、マルガタゲンゴロウ2点、アオヤンマ1点、キヒロサナエ2点、スジグロチャバネセセリ1点、アサカミキリ3点)。

[担当] 木場英久・荻部治紀・高桑正敏

[協力] 石川 一

広報誌「自然科学のとびら」46号とその関連資料

[展示内容]

広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、



展示の様子(広報誌「自然科学のとびら」46号とその関連資料)

あわせて本文中で紹介した資料、関連資料を展示した。

[展示期間] 2006年11月1日～12月14日

[展示資料]

「自然科学のとびら」46号の拡大版、解説パネル、「自然科学のとびら」46号。雑誌『ナショナルジオグラフィックジャパン』2006年8月号、雑誌『月刊たぐさのふしぎ』2006年7月号(クサレケカビのクー)。アオバト剥製標本1点。リップルマークの岩石標本1点、実験室で作ったリップルマーク(ウェーブリップル作成実験水槽)、書籍『Principles of Geology I, II, III』、書籍『地球の歴史を読みとく』。ハブスオウギハクジラの頭骨標本1点。大理蒼山の大理石標本1点、古生代の石灰岩標本1点、メコン川中流域の砂標本、メコン川中流の岩石標本2点。写真パネル4点(大理石の掘削路頭、メコン川の河原、メコン川の川岸に露出する古生層、メコン川がつくったV字谷)。

[担当] 篠崎淑子・加藤ゆき・石浜佐栄子・樽 創・松島義章・木場英久・佐藤武宏

[協力] 菊川まゆ子

広報誌「自然科学のとびら」47号とその関連資料

[展示内容]

広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料を展示した。

[展示期間] 2006年12月15日～2007年2月15日

[展示資料]

「自然科学のとびら」47号の拡大版、解説パネル、「自然科学のとびら」47号。雑誌『蝶と蛾』12巻(1961年)、玉虫厨子写真パネル。解説パネル『展示室で楽しむ虹色』。チャート標本4点(山口県岩国市産三畳紀、愛知県岩国市産ジュラ紀、オーストラリア西オーストラリア州産太古代、エジプト共和国リビア砂漠産)。チャート写真2点。企画展「パノラマにつぼん—地球観測衛星の魅力—」紹介パネル2点。ホンダタヌキ晒し骨格標本1個。体分一式、ホンダタヌキなめし皮標本1点、アカネズミ皮標本1点、アカネズミ仮剥製標本1点、ダイアナモンキー剥製標本1点。

[担当] 篠崎淑子・田口公則・斎藤靖二・石浜佐栄子・新井田秀一・広谷浩子・佐藤武宏

[協力] 菊川まゆ子・木場英久・平田大二

海洋研究開発機構と地震研究の最先端の紹介

[展示内容]

海洋科学、地球科学に関する総合的な研究を行っている、独立行政法人 海洋研究開発機構と、スーパーコンピュータを使った地震研究の最先端を紹介した。この展示は、公開講演会「スーパーコンピュータ 地球シミュレータでみる巨大地震」の関連展示として実施した。

[展示期間] 2007年2月16日～3月30日

[展示資料]

解説パネル5点(海洋研究開発機構の紹介・調査船

と施設の紹介・地震シミュレーションの紹介・スマトラ沖巨大地震のシミュレーションの紹介・将来の地震予測の展望の紹介)。「地震の化石」ともいえるシュードタキライトのサンプル2点。JAMSTEC IFREE(「ちきゅう」によって調査・研究を行う研究組織)の紹介リーフレット、JAMSTEC 広報誌。

[担当] 佐藤武宏・平田大二・本多美穂

[協力] 独立行政法人海洋研究開発機構・木村恭子

2.1.4. エントランスホール

[展示内容]

「記念写真コーナー」としてエントランスホール・シアター入口付近にアラスカヒグマを展示している。この標本の背景には現地の風景写真が大きく飾られ、脇には写真撮影用にステージを設置している。ウェルカムベアとして人気を

博している。

[展示期間] 2005年11月3日～

[展示資料] アラスカヒグマ本剥製

[担当] 広谷浩子

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2006年度は特別展を1回、企画展を1回開催した。

なお、開館以来の開催実績に関しては、資料の項(97～98ページ)に掲載した。

2.2.1. 特別展

ふしぎな生きもの 菌類 ～動物? 植物? それとも?～

[開催期間]

2005年7月15日(土)～11月5日(日) 106日間

[会場] 特別展示室

[協力] 小田急グループ、JR 東日本横浜支社小田原地区

[展示担当] 出川洋介、(学芸ボランティア菌類グループ)、勝山輝男、木場英久、田中徳久、新井田秀一、瀬能 宏、橋本隆、西尾雄三、本多美穂

[内容]

食用キノコ、発酵食品、薬品など、私たちの生活は菌類に支えられているが、他方、病気や腐敗の原因にもなる菌類には恐ろしいイメージもある。しかし、多くの菌類は多様な姿、生き様を見せながら自然界の重要な一員として生きている。身の周りにたくさん生きているも関わらず、普段、見落とされがちな、菌類の意外な魅力を伝え、より深い自然の理解を促すことを目的とする。

[展示項目]

I キノコの世界(菌類ボランティア井上幸子・西村幹雄・佐々木三智雄・槇野かをりほか担当)

巨大キノコの標本(オニフスベ、ニオウシメジ、世界最大のキノコ?ナラタケ)、菌類が生える森林林床のジ

オラマ、キノコ曼荼羅(伊沢正名氏撮影)、キノコの生き方(森の掃除役腐生菌、木とともに生きる共生菌、ちゃっかり者寄生菌)、毒キノコに注意(毒キノコの横綱テングタケ科の紹介)、入生田菌類相調査の紹介(身近に見られる代表的なキノコ)、今関六也氏コレクション(肖像画、標本、原稿、原図、道具類など)、高橋春樹氏コレクション(神奈川県内から新種記載されたキノコ標本と写真)、神奈川県ゆかりの現役キノコ研究者(城川四郎氏、井口潔氏、常盤俊之氏)の紹介。

II 変形菌の世界(菌類ボランティア矢野倫子・矢野清志・武山育子ほか担当)

変形菌を見つけてみよう(覗きケース内のミニジオラマ)、巨大アメーバの不思議(行灯ケース内での生きた変形体の展示)、変形菌とは何か(子実体拡大模型、アメーバから子実体への変化過程の模型、発生地ミニジオラマ、電子顕微鏡写真など)、いろいろな形の変形菌(標本、拡大模型)、山本幸憲氏コレクション(標本)、変形菌の野外観察方法、日本変形菌研究会の紹介、変わった基物上に発生した変形菌の覗き観察コーナー(電話器、スポンジ上など)、神奈川県産の変形菌標本(新産種希少種など)、変形菌にまつわる人々(南



展示の様子(キノコ曼荼羅)

方熊楠、昭和天皇)、落合英二氏コレクション(標本、書簡)、変形菌曼荼羅(伊沢正名氏撮影の組写真パネル)、変形菌拡大模型(アオモジホコリ、シワホネホコリ、ウツボホコリ、タマジクホコリほか)。

III カビの世界(菌類ボランティア酒井きみ・淵上 誠ほか担当)

悪いカビと良いカビ(きらわれ者のカビたち、役に立つカビたちの並列紹介)、不思議なカビたち(トムライカビ、エニグマトミクス)、自然界に行き渡るカビの素顔(植物および動物の寄生菌、共生菌、腐生菌の写真パネル、大型標本、模型、椿啓介氏など研究者の紹介)、カビ観察のすすめ(身近に見られるカビの標本、培養株、釣菌法の紹介、カビ拡大模型(コウジカビ、ハイイロカビ、クサレケカビ、トムライカビほか))。

IV 菌類からのメッセージ、菌類分類表、まとめのパネル

V 菌類を楽しむ、あそび広場(菌類ボランティア木村洋子・樺沢雄司・飯田 強・飯田佳津子・白鳥元美・滝田睦夫・岡はま子・福井道子ほか担当)

卓上工作コーナー(キノコの塗り絵葉書、菌類の生活史を理解するためのパタパタ漫画作成)、キノコ模型による情報掲示板、巨大菌類模型(ドクツルタケ、キヌガサタケ、アカイカタケ、ケカビ)、キノコグッズ(編みぐるみ、きのこアート作品、絵葉書、彫金細工、クッション、装飾品、食器、変形菌カルタ、キノコ絵本など)、たべて楽しむキノコ(世界各地のキノコ食材、横浜中華街の食材菌類)、発酵食品に欠かせないカビ(郷土の味噌マップ、世界で使われるカビの分布図、資料)。

[展示室内映像上映]

ハイケース内のスクリーンでの上映。1. 身近な菌類の観察番組(約5分)(菌類ボランティア大坪二郎、小出 奏ほか作成)、2. 代表的な菌類の静止画像紹介プログラム(約5分)(菌類ボランティア淵上 誠作成)。

展示室床面への投射による上映(合計約5分)。1. 変形体の動き、原形質流動、アメーバから変形体への変化(日本変形菌研究会茨木淳雄氏、亀田昌三氏撮影)。2. カキノミタケの成長(渡辺庸子氏、鷲塚恭子氏撮影)。

[展示点数] 約700点

[入場者数] 72,507人

[関連行事]

キノコ、変形菌、カビそれぞれをテーマとする以下のようないくつかの行事を実施した。

座談会「カビの絵本ができるまで」

実施日: 2006年7月17日(土)

出席者: 伊沢正名(写真職人)・越智典子(作家)・山形昌也(福音館書店)

司会: 出川洋介

2006年6月に福音館書店より刊行された菌類を題材とした子供向け絵本、「クサレケカビのクー」の製作過程をエントランスホールに設けたステージで紹介。小田原市青少年課の高校生による、カビを模した風船作成協力を得た。

講演会「分解者菌類に関する講演」

実施日: 2006年10月15日(日)

講師: 伊沢正名(写真職人)

講義室でのスライド上映と、菌類による分解の役割についてのお話し。

講座「夏休み菌類自由研究指導講座」

実施日: 2006年8月1日(火) 8月27日(日)

講師: 矢野嵩典・中島淳志・佐藤 拓・木村元美・森川宏輝・大下航平・小倉美紀(菌類ボランティアグループジュニアメンバー)・出川洋介

夏休みの自由研究課題と観察材料を与え、月末に、研究のまとめ方を指導。小学生～高校生スタッフがジュニア講師として過去に取り組んだ自由研究を紹介、指導助手をした。

講座「身近な材料でキノコを栽培してみよう」

実施日: 2006年9月17日(日)

講師: 斎藤 茂(元 新潟県サイエンスリーダー)

書き損じの習字紙と、米ぬかを用い、イチゴパック中に菌床を作り、自宅に持ち帰ってキノコの発生を観察した。

講義「キノコの分類学セミナー中級編」

実施日: 2006年9月22日

講師: 高橋春樹(日本菌学会)

実習実験室において、神奈川県内から記載発表されたキノコおよび、最近の研究成果についての講義。



講義・観察会「変形菌を観察してみよう」の様子

講義・観察会「変形菌を探してみよう」

実施日：2006年9月30日(土)・10月1日(日)

講師：川上新一、松本 淳、鈴木 博、東雲順子、
小林美紀、小林美山ほか(日本変形菌研究会有志)

実習実験室で、講義、顕微鏡観察実習後、丸山から
紹太寺界隈で野外観察。

講座「変形菌観察体験ミニ講座」

実施日：2006年10月15日ほか数回

講師：菌類ボランティア矢野倫子・武山育子・木村孝浩・
森川宏輝ほか

展示室内に、大型バットに変形菌子実体の付着した
落葉を敷き詰めたものを用意し、変形菌を探し、標本
を作製、卓上で顕微鏡観察を体験。

観察会「菌類ミニ観察会」

実施日：2006年10月29日ほか数回

博物館玄関に集合し、一時間程度、前庭に見られる

菌類を観察。

講演会「"菌類感謝の日"」

実施日：2006年11月4日(土)

講師：高田正樹(神奈川工科大)、内藤 敦(元 三共
製薬)

普段の生活の中で受けている菌類からの恩恵をかえ
りみ、菌類に感謝する内容の二演題の講演。第二部は、
「発酵食品の夕べ」と題し、サロンド小田原と位置づけ
て開催した(菌類ボランティア矢野倫子・井上幸子・武
山育子・小倉晶子・赤堀千里)。

その他、特別展にちなんで、ミュージアムショップでの
菌類書籍(約10点)、菌類グッズの販売、レストランで
のきのこ料理メニュー(自然環境保全センターの協力を
得て、小田原市内の農家により生産されたヤナギマツタ
ケ栽培品を使ったソバ、パスタなど)の提供を実施。

2.2.2. 企画展

パノラマにつぼん ～地球観測衛星の魅力～

[開催期間]

2006年12月9日(土)～2007年2月25日(日)
64日間

[会場] 特別展示室

[主催] 生命の星・地球博物館

[協力] JR 東日本横浜支社小田原地区・小田急グループ

[展示担当] 新井田秀一

[内容]

見たことがあると思っけていても、じつはあまりよく見て
いない日本列島の姿。知っけていっと思っけていても、じつ
はあまりよく覚えていっない日本列島の地形。宇宙から眺め
ると、海岸線がふちどる日本の形は、いっただいどのように
見えるのでしょうか。長くのびる山並み、独立してそびえ
る火山、山地にぎざまれた無数の谷、盆地や湖、平野を
流れる河川、私たちが生活している市や町など、地面に
ひろがる複雑な凸凹はどのように見えるのでしょうか。

このような疑問に、地球観測衛星はみごとに答えてくれ
ます。いくつもの人工衛星が、数100 kmも離れた上空
から地球の表面がどのように変化しているかを、ずっと観
察しつづけています。だから、人工衛星のデータを継続
的に解析することは、地球の環境変化を知るのにとても
重要です。

この企画展では、日本の地形や環境の面白いところを
高さや位置の関係をつかみやすいように衛星画像立体化
した鳥瞰図や、赤青メガネをかけると飛び出して見える余
色立体図など48点の画像によってを作成・展示しました。
ここでは、衛星に搭乗したつもりで、宇宙から見た日本
列島を楽しんで下さい。

(特別展示室「展示紹介」の内容を転記)

[展示項目]

1. 飛び出せニッポン

展示室床面に貼られた余色立体図「南アルプスから
関東平野」の上を赤青メガネをかけながら歩くことで、
平坦な関東平野と起伏の激しい南アルプスから関東山
地の地形を対比する。床面の余色立体図の表面は、P
ET樹脂製の透明フィルムにて保護し、土足のまま歩く
ことを可能にした。

2. 宇宙から見る

私たちの住む神奈川を始め、日本各地を衛星画像で
紹介した。地形や環境を立体的に認識できるように、
衛星画像を使った鳥瞰図(宙瞰図)や余色立体図を用
いた展示とした。

丹沢山地と箱根火山、神奈川県鳥瞰図、余色立体
図「丹沢」、種子島・屋久島、大山周辺、北西から見
た四国、京都・大阪・神戸、名古屋遠景、日本アルプ



展示の様子(中央は飛び出せニッポン・周囲は宇宙か
ら見るの展示)

スと糸魚川—静岡構造線、西南日本、東北日本、余色立体図「新潟中部」、宇宙から見た関東、阿武隈高地、襟裳岬、支笏・洞爺など44点。

3. 地球を調べる

この「パノラマにつぼん」で紹介している衛星画像の仕組み、すなわち「リモートセンシング」について、その仕組みとメリットを紹介した。

地球観測の方法、画像解析、鳥瞰図や余色立体などの解説パネル4点。

〔展示資料点数〕48点

〔入場者数〕15,939人



担当学芸員による展示解説の様子

2.3. 活動報告展およびその他の展示

特定の調査研究や資料収集にかぎらず、広く博物館活動を紹介し、また地域との連携協力の結果としての展示を、当館特別展示室を中心として行なうことがある。

2.3.1. 活動報告展

博物館業務は、調査研究、資料収集、教育普及、展示など、多岐にわたっているが、展示を除いて、その内容を紹介する機会は少ない。そこで、年間の活動を報告する機会を設け、博物館活動、特に学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として、活動報告展を実施している。

マイミュージアム・みんなの活動報告・マイミュージアム写真展

〔開催期間〕2006年3月18日(土)～4月9日(日)
2006年度内の開催日数は8日間(開催期間全体では19日間)

〔会場〕特別展示室

〔内容〕

友の会や講座の受講者など、博物館に集う人達の活動の様子や、成果を展示した。また、博物館に関わる人達が撮影した、「わたしの博物館おすすめスポット」の写真も展示した。

〔入場者数〕2006年度内の入場者数は2,726人(開催期間全体では9,997人)

学芸員の活動報告展

(2005年度の活動報告)

〔開催期間〕2006年4月29日(祝)～5月28日(日)
26日間

〔会場〕特別展示室

〔企画担当〕佐藤武宏

〔展示担当〕新井一政・石浜佐栄子・大島光春・奥野花代子・笠間友博・勝山輝男・加藤ゆき・荻部治紀・木場英久・佐藤武宏・瀬能 宏・高桑正敏・田口公則・田中

徳久・樽 創・出川洋介・新井田秀一・平田大二・広谷浩子・山口佳秀・山下浩之

〔内容〕

各学芸員が特に1つの事業を選んで紹介し、全体として、博物館活動、学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として展示を行なった。また、昨年度受贈した資料のうち、寄贈者への配慮の観点から特に紹介したい資料についても同時に展示を行った。

展示は基本的に昨年度の業務を中心に構成するが、事業の継続性を考え、昨年度以前に収集した資料や活動の紹介も含んでいる。

1. 調査研究事業の紹介

コブヤハズカミキリの動態、深海のカニと貝の関係、相模湾の魚類相、地域の鳥類調査、モグラわなとモグラあな、標本から始まる植物分類学的研究、変な花序を持つハマニンニク、ケカビ目の自然史、箱根火山溶岩類、ジュラ紀の海に起こった大事変、宇宙から見る南アルプス。

2. 資料収集事業の紹介

採集昆虫標本とそれを利用した活動、マンモスの幼



展示の様子(2005年度の学芸員の活動報告展)

体、火山灰データベース。

3. 教育普及事業の紹介

ミュージ・フェスタ、箱根の植物分布研究とそれを利用した普及活動、新生代の研究とそれを利用した普及活動、化石ラボ出張所、河原の石を教材とした普及活動、ミュージアム・リレーの紹介。

4. 展示事業の紹介

ウェルカムベアの展示について。

5. 受贈資料の紹介

化石卓。

〔資料点数〕 約 540 点

〔入場者数〕 12,716 人

みんなの活動報告展

(2006 年度の活動報告)

〔開催期間〕 2007 年 3 月 17 日(土) ～ 5 月 6 日(日)

2006 年度内の開催日数は 12 日間(開期全体では 44 日間)

〔会場〕 特別展示室

〔企画担当〕 佐藤武宏

〔展示担当〕 新井一政・石浜佐栄子・大島光春・奥野花代子・笠間友博・勝山輝男・苅部治紀・木場英久・斎藤靖二・佐藤武宏・瀬能 宏・高桑正敏・田口公則・田中徳久・樽 創・出川洋介・新井田秀一・平田大二・広谷浩子・山口佳秀・山下浩之

〔内容〕

各学芸員が特に 1 つの事業を選んで紹介し、全体として、博物館活動、学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として展示を行なった。

ただし、個別研究の最終年度にあたっている学芸員については、その成果を発表することを必須とした。

また、博物館教育普及事業に関連して、子ども自然科学ひろばの活動報告、神奈川県立生命の星・地球博物



展示の様子 (2006 年度の学芸員の活動報告展)

館友の会の活動報告を紹介する展示を行なった。

1. 調査研究事業の紹介

コブヤハズカミキリの動態、神奈川県内のカワトンボ類の分類と分布、キサゴ類の対捕食戦略の違い、宮古諸島の沿岸魚類、早川下流域の両生類・爬虫類、箱根地域のコウベモグラ、博物館周辺の哺乳類の生息状況、真菌類の分類学的研究、神奈川県植物誌調査、神奈川県の植物群落、境川遊水地から産出した 12.5 万年前の化石、堆積岩か火成岩か変成岩かが謎の岩石、花こう岩マグマができる条件、箱根火山の火砕密度流、鳥瞰図の科学。

2. 資料収集事業の紹介

ティラノサウルス科化石、西丹沢のザクロ石流紋岩、藤沢市渡内で産出したナウマンゾウ。

3. 教育普及事業の紹介

地層とは何か、博物館のユニバーサル化とネットワーク化、「自然科学のとびら」ができるまで。

4. 関連事業の紹介。

子ども自然科学ひろばの活動報告、神奈川県立生命の星・地球博物館友の会の活動報告。

〔資料点数〕 約 460 点

〔入場者数〕 2006 年度内の入場者数は 4,700 人(開催期間全体では 16,883 人)

2.3.2. その他の展示

自然科学作品展

〔開催期間〕 2007 年 3 月 24 日(土) ～ 4 月 8 日(日)

2006 年度内の開催日数は 7 日間(開催期間全体では 14 日間)

〔会場〕 特別展示室

〔後援〕 小田原市教育委員会

〔企画担当〕 中島 功

〔展示担当〕 瀬能 宏

〔内容〕

児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みへの支援・奨励を目的に「子ども自然科学ひろば」事業の一環として、自然科学分野における研究作品を当館に集め、作品展を開催した。全作品に学芸員及び学習指導員のコメントを作成添付した。

〔作品〕 「小田原市児童・生徒科学展覧会」出品作品の

うち、22 校 59 点を展示(内訳: 小学校 12 校 37 点、中学校 10 校 22 点)

〔作品分野〕 植物 16 点・動物および昆虫 8 点・菌類 5 点・地学 5 点・環境 9 点・その他 16 点

〔入場者数〕 2006 年度内の入場者数は 2,070 人(開催期間全体では 3,779 人)



展示の様子 (自然科学作品展)

2.4. ミュージアムシアター

通常は、来館者に対し当館の展示を理解する手助けをするため、ハイビジョン映像やインタラクティブクイズを上映している。また、学会や講演会開催時においてはメインの会場としても利用されている。

2.4.1. シアターの概要

座席は308席。車椅子用のスペースは5席。中央部にある115席（車椅子用5席を含む）に、インタラクティブクイズ回答用の5選択押しボタンスイッチを設置してある。

照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などを照らし出すためのスポット照明を用意している。

上映設備は、200インチ・リアプロジェクション方式を採用したハイビジョンシステムを中心に、35mmスライド映写機、16mmフィルム映写機を備えている。ハイビジョン映像の送出は、フル規格やMUSE規格レーザーディスクプレーヤーから行う。また、テレビやビデオ、レーザーディスクなどはハイビジョンに変換してから上映する仕組み

となっている。学会・講演会用に、実物投影機やフラットスクリーン、電子白板も備え、これらもハイビジョン映像として上映可能である。これらの操作は、ステージ上や映写室の操作卓にある簡単なコントロールパネルで行う。

同時通訳用ブースを用意しており、国際的な催し物にも対応できる。同時通訳された内容は、ワイヤレス方式のレシーバーによって来館者に伝えられる。通常上映しているハイビジョン番組はこの仕組みを使って、英語訳とハンガリー語のナレーションを聞くことができる。

学会・講演会などを記録するためのテレビカメラが、固定式2台、移動式1台用意され、カット編集ができるように編集機が設置されている。

2.4.2. シアターの上映番組

ミュージアムシアターでは、ハイビジョンを2本（各15分）と、インタラクティブクイズを1本（20分）の計3本を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで、サブタイトルとして「奇跡の旅立ち」と「生命の輪舞」という2本となっている。「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

インタラクティブクイズは、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題したクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくといったストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。

インタラクティブクイズは、案内員がクイズの進行を行い、ハイビジョンは、自動的に無人上映をしている。

月別の上映状況を表で示す。

インタラクティブクイズのコース別利用状況

コース番号	テーマ	選択した人数	割合 (%)	テーマ別上映回数	正解率 (%)		
					第1問	第2問	第3問
1	地球は生きている	5,179	14.61	27	18.51	48.15	74.07
2	植物は変身の天才だ!	3,863	10.90	20	10.00	85.00	35.00
3	魚のサバイバル	10,208	28.79	257	98.03	97.64	47.24
4	動物の足跡捜査隊	9,048	25.52	180	23.16	96.61	18.64
5	ヒトの謎を科学する	7,154	20.18	95	73.68	93.68	27.37

インタラクティブクイズ観覧者と参加者の関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
総入館者	22,471	26,842	16,195	24,669	38,472	17,701	26,325	19,635	8,190	10,852	13,228	16,969	241,549
実施回数	49	53	37	63	93	45	53	41	31	30	37	47	579
観覧者	4,063	5,874	3,193	5,734	10,652	2,978	3,973	2,493	1,550	2,283	2,187	3,855	48,835
観覧率 (%)	18.08	21.88	19.72	23.24	27.69	16.82	15.09	12.70	18.93	21.04	16.53	22.72	20.22
クイズ参加者	3,341	4,172	2,560	4,450	8,139	2,543	3,341	2,215	1,441	2,013	1,910	3,188	39,313
参加率 (%)	82.23	71.02	80.18	77.61	76.41	85.39	84.09	88.85	92.97	88.17	87.33	82.70	80.50

観覧率＝インタラクティブ観覧者数／総入館者数

参加率＝クイズ参加者数／インタラクティブ観覧者数

2.4.3. シアターの上映回数

通常は、午前・午後それぞれ各番組1回ずつ、計6回上映する。

4月1日～2日、4月29日～5月7日、7月20日～8月31日、3月24日～31日の多客期については、インタラクティブクイズを午後に1回増やし、計7回の上映を行った。

シアター上映プログラム

	上映回	時間	タイトル
通常	1	9:30～9:45	奇跡の旅立ち
	2	10:30～10:45	生命の輪舞
	3	11:30～11:50	インタラクティブ
	4	13:00～13:20	インタラクティブ
	5	14:00～14:15	奇跡の旅立ち
	6	15:00～15:15	生命の輪舞
多客期	1	9:30～9:45	奇跡の旅立ち
	2	10:30～10:45	生命の輪舞
	3	11:30～11:50	インタラクティブ
	4	12:30～12:50	インタラクティブ
	5	13:30～13:50	インタラクティブ
	6	14:30～14:45	奇跡の旅立ち
	7	15:30～15:45	生命の輪舞

2.4.4. その他の利用

講演会に使用し、学会などに会場を提供している。シアターを講演会場などに使用している時は、ハイビジョン映像をエントランスホールに置いたテレビジョンにて上映する。

2.5. ビデオライブラリー

ミュージアムライブラリーに設置されている2つのビデオブースで、8mmビデオのビデオライブラリーを公開している。来館者は、室内に設置されているプログラム一覧より、視聴したい番組を選択するシステムである。

2.5.1. 上映概況

ビデオライブラリーの月別上映回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上映回数	463	575	341	411	604	228	377	345	149	158	140	380	4,171

2.5.2. 投稿ビデオ

県民からの投稿ビデオを、ミュージアムライブラリーのビデオブースにて上映する。博物館と県民との関係をより深め、より開かれた博物館としての効果を期待するとともに、ビデオライブラリーの充実を図ることが目的である。1年を四半期に分け、当館の学芸員が審査できる範囲の内容(動

物、植物、古生物、地質および博物館活動)に限り募集を行う。投稿されたビデオは、当館に設置の投稿ビデオ審査委員会にて、上映の可否の審議を行う。表に投稿ビデオの月別の上映回数を示した。

投稿ビデオの月別上映回数

タイトル	作成者 (敬称略)	上映 開始	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
岩石ものがたり	加藤秀夫	2002年 8月	3	9	2	6	9	2	3	3	1	2	0	4	44
北限に匂うハマユウの花	加藤秀夫	2002年 11月	1	2	0	2	1	2	1	1	0	0	3	0	13
ラヴリィ BABY	加藤秀夫	2003年 2月	2	8	5	5	6	0	3	2	0	1	2	1	35
人と象が共存するスリランカ	中村正治	2003年 2月	0	0	1	3	1	1	3	0	0	0	0	0	9
ひょうたんの鉢作り	田村幸三	2003年 2月	1	2	0	2	2	1	2	0	2	3	1	1	17
〔特別編〕真鶴町立岩小学校版 怪人ネイチャーランドの挑戦	海野和彦	2003年 5月	12	21	13	14	20	8	8	11	4	2	5	9	127
鎌倉花暦	佐藤伸一	2003年 11月	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
子供と動物	小川名隆義	2003年 11月	4	3	1	2	6	3	2	3	4	2	4	1	35
チョウの変身 ーキアゲハの誕生ー	吉田 基	2003年 11月	1	1	3	1	6	1	1	2	0	1	0	0	17
豊かな伊豆の海 夏～秋編	宮村佳代子	2004年 5月	2	1	3	2	3	2	3	1	0	0	2	1	20
Pet Creatures	足柄台 中学校	2005年 7月	4	9	5	8	2	2	3	0	0	0	0	1	34
無題 (Kungkungan Bay Report)	高梨正暢	2005年 7月	2	1	0	5	3	2	0	1	0	1	1	10	26
丹沢オウムガイ探検隊	門田真人 鷲山龍太郎	2005年 8月	0	1	3	1	3	1	0	0	0	0	1	1	11
合計			33	58	36	51	63	25	29	24	12	12	19	29	391

2.6. ミュース・フェスタ 2007

「開かれた博物館」としての活動の充実と一層の発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2.6.1. 開催概要

[日時] 2007年3月17日(土)・18日(日)の2日間

[場所] エントランスホール・ミュージアムシアター・特別
展示室・講義室

[参加総人数]

3,327名(17日は1,841名・18日は1,487名)。

[運営体制]

参加団体：小田原市入生田自治会、小田原市教育委員会、
生命の星・地球博物館友の会、当館。

[会議]

開館記念日事業懇話会

平成18年7月13日(木)

開館記念日事業実行委員会

第1回 平成18年9月8日(金)

第2回 平成18年10月5日(木)

第3回 平成18年11月29日(水)

第4回 平成19年1月16日(火)

第5回 平成19年3月2日(金)

2.6.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー～入生田祭囃子

(博物館・小田原市入生田自治会共催)

[日時] 2006年3月17日(土) 9時20分～

[場所] エントランスホール

[内容]

フェスタ2006の開催を祝って、地元の入生田山神社子供祭囃子のメンバーがお囃子を演奏。

[参加者] 70名

2. 交流会・自然遊び～自然の中子どもたち(博物館主催)

[日時] 2006年3月17日(土) 13時00分～16時30分

[場所] ミュージアムシアター

[プログラム]

開会の辞(長島敏雄)

自然遊びについてのアンケート結果報告(田口公則)

地元入生田の昔の遊びについてのインタビュー報告(広谷浩子)

映画「森の学校上映」(友の会主催)

講評(斎藤靖二)

[参加者] 150名

3. 関連展示・みんなの活動報告展(博物館主催)

[開催期間] 2007年3月17日(土)～5月6日(日)

[場所] 特別展示室

[主な展示資料]

学芸員の研究成果・活動紹介、友の会と子ども自然科学ひろばの活動紹介など。

[入場者] 3月17・18日の2日間で1,870名(入場無料)

4. 石垣山の歴史と自然探訪(小田原市郷土文化館主催)

[日時] 2006年3月17日(土) 9時20分～14時00分

[場所] 石垣山周辺

[内容]

石垣山周辺の史跡と動植物の観察。

5. すてきな折り紙(小田原市小田原市青少年課主催)

[日時] 2006年3月17日(土) 10時～12時・13時～15時

[場所] 講義室



オープニングセレモニー～入生田祭囃子の様子



クレヨン森保育園の園児による童謡合唱の様子

[内容]

折り紙作家の坂田英昭氏の指導による、恐竜や花などの折り紙作り。

[参加者]

午前の部は事前申込20名、午後の部は自由参加。

6. オカリナ演奏(博物館主催)

[日時] 2006年3月17日(土) 10時10分～11時10分

[場所] エントランスホール

[内容]

「にじ」によるオカリナのアンサンブル。自然をテーマにした曲を演奏。

[参加者] 80名

7. 童謡合唱(小田原市入生田自治会主催)

[日時] 2006年3月17日(土) 11時30分～12時30分

[場所] ミュージアムシアター

[内容]

クレヨン森保育園の園児による童謡の合唱。

[参加者] 121名(当日参加)

8. 「怪人ネイチャーランドの挑戦」特別上映(博物館主催)

[日時] 2006年3月18日(日) 10時～15時

[場所] ミュージアムシアター

[内容]

既設の上映プログラムである「地球は生きている」、「動物の足跡捜査隊」、「植物は変身の天才だ!」、「どうぶつの親子全員集合」、「魚のサバイバル」、「ヒトの謎を科学する!」の6本を一堂に上映した。

[参加者] のべ8,000名(入場無料)

9. 「お昼休みミニコンサート」(小田原市入生田自治会主催)

[日時] 2006年3月18日(日) 12時～13時

[場所] ミュージアムシアター

[内容]

博物館の地元入生田地区のコラスグループ「エーデルワイス」の合唱。

[参加者] 73名(入場無料)

10. ジュニアリーダーと遊ぼう (小田原市青少年課主催)

[日時] 2006 年 3 月 18 日 (日) 13 時～15 時

[場所] エントランスホール

[内容]

高校生ボランティアがリーダーとなったバルーンアート作り。

11. 子ども自然科学ひろば (博物館主催)

[日時] 2006 年 3 月 17 日 (土)・18 日 (日) 10 時～15 時

[場所] 特別展示室

[内容 (参加者)]

随時参加して、体験ができる 8 本のプログラムを実施した。

「宝石をさがそう! パンニング体験」17 日 (48 名)・18 日 (108 名)

「自然史紙相撲大会」17 日

「顕微鏡でミクロ体験コーナー」17 日・18 日

「ミニステージ・火山噴火実験」18 日 (170 名)

「化石レプリカをつくろう」18 日 (301 名)



高校生ボランティアによるバルーンアート作りの様子



子ども自然科学ひろば (植物のタネで絵を描こう) の様子

「動物探偵集まれ」17 日

「植物で遊ぼう・竹笛、木の実のブローチ作り」17 日・18 日

「植物のタネで絵を描こう」18 日

[参加者] 総数 2,853 名 (17 日は 1,468 名・18 日は 1,385 名) (入場無料)

12. 展示室でクイズ (博物館主催)

[日時]

2006 年 3 月 17 日 (土) 10 時～12 時、3 月 18 日 (日) 10 時～12 時・13 時～15 時。

[場所] エントランスホール

[内容]

博物館の魅力を教えてくれるクイズを頼りにして展示室を探索。

[参加者] 713 名 (17 日は 305 名・18 日は 408 名) (当日参加)

13. 画像の科学 (博物館友の会主催)

[日時] 2006 年 3 月 17 日 (土)・18 日 (日) 10 時～15 時

[場所] 実習実験室

[内容]

昆虫や動物や人の目に画像がどう映るか、色の原理 (写真の原理) を使った実験ショー。

14. パネル展示・お城の石垣の謎を探る

(小田原市郷土文化館主催)

[日時] 2006 年 3 月 17 日 (土)・18 日 (日) 10 時～16 時

[場所] 講義室

[内容]

小田原城や石垣山一夜城の石垣の特徴とその違いや石材の採石・加工の様子を紹介。

15. 手作り民芸品コーナー (小田原市入生田自治会主催)

[日時] 2006 年 3 月 17 日 (土)・18 日 (日) 10 時～15 時

[場所] 講義室

[内容]

シュロの葉で作ったバツタ、箱根細工の玩具などの展示。

16. 箱根独楽・ろくろ実演 (小田原市入生田自治会主催)

[日時] 2006 年 3 月 17 日 (土)・18 日 (日) 10 時～15 時

[場所] 講義室

[内容]

ろくろを使った独楽の絵付けを実演。

17. 地元入生田物産コーナー (小田原市入生田自治会主催)

[日時] 2006 年 3 月 17 日 (土)・18 日 (日) 10 時～15 時

[場所] 講義室

[内容]

地元で採れた作物や民芸品の販売と、山野草の苗プレゼント。

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館を支える学芸員は、県内はもとより、国内外のシンクタンクとしてさまざまな活動を行っている。ここでは、それらの活動を各項目ごとに取りまとめた。基本的には当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。しかし、記録の困難性から取り上げなかった活動も多い。特に各種資料の同定依頼などのレファレンス業務に関しては、ここでは紹介されていないが相当な時間が費やされている。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究 2 テーマ、グループ研究 2 テーマ、個別研究 19 テーマに関する研究を行った。以下、「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

山下浩之・平田大二・新井田秀一・田口公則・笠間友博・石浜佐栄子・萬年一剛・長井雅史・小林 淳・小田義也・川手新一・谷口英嗣・藤本光一郎・棚田俊收・菊川城司・坂寺一洋：箱根火山—箱根火山および箱根地域の新しい形成発達史—

広谷浩子・勝山輝男・出川洋介・荻部治紀・加藤ゆき・広谷浩子・青木淳一・石原龍雄・山口善盛・青木雄司・長縄今日子・稲葉重樹：樹洞の生物学—分布・形成過程に関する研究—

グループ研究

田中徳久・木場英久・勝山輝男：神奈川県内の維管束植物相の特徴と変遷に関する研究—植物分布の解析—
勝山輝男・木場英久・田中徳久・友の会植物グループ 16 名：熱海市岩戸山の維管束植物相

個別研究

高桑正敏：交雑による種の融合—コブヤハズカミキリ属を例にして—

山口佳秀：モグラ類の分布調査—コウベモグラの来た道を探る—

新井一政：早川下流域における両生・は虫類の調査

広谷浩子：調査方法の開発に着目した博物館周辺の哺乳類生息調査

瀬能 宏：小笠原諸島および琉球列島における沿岸性魚類の生物地理学的研究—ミクロネシア・フィリピン・台湾沿岸域との比較から—

荻部治紀：神奈川県内のカワトンボ類の遺伝的研究

佐藤武宏：ダンベイキサゴとキサゴの対捕食戦略の比較

加藤ゆき：神奈川県における希少鳥類の繁殖調査

勝山輝男：小笠原諸島産カヤツリグサ科植物の分類学的研究

田中徳久：神奈川県植物群落データベース—基本データベースの整備—

出川洋介：微小生息地と生活史の解明に基づく真菌類の分類学的研究

大島光春：日本産イノシシ類化石に関する研究

田口公則：三浦半島北部における化学合成化石群集—鎌倉天園シロウリガイ化石—

平田大二：スラブ融解の温度・圧力条件—角閃岩高温高圧融解実験からのアプローチ—

笠間友博：箱根火山から発生した火砕密度流の運搬・堆積メカニズム

新井田秀一：衛星画像と数値標高モデルを用いた地形認識

山下浩之：南フィリピン海パレスペラ海盆のハンレイ岩の岩石学的研究

石浜佐栄子：丹沢地塊衝突時の周辺堆積場の復元—砕屑物供給源の比較検討から—

奥野花代子：誰にでも優しい博物館（ユニバーサル・ミュージアム）をめざして—視覚に障害のある方の博物館利用に関する調査研究—

3.2. 研究発表会

前項 (3.1.) の調査研究事業に関して、その研究計画発表会を 2006 年 4 月 20 日に博物館講義室で開催した。

また、2006 年度の研究成果の発表については、2007 年 3 月 16 日から 5 月 6 日まで特別展示室で開催された「学芸員の活動報告展」の中で研究成果の展示を行い、これに代えた。研究成果の報告は資料の項 (101 ~ 108 ページ) に掲載した。

3.3. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費補助金をはじめ外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者（研究代表者を除く当館の分担者）：研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、資料の項（109～113 ページ）に掲載した。

3.3.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究 (A)

五島政一ほか（平田大二・田口公則）：子どもが主体的に学び、科学を好きになるための教育システムの開発に関する実証的な研究

基盤研究 (B)

平田大二ほか（新井田秀一・山下浩之・田口公則・笠間友博）：自然を理解するための人と博物館のネットワークの構築

甲能直樹（樽 創）：歯の微小摩耗痕および安定同位体と微量元素に基づいた東柱類の食性復元

基盤研究 (B) (1)

松浦啓一ほか（瀬能 宏）：魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究

基盤研究 (B) (2)

高井正成ほか（樽 創）：アジア地域におけるオナガザル上科の進化に関する古生物学的研究

基盤研究 (C)

遠藤秀紀ほか（樽 創）：動物遺残体科学を構築するための自然史博物館協力機構の基盤形成

瀬能 宏：日本産コイ（コイ目コイ科）のルーツ解明と保全へのシナリオ

笠間友博ほか（平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子）：開発で失われた地質情報の収集・公開・教材化

若手研究 (B)

石浜佐栄子：小中学生の「科学の目」育成のための博物館による草の根地学教育の実証的研究

3.3.2. 各種助成金による研究

笹川科学研究助成

広谷浩子：博物館で人類学を学ぶ—博物館の特性をいかしたこどもむけ学習プログラムの作成と実践に関する研究—

東京大学地震研究所所長裁量経費

折橋裕二ほか（平田大二）：超背弧地域における玄武岩質マグマの成因解明：第4のマグマ生成場として

3.3.3. 共同研究・共同施設利用研究

東京大学地震研究所特定共同研究

萬年一剛（山下浩之）：箱根火山のカルデラ構造の解明

京都大学霊長類研究所共同利用

樽 創：現生哺乳類の雌雄差形質と化石哺乳類への応用

3.4. 委託調査等

委託調査について「担当職員氏名：調査名（依頼元）」を順不同で記載した。なお、調査メンバーにおいて館外者の氏名については省略した。

高桑正敏・加藤ゆき・勝山輝男・木場英久・田中徳久・出川洋介：丹沢大山総合調査（神奈川県自然環境保全センター）

佐藤武宏：海洋研究開発機構淡青丸 KT-07-01 次研究航海「深海性底生動物の進化古生物学的研究に関する調査」（東京大学大学院理学系研究科）

3.5. 著作活動・学会発表等

斎藤靖二 地学(堆積学)

[本論文]

Lydens, L., Y. Saito & T. Inoue, 2007. Digital Technology at the National Science Museum, Japan. *Journal of Museum Education*, 3(1): 7-16.

[著作・著書・調査報告書・資料集等]

斎藤靖二・小林和男, 2007. 地球・海, 知恵蔵 2007, pp. 670-678. 朝日新聞社.

斎藤靖二・横山一己・堤 之恭・谷村好洋, 2006. 日本列島の形成. 国立科学博物館叢書 4「日本列島の自然史」, pp.23-40. 東海大学出版会.

[学会発表等]

斎藤靖二, 2006 年 9 月 17 日. 変動帯地質のうえで生きる. 日本地質学会第 113 回学術大会普及シンポジウム, 高知.

高桑正敏 動物学(昆虫類)

[総説]

高桑正敏, 2006. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 9. 甲虫ニュース, (154): 1-7.

高桑正敏, 2007. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 10. 甲虫ニュース, (157): 1-4.

[本論文]

高桑正敏, 2007. ハセガワトラカミキリ酢考〜神奈川県に分布している可能性はあるのか?〜. 神奈川虫報, (158): 2-10.

高桑正敏, 2007. 雑木林におけるシロスジカミキリと好樹液性昆虫はなぜ衰退したか? 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 75-90.

[短報]

高桑正敏, 2006. 故江本健一氏が所蔵されていた日本産ハナノミ標本. 甲虫ニュース, (154): 8.

高桑正敏, 2006. ハンゴンソウから吸汁していたハナカミキリ類. 甲虫ニュース, (154): 26.

高桑正敏, 2006. 埼玉県初記録のクイロヒゲハナノミ. 甲虫ニュース, (154): 28.

高桑正敏・荻部治紀, 2006. 神奈川県箱根におけるトホシニセマルトビハムシの寄主植物とその発見の経緯. 月刊むし, (429): 17-18.

高桑正敏, 2006. 沖縄諸島渡名喜島の 4 月のカミキリ採集品. 甲虫ニュース, (156): 13.

高桑正敏, 2006. 鹿児島県種子島におけるクイロヒゲハナノミ採集例. 甲虫ニュース, (156): 31.

高桑正敏・瀬能 宏, 2006. 千葉県長生村におけるトゲヒゲトビロカミキリの採集例. 房総の昆虫, (37): 22-23.

高桑正敏, 2007. リュウキュウモンハナノミのアカメガシワからの脱出例. 甲虫ニュース, (157): 6.

[論説]

高桑正敏, 2006. 外来生物の問題点は何か—誤った風潮が広まらないために. 科学, 76(9): 895-900.

高桑正敏, 2007. 外来種をどう扱うべきか〜地域甲虫相を検討するに際して〜. 甲虫ニュース, (157): 23-28.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

高桑正敏, 2006. 昆虫類・クモ類総論. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp. 303-305. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; カミキリムシ類, 同書, pp. 395-403.

中村進一・高桑正敏, 2006. チョウ類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp. 405-416. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 高桑正敏・大桃定洋, 2007. 阿武隈山地のハナノミ科甲虫. *InsecTOHOKU*, (19): 2-7.

[普及的著作等]

高桑正敏, 2006. 自然観察目のつけどころ 12 昆虫を探す極意とは?—食べた痕を探すことを例に—. 初等理科教育, 40(8): 50-51.

高桑正敏, 2006. 愛らしいゴキブリたち. 自然科学のとりら, 12(2): 16.

高桑正敏, 2006. 表紙写真解説〜丹沢を東限とするヘリグロホソハナカミキリ〜. 神奈川虫報, (155): ii.

高桑正敏, 2006. 雑学コーナー—マメコガネ—. 私たちの自然, (519): 24.

高桑正敏, 2006. コブヤハズ類調査の楽しさ (2). こぶ通信, (4): 4-6.

高桑正敏, 2006. 表紙写真解説〜房総・三浦半島を東限とするシロヘリハンミョウ〜. 神奈川虫報, (156): ii.

高桑正敏, 2006. 最後まで雨にたたられた屋久島行. 花蝶風月, (123): 7-11.

高桑正敏, 2006. 今はもう遠い昔の思い出? 里山の生き物たち. イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 76-77. 技術評論社, 東京; 地球で最も繁栄した生物群—昆虫—まずはチョウの分布を見る. 同書, pp. 90-91; 長距離移動が苦手?! 分布域が限られる甲虫目の仲間たち. 同書, pp. 94-95; 奇跡の種、ミクラミヤマクワガタはどこから来たのか? 同書, pp. 96-97; 日本の昆虫ミニカタログ. 同書, pp. 100-101; たった 2 年で分布域が 260km も北上・東進した昆虫とは? 同書, pp. 102-103; 外国からやってきた昆虫たち 彼らはどこからきたのか? 同書, pp. 122-123; 外来生物法って何? 同書, p. 134. 高桑正敏, 2006. 雑学コーナー—ナナホシテントウ—. 私たちの自然, (521): 11.

高桑正敏, 2006. 私の虫歴と夢虫 (7) 月刊むし時代(後期). 夢虫, (17): 12-14.

高桑正敏, 2006. われらの仁さんを偲んで. 花蝶風月, (124): 11-15.

- 高桑正敏, 2006. 小宮義璋先生の突然の他界. 甲虫ニュース, (156): 17-18.
- 高桑正敏, 2007. 表紙写真解説～典型的なフォッサ・マグナ要素のハコネアシナガコガネ～. 神奈川虫報, (157): ii.
- 高桑正敏, 2007. 表紙写真解説～仁さんが新種記載したエサキモンキツノカメムシ～. 神奈川虫報, (158): ii. [学会発表等]
- 高桑正敏・小林敏男・中林博之, 2006年11月18日. コブヤハズカミキリ類2種の交雑帯周辺における形質吸収の軌跡. 日本鞘翅学会第19回大会口頭発表, 千葉県立中央博物館.
- 高桑正敏, 2007年1月20日. 神奈川県藤野町のギフチョウ. 全国ギフチョウ・ヒメギフチョウ保全シンポジウム, 岐阜市文化センター.
- 高桑正敏, 2007年3月22日. 神奈川県に定着したアカボシゴマダラからの展望(公募シンポジウム: チョウ類とその生息環境の保全をめぐる問題). 日本生態学会第54回大会, 愛媛大学.
- 広谷浩子 動物学(哺乳類)
- [著作・著書・調査報告書・資料集等]
- 広谷浩子・猪尾武達, 2007. サルからヒトへ—動物としての人間を知る旅—. 21pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- [普及的著作等]
- 広谷浩子, 2006. 自然観察目のつけどころ11 野生動物との幸福な出会いをめざして. 初等理科教育, 40(7): 50-51.
- 広谷浩子, 2006. 哺乳類標本ができるまで. 自然科学のとびら, 12(4): 31-32.
- 広谷浩子, 2006. 野生動物の分布マップ(1) ニホンジカ. イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 70-71. 技術評論社, 東京; ヒグマ、ツキノワグマの分布と有害獣駆除. 同書, p. 73; 野生動物の分布マップ(3) サルの棲息地の世界的な北限—下北半島. 同書, pp. 74-75.
- 広谷浩子, 2007. イノシシー今年は干支であたり年?—. おだわらを歩こう(小田原市郷土文化館だより), 21: 1.
- 瀬能 宏 動物学(魚類)
- [総説]
- 瀬能 宏, 2006. 外来生物法はブラックバス問題を解決できるのか? 哺乳類科学, 46(1): 103-109.
- 加納光樹・吉田剛司・井上 隆・瀬能 宏・細谷和海・多紀保彦, 2006. 諸外国で輸入が禁止されている侵略的外来魚. 生物科学, 57(4): 223-232.
- [本論文]
- Mabuchi, K., M. Miya, H. Senou, T. Suzuki & M. Nishida, 2006. Complete mitochondrial DNA sequence of the Lake Biwa wild strain of common carp (*Cyprinus carpio* L.): further evidence for an ancient origin. Aquaculture, (257): 68-77.
- Okiyama, M., H. Senou & T. Kawano, 2007. Kasidoron larvae of *Gibberichthys latifrons* (Osteichthyes, Gibberichthyidae) from Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 33(1): 45-50.
- Senou, H. & T. Kudo, 2007. A new species of the genus *Chromis* (Perciformes: Pomacentridae) from Taiwan & Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 1: 51-57.
- Senou, H. & Y. Aonuma, 2007. A new shrimp goby of the genus *Amblyeleotris* (Perciformes: Gobiidae) from the Ogasawara Islands, Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 1: 101-107.
- Suzuki, T. & H. Senou, 2007. Two new species of the gobiid fish genus *Trimma* (Perciformes: Gobiidae) from southern Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 1: 175-184.
- [短報]
- 本村浩之・原崎 森・瀬能 宏, 2006. ヘビギンボ科クロマスク属2種 *Helcogramma inclinata* と *H. nesion* の標準和名と学名, および前者の北限記録の更新と標徴に関する新知見. 魚類学雑誌, 53(1): 106-109.
- 瀬能 宏・吉野哲夫・鈴木寿之, 2006. 沖縄県のレッドデータブックに掲載された保全上重要な淡水性ボラ科魚類の同定と新標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 53(2): 196-198.
- 鈴木寿之・坂本勝一・瀬能 宏, 2006. 絶滅の危機に瀕するハゼ亜目魚類2種に対する新標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 53(2): 198-200.
- 村瀬敦宣・瀬能 宏, 2006. 琉球列島から記録されたイソギンボ科魚類カエルウオモドキ *Istiblennius dussumieri* とその鮮時の色彩. 日本生物地理学会会報, 61: 117-123.
- Amaoka, K., H. Senou & Y. Iwatsuki, 2007. Two specimens of left-eye flounders (*Pseudorhombus oculocirris* and *Bothus mancus*) from Kyushu, Japan. Bull. Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.), (36): 43-46.
- [著作・著書・調査報告書・資料集等]
- 勝呂尚之・瀬能 宏, 2006. 汽水・淡水魚類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp. 275-298. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- Senou, H., Y. Kobayashi & N. Kobayashi, 2007. Coastal Fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. Bull. Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.), (36): 47-74.

[普及的著作等]

- 瀬能 宏, 2006. 益田 一さんの思い出. 魚類学雑誌, 53(1): 109-113.
- 瀬能 宏, 2006. ナカムラギンメとオカムラギンメ. 自然科学のとびら, 12(2): 1.
- 瀬能 宏, 2006. わたしの選ぶ「この一冊」「アルベルト・セバの博物宝典」. 友の会通信, 10(2): 9.
- 瀬能 宏, 2006. これであなたも分類屋? できるだけ効率よく学名と命名法の知識を得るために. 化石研究会誌, 39(1): 32-33.
- 瀬能 宏, 2006. メダカの遺伝子汚染? 外来生物阻止の陰に隠れている「国内外来生物」. 日本の論文 2007, pp. 476-479. 文藝春秋, 東京.
- 瀬能 宏, 2006. 日本人にとって最も身近な淡水魚? メダカが姿を消す?! イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 82-83. 技術評論社, 東京; 海はつながっているようで途切れている?! 黒潮流域の沿岸魚類相のふしぎ. 同書, pp. 84-85; 外国からやってきた魚たち—すさまじい勢いで増えたブラックバス. 同書, pp. 124-125.
- 瀬能 宏, 2007. 論点: 魚類の差別的和名. 2007年3月1日付け読売新聞朝刊解説面.
- 瀬能 宏, 2007. 分類学の入門者が効率よく学名と命名法の知識を得るために. 化石研究会誌, 39(2): 49-52.
- 瀬能 宏・松浦啓一, 2007. 相模湾の魚たちと黒潮—ベルトコンベヤーか障壁か—. 藤田敏彦・並河 洋編, 相模湾動物誌, 国立科学博物館叢書 6, pp. 121-133. 東海大学出版会, 東京.

[学会発表等]

- 瀬能 宏, 2006年6月3日. これであなたも分類屋?—できるだけ効率よく学名と命名法の知識を得るために. 神奈川県立生命の星・地球博物館・化石研究会共催. 公開シンポジウム「生き物を分類するってどんなこと? ~分類学を知っていますか~」, 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 瀬能 宏, 2006年7月16日. 標準和名の安定化に向けて: 基本的考え方と最近の動向. シンポジウム「トンボの和名をどう考えるか」, 2006年度日本蜻蛉学会, 北海道教育大学釧路校.
- 村瀬敦宣・内野啓道・瀬能 宏, 2006年10月8-9日. 小笠原諸島から得られたイソギンボ科の1種 *Cirrisalarias bunares*. 2006年度日本魚類学会年会, 静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ.
- 渋谷浩一・鈴木寿之・瀬能 宏, 2006年10月8-9日. 砂色ハゼの多様性: 日本産ヒメハゼ属・シラヌイハゼ属の分類学的再検討. 2006年度日本魚類学会年会, 静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ.
- 瀬能 宏, 2006年10月8日. 西部太平洋から得られた *Guentherus* 属(シャチブரி目シャチブரி科)の1未記載種. 2006年度日本魚類学会年会, 静岡県コン

ベンションツアーセンター グランシップ.

馬淵浩司・瀬能 宏・西田 睦, 2006年10月8-9日. ミトコンドリア DNA 解析により明らかとなったコイの移入系統. 2006年度日本魚類学会年会, 静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ.

苅部治紀 動物学(昆虫類)

[本論文]

- Sasamoto, A., M. Hamalainen & H. Karube, 2006. Description of *Devadatta cyanocephala* sp. nov. from Vietnam (Zygoptera: Amphipterygidae). Tombo, Matsumoto, 48:1-6.
- 西原昇吾・苅部治紀・鷲谷いづみ, 2006. 水田に生息するゲンゴロウの現状と保全. 保全生態学研究, 11: 143-157.

[短報]

- 尾園 暁・苅部治紀・松村 稔, 2007. 与那国島で採集された日本初記録のアカスジベッコウトンボ *Neurothemis ramburii ramburii* (Kaup in Brauer, 1866). Tombo, Matsumoto, 49: 23-26.
- 上田明良・苅部治紀・W. A. Noerdjito, 福山研二, 2007. ボルネオ島初記録のヒメキトンボ. Tombo, Matsumoto, 49: 29.
- Niisato, T. & H. Karube, 2006. A New *Chlorophorus* (Coleoptera, Cerambycidae) from Muku-jima Islands, of Ogasawara Islands. Elytra, Tokyo, 34(1): 221-222.
- 高桑正敏・苅部治紀, 2006. 神奈川県箱根におけるトホシニセマルトビハムシの寄生植物とその発見の経緯. 月刊むし, (429): 17-18.
- 苅部治紀・金子明弘・金子桂子, 2006. チョウトンボの目撃2例. 神奈川虫報, (156): 8.
- 苅部治紀, 2006. 江ノ島におけるヤブヤンマの記録. 神奈川虫報, (156): 26.
- 苅部治紀, 2006. 南足柄市の低地でオオルリボシヤンマを採集. 神奈川虫報, (156): 40.
- 苅部治紀, 2006. 相模湖町・藤野町でイッシキキモンカミキリを採集. 神奈川虫報, (156): 41.
- 苅部治紀, 2006. ナミクシヒゲハネカクシを南足柄市で樹液から採集. 神奈川虫報, (156): 41-42.
- 苅部治紀, 2006. 神奈川県でホソミイトンボの発生地を確認. 神奈川虫報, (156): 46-47.

[著作・著書・調査報告書・資料集等]

- 苅部治紀, 2006. トンボ目. 石渡進一・斎藤和久編, 酒匂川水系の水生動物—里地・里山の生きものたち—, pp. 22-28. 神奈川県環境科学センター, 平塚; 絶滅危惧種キイロサナエ・コサナエ. 同書, p. 29; カメムシ目. 同書, pp. 34-37.
- 苅部治紀・川島逸郎・岸 一弘, 2006. トンボ類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp. 311-324. 神奈川県立

生命の星・地球博物館, 小田原; 水生半翅類. 同書, pp. 337-339; 水生昆虫類. 同書, pp. 385-392.

西原昇吾・荏部治紀・富沢 章, 2007. 農村における水生昆虫の保全. 鷺谷いづみ・鬼頭秀一編, 自然再生のための生物多様性モニタリング, pp.209-226. 東京大学出版会, 東京.

[普及的著作等]

荏部治紀, 2006. 熱帯雨林の王者コウテイムカシヤンマ. 月刊むし, (425): 14-19.

荏部治紀, 2006. 気をつけよう、外来生物の取り扱い—アメリカザリガニを例に—. ミドリ, (62): 5-6.

荏部治紀, 2006. オガサワラシジミの保全スタート! チョウ類保全 News, (5): 8-9.

荏部治紀, 2006. 小笠原の昆虫とその保全. チョウ類保全 News, (5): 14-16.

荏部治紀, 2006. 外来生物により危機的な小笠原の昆虫相. 昆虫と自然, 41(13): 14-21.

荏部治紀, 2006. 驚異! 昆虫・植物の3割が固有種 東洋のガラパゴス「小笠原諸島」. イメージメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 104-105. 技術評論社, 東京.

荏部治紀, 2007. 昆虫担当芸員と昆虫の保全活動. 自然科学のとびら, 13(1): 2-3.

荏部治紀, 2007. 書評: Field guide to the Dragonflies of Britain and Europe. Tombo, Matsumoto, 49: 26.

[学会発表]

H. Karube, 2006/08/31-09/04. Review of the genus *Anotogaster* Selys. 17th international symposium of Odonatology. Hong Kong.

H. Karube and F. Hayashi, 2006/08-31-09/04. Molecular phylogenies of Aeshnidae and Corduliidae (Anisoptera). 17th international symposium of Odonatology. Hong Kong.

荏部治紀, 2006年7月16日. ベトナム産 *Idionyx* 属について. 2006年度日本トンボ学会大会, 北海道教育大学.

荏部治紀, 2006年9月18日. 外来生物により危機的な小笠原の昆虫相. 日本昆虫学会鹿児島大会シンポジウム, 鹿児島大学.

西原昇吾・荏部治紀・永幡嘉之, 2006年11月18日. 日本のゲンゴロウ類の深刻な現状. 日本鞘翅学会大会, 千葉県立博物館.

永幡嘉之・荏部治紀・西原昇吾, 2006年11月18日. ゲンゴロウ類生息地におけるオオクチバス駆除の事例. 日本鞘翅学会大会, 千葉県立博物館.

荏部治紀・永幡嘉之・西原昇吾, 2006年11月18日. アメリカザリガニの拡大による水生甲虫類の激減と駆除の事例. 日本鞘翅学会大会, 千葉県立博物館.

荏部治紀, 2007年3月19日. オガサワラシジミの保全戦略と課題: 生息域内と生息域外. 日本生態学会小笠原小集会, 愛媛大学, 松山.

佐藤武宏 動物学(無脊椎動物)

[普及的著作]

佐藤武宏, 2006. アサリのもようを調べてみよう. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 10(1): 9.

佐藤武宏, 2006. 干潟—海と陸のはざまに広がる大いなる生命のパラダイス. イメージメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 86-87. 技術評論社, 東京; 昼なお暗きマンガルに棲む巨大なカニと貝たち. 同書, pp. 88-89.

加藤ゆき 動物学(鳥類)

[著作・著書・調査報告書・資料集等]

加藤ゆき・浜口哲一・平田寛重・石井 隆・秋山幸也, 2006. 鳥類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp. 233-264. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[普及的著作]

加藤ゆき, 2006. ちょっとした時間に野鳥を楽しむ. 自然科学のとびら, 12(2): 10-11.

加藤ゆき, 2006. コサギってどんな鳥? わたしたちの自然, (519): 26-29.

加藤ゆき, 2006. 海水を飲みに来るアオバト. 自然科学のとびら, 12(3): 17.

加藤ゆき, 2006. 野鳥を観察しよう! 全国各地の探鳥地マップ. イメージメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 78-79. 技術評論社, 東京; 渡り鳥は日本のどこで繁殖・越冬するのか? 集団で冬を越す鳥と子育てをする鳥. 同書, pp. 80-81; ラムサール条約の登録地マップ 全国の「湿地」一覧. 同書, pp. 128-129.

勝山輝男 植物学(維管束植物)

[本論文]

近田文弘・松本 定・勝山輝男・小西達夫・笹本岩男・野口英昭, 2006. 伊豆須崎の維管束植物相. 国立科学博物館専報, (42): 113-221.

Saito, Y., M. Moller, G. Kokubugata, T. Katsuyama, W. Marubashi & T. Iwashita, 2006. Molecular evidence for repeated hybridization events involved in the origin of the genus *Crepidiastrixeris* (Asteraceae) using RAPDs and ITS data. Botanical journal of the Linnean Society, 151: 333-343.

[短報]

勝山輝男, 2006. ヒメフタバランが健在. Flora Kanagawa, (62): 770-771.

勝山輝男, 2006. 神奈川県ヒメムヨウラン. Flora Kanagawa, (63): 780.

勝山輝男, 2006. 横浜平沼と川崎のオオクグ標本. Flora Kanagawa, (63): 780.

勝山輝男, 2006. サワトウガラシは絶滅していない. *Flora Kanagawa*, (63): 780.

勝山輝男, 2007. ラン科サカネラン属の未知の種タンザワサカネラン(仮称). *Flora Kanagawa*, (64): 796-797.

勝山輝男, 2006. マンシュウクロカワスゲの新産地. 莎草研究, (12): 91-93.

勝山輝男, 2006. 北海道奥尻島のスゲ属植物. 莎草研究, (12): 95-97.

勝山輝男, 2007. 神奈川県新産のオオアゼテンツキ. *Flora Kanagawa*, (64): 797-798.

勝山輝男, 2007. 沖縄本島でトックリスゲ *Carex rhynchochaenium* を見出す. 植物地理・分類研究, 54: 154-156.

[著書・著作・調査報告書・資料集等]

勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006. pp. 37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[普及的著作等]

勝山輝男, 2006. 台湾スゲ属植物採集記 1. すげの会ニュース, (9): 5-8.

勝山輝男, 2006. 台湾スゲ属植物採集記 2. すげの会ニュース, (10): 4-6.

勝山輝男, 2006. 自然観察目のつけどころ 15, 身近な材料をつかった果実と種子の観察. 初等理科教育, 141(11): 52-53.

勝山輝男, 2007. 南アルプスの高山植物が消える? 自然科学のとびら, 13(1): 7-8.

勝山輝男, 2007. ソメイヨシノと野生のサクラ. 大人のためのエグゼクティブ・フリーペーパー ig, 10: 3.

[学会発表等]

藤田 卓・小川 誠・勝山輝男・角野康郎・川窪伸光・芹沢俊介・高橋英樹・高宮正之・藤井伸二・松田裕之・宗田一男・横田昌嗣・米倉浩司・矢原徹一, 2007. 日本の絶滅危惧植物個体群の10年間の変遷—環境省版レッドリスト見直し調査の結果から—, 日本植物分類学会 第6回大会(新潟), 2007年3月17日, 新潟大学.

木場英久 植物学(維管束植物)

[短報]

木場英久, 2007. 神奈川県でもムラサキナギナタガヤが採集された. *Flora Kanagawa*, (64): 793-794.

木場英久, 2007. メメリグサのような花序. *Flora Kanagawa*, (64): 794-795.

[著作・著書・調査報告書・資料集等]

高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[普及的著作等]

木場英久, 2006. イネ科植物の小穂で相同を学ぶ. 理

科教育ニュース, (662): 1, 4. 少年写真新聞社, 東京.

木場英久, 2006. 着生植物の採集道具. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 10(2): 10.

木場英久, 2006. ヒマラヤの植物. イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, p. 25. 技術評論社, 東京; 植物の分布は不思議がいっぱい! サツキとキシツツジの分布の謎. 同書, pp. 66-67.

木場英久, 2007. おしべが花卉になる桜. 自然科学のとびら, 13(1): 1.

田中徳久 植物学(植物生態)

[短報]

田中徳久, 2007. 神奈川県中津川のツメレンゲ群落. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 39-42.

[著作・著書・調査報告・資料集等]

田中徳久・高橋秀男・堀川美哉, 2006. 『神植誌 01』刊行後の横浜ブロックの標準登録実績. *Flora Kanagawa*, (62): 777.

勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp. 37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

田中徳久, 2006. 植物群落. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp. 167-212. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

田中徳久・高橋秀男, 2007. 「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物. 神奈川自然誌資料, (28): 29-38.

[普及的著作等]

田中徳久, 2006. 吾性沢地区の植物. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 10(2): 2-3.

飯野瑞子・田中徳久, 2006. 円海山観察会(当日観察した主な植物)—平成17年度例会報告—. 横浜植物会年報, (35): 86-87.

飯野瑞子・田中徳久, 2006. 迦葉山と玉原高原の植物観察会(当日観察した主な植物)—平成17年度例会報告—. 横浜植物会年報, (35): 98-100.

中村金雄・田中徳久, 2006. 鳥海山と獅子ヶ鼻湿原植物観察会(当日観察した主な植物)—平成17年度例会報告—. 横浜植物会年報, (35): 109-111.

堀川美哉・飯野瑞子・田中徳久, 2006. 栗駒山とその周辺湿原植物の秋の生態観察会(当日観察した主な植物)—平成17年度例会報告—. 横浜植物会年報, (35): 118-120.

中村金雄・吉田多美枝・田中徳久, 2006. 栗駒山とその周辺湿原植物の秋の生態観察会(当日観察した主な植物)—平成17年度例会報告—. 横浜植物会年報, (35): 122-123.

田中徳久, 2006. 暖かさの指数, 寒さの指数. イーメ

ディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, p. 56. 技術評論社, 東京; 日本の植生帯を観る。ハイマツ帯は高山帯ではない?! 同書, pp. 58-59; ニッポンの森林(1) ブナ林、その豊富な植物相の特徴は? 同書, pp. 60-61; ニッポンの森林(2) 残された原始の照葉樹林を訪ねる。同書, pp. 62-63; 産業革命から生まれた自然保護の思想! 天然記念物に指定された植物たち。同書, pp.68-69.

出川洋介 菌類学

[本論文]

Degawa Y., Y. Doi, and T. Hosoya, 2006. Records of *Allescheriella crocea* (Basidiomycetous Anamorphic Fungus) from Sagami Bay Coast, Japan. *Memoirs of the National Science Museum*. 42: 233-238.

Hosoya, T., Y. Degawa & Y. Doi, 2006. Fungi of Sagami Sea Shore, Central Japan. *Memoirs of the National Science Museum*. 42: 239-245.

Kurihara, Y. & Y. Degawa, 2006. *Pinnaticoemansia*, a new genus of Kickxellales, with a revised key to the genera of Kickxellales. *Mycoscience*. 47: 205-211.

Takahashi, H. & Y. Degawa, 2006. Two new *Marasmiellus* species found on the bark of living coniferous and broad-leaved trees in Japan. *Mycoscience*. 47: 257-262.

[著作・著書・調査報告・資料集等]

出川洋介, 2006. 台湾調査において得られた微小菌類—接合菌類を中心に—. 柿嶋 眞編, 平成14年度～17年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書 アジア熱帯モンスーン地域の菌類の多様性とその生態的機能の調査研究, pp. 91-94.

出川洋介, 2006. 菌類. 高桑正敏・勝山輝男・本場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, pp.147-166. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[普及的著作等]

出川洋介編著, 2006. 身近な菌類の観察. 特別展「ふしぎな生きもの菌類 ～動物?植物?それとも?～」図録, 133pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

越智典子・伊沢正名・塩田雅樹(出川洋介 監修), 2006. クサレケカビのクー. 40 pp. 福音館書店, 東京.

出川洋介, 2006. ふしぎな生きもの菌類 ～動物?植物?それとも?～. 自然科学のとびら, 12(2): 12-13.

出川洋介, 2006. 自然観察目のつけどころ10 身近にしながら見落としがちな菌類の世界. 初等理科教育, 40(6): 50-51.

出川洋介, 2006. ミクロの住人たち 微生物に国境はあるのか? イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 108-109. 技術評論社, 東京.

[学会発表等]

出川洋介, 2006年6月3-4日. 日本新産の昆虫寄生性ケカビ目菌 *Sporodiniella umbellate* は雌雄異株性だった. 日本菌学会第50回周年記念大会. 千葉市青葉の森芸術文化ホール.

大久保彦・阿部淳一・細矢 剛・出川洋介・太木保善・柿嶋 眞・中村 徹, 2006年6月3-4日. 淡色系 *Tuber* 属菌未記載2種の形態的特徴について. 日本菌学会第50回周年記念大会. 千葉市青葉の森芸術文化ホール.

岡田 元・細矢 剛・出川洋介, 2006年6月3-4日. 丹沢産微小菌類: 分生子柄束形成菌類ならびに関連菌(1). 日本菌学会第50回周年記念大会. 千葉市青葉の森芸術文化ホール.

山口 薫・出川洋介・中桐 昭, 2006年6月3-4日. 半水生菌 *Peyronelina glomerulata* のテレオモルフについて. 日本菌学会第50回周年記念大会. 千葉市青葉の森芸術文化ホール. (ポスター賞受賞発表).

Degawa, Y., 2006/08/20-25. A new gall-forming facultative mycoparasite of the Mucorales from Japan. 8th International Mycological Congress, Cairns, Australia.

樽 創 古生物学(哺乳類)

[本論文]

樽 創・兼子尚知, 2006. 千葉県袖ヶ浦市吉野田の下総層群清川層から産出したナウマンゾウ化石. 第四紀研究, 45(3): 189-196.

樽 創・高桑祐司・兼子尚知, 2006. 千葉県袖ヶ浦市吉野田の下総層群清川層から産出したイヌ科前臼歯化石. 第四紀研究, 45(3): 207-210.

樽 創・森 慎一, 2007. 二宮町一色打越の中部更新統から産出したナウマンゾウの乳臼歯化石. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, 30, 41-46.

松島義章・田口公則・樽 創, 2007. 神奈川県小田原市小船における完新統下原層の露頭剥ぎ取り資料および産出した貝化石. 神奈川県自然誌資料, (28): 17-20.

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・生命の星・地球博物館古生物ボランティアグループ, 2007. 横浜市南西部の上部更新統から見出された熱帯種タイワンシラトリ化石. 神奈川県立博物館研究報告(自然), (36):33-38.

[普及的著作]

伊左治鎮司・兼子尚知・平山 廉・高桑祐司・樽 創・鶴飼宏明・加藤久佳・百原 新, 2006. 千葉県袖ヶ浦市吉野田の下総層群清川層より産出した陸生生物化石群. 第四紀研究, 45(3): i-ii (口絵).

樽 創, 2006. ヒラタシデムシの異種間におけるマウンティング. 月刊むし, (424): 45.

島本昌憲・樽 創, 2007. 特集「生き物を分類するってどんなこと?」—分類学の普及と現状—. 化石研究会

誌, 39(2): 47-48.

樽 創, 2007. 書評「シカの生態誌」. 化石, (81): 106-107.

[学会発表等]

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・生命の星・地球博物館古生物ボランティア, 2006 年 8 月 4～6 日. 横浜市南西部の上部更新統から見つかった熱帯種タイワンシラトリ化石. 日本第四紀学会創立 50 周年記念大会, 首都大学東京.

Uno, H., M. Yoneda, H. Taru & N. Kohno, 2006/10/18-21. Estimation of dietary and habitat preferences of *Desmostylus* and *Palaeoparadoxia* based on carbon and oxygen stable isotope and trace element analyses. Summary of the 66th SVP Annual Meeting, Ottawa, Ontario, Canada.

岡崎浩子・中里裕臣・樽 創・笠間友博, 2007 年 3 月 27-31 日. 大磯丘陵吉沢層の堆積相(予報). 日本堆積学会 2007 年例会, 日本堆積学会・産業技術総合研究所地質調査総合センター, つくば市.

大島光春 古生物学(哺乳類)

[本論文]

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・生命の星・地球博物館古生物ボランティアグループ, 2007. 横浜市南西部の上部更新統から見出された熱帯種タイワンシラトリ化石. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 33-38.

[短報]

大島光春, 2007. 上部中新等三浦層群大磯層から産出したイノシシ類臼歯について. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 29-32.

[普及的著作等]

大島光春, 2006. 博物館周辺の身近な自然シリーズ(その 14) 砂が作る形. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 10 (3): 1-2.

大島光春, 2006. あなたも発見できるかも?! 日本の恐竜化石マップ. イメージ編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 110-111. 技術評論社, 東京.

[学会発表等]

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・生命の星・地球博物館古生物ボランティア, 2006 年 8 月 4～6 日. 横浜市南西部の上部更新統から見つかった熱帯種タイワンシラトリ化石. 日本第四紀学会創立 50 周年記念大会, 首都大学東京.

田口公則 古生物学(貝類)

[本論文]

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・生命の星・地球博物館古生物ボランティアグループ, 2007. 横浜市南西部の上部更新統から見出された熱帯種タイワンシ

ラトリ化石. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 33-38.

[著作・著書・調査報告・資料集等]

田口公則・石浜佐栄子・平田大二, 2007. 横浜市金沢区柴町に露出する上総層群小柴層模式地の地層剥ぎ取り標本について. 神奈川自然誌資料, (28): 13-16.

田口公則, 2007. 博物館活動を伝えるアウトリーチ活動の新しい試み. 日本女子大学博物館学芸員課程年報, (5): 2-3.

門田真人・安谷屋 昭・田口公則・砂川博秋, 2007. 宮古島・前期鮮新統島尻層群大神島層に産出する熱帯性巻貝ハシナガソデガイ(*Tibia fusus*) 化石について. 宮古島市総合博物館紀要, (11): 69-78.

松島義章・田口公則・樽 創, 2007. 神奈川県小田原市小船における完新統下原層の露頭剥ぎ取り資料および産出した貝化石. 神奈川自然誌資料, (28): 17-20.

[普及的著作等]

田口公則, 2006. きらきら身近な虹色. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 10(3): 9.

田口公則, 2006. 展示室で虹色を楽しむ. 自然科学のとびら, 12(4): 25.

田口公則, 2006. 地球温暖化を過去の温暖期から推測する?! イメージ編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 118-119. 技術評論社, 東京.

田口公則, 2007. 化石クリーニング教室. 友の会通信, 10(4): 6.

[学会発表等]

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・生命の星・地球博物館古生物ボランティア, 2006 年 8 月 4～6 日. 横浜市南西部の上部更新統から見つかった熱帯種タイワンシラトリ化石. 日本第四紀学会創立 50 周年記念大会, 首都大学東京.

田口公則, 2007 年 2 月 2 日. 博物館と学校の連携—化石ローンキットプログラムの展開—. 日本古生物学会第 156 回例会, 徳島県立博物館.

平田大二・山下浩之・笠間友博・田口公則・新井田秀一, 2006 年 5 月 14 日. 自然史リテラシーの向上をめざした博物館における地球科学学習プログラムの開発—ボランティアや教員とのコラボレーション—. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

平田大二 地学(鉱物)

[本論文]

山下浩之・萬年一剛・石塚 治・川手新一・平田大二・蛭子貞一・谷口英嗣, 2006. 神奈川県湯河原町宮下で掘削されたボーリングコアの岩相記載と地質学的意義. 神奈川県温泉地学研究所報告, (38): 1-10.

山下浩之・笠間友博・川手新一・平田大二, 2007. 箱根火山起源諏訪原テフラ(SWS)に発見された斑レイ岩質岩片の岩石学的性質. 神奈川県立博物館研究報

告(自然科学), (36): 25-28.

田口公則・石浜佐栄子・平田大二, 2007. 横浜市金沢区柴町に露出する上総層群小柴層模式地の地層剥ぎ取り標本について. 神奈川自然誌資料, (28): 13-16.

[著書・調査報告・資料等]

平田大二・田口公則・一寸木 肇・石井 晃・尾崎幸哉, 2006. 神奈川県足柄地域の素材を取り入れた地学教材の開発—足柄グループプログラム(博物館)—. 平成17年度～20年度科学研究費補助金(基盤研究(A)), 研究課題番号: 17200046, 「子どもが主体的に学び, 科学を好きになるための教育システムの開発に関する実証的な研究」研究成果報告第1次中間報告書, 261-274.

平田大二, 2007. 自然を理解するための人と博物館のネットワークの構築—地域博物館の個性を活かした自然史リテラシーの育成—. 平成15年度～18年度科学研究費補助金(基盤研究(B)), 研究課題番号: 15300266, 研究成果報告書, 160pp.

[普及的著作等]

平田大二, 2006. “地質遺産”博物館はどのような役割を果たすことができるか? 日本地質学会関東支部編, 地球から読み取る未来—かけがえのない地質遺産からみえるもの—, pp. 32-41. 日本地質学会関東支部, 東京.

平田大二, 2006. たかが石ころ, されど石ころ—河原の石ころの実物図鑑をつくろう, 自然観察目のつけどころ13. 初等理科教育, 40(9): 54-55.

イーメディア(平田大二 監修), 2006. 地震多発国ニッポン! なぜ、こんなに多く地震が発生するのか? イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 10-11. 技術評論社, 東京.

平田大二, 2007. 各地の博物館巡り 神奈川県立生命の星・地球博物館—地球と生命 46 億年の歴史を考える. 地質と調査, (111): 48-49.

[学会発表等]

平田大二・笠間友博・山下浩之・田口公則・新井田秀一, 2006 年 5 月 14 日, 自然史リテラシーの向上をめざした博物館における地球科学学習プログラムの開発～ボランティアや教員とのコラボレーション～, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

折橋裕二・元木昭寿・Haller Miguel・角野浩史・岩森 光・三部賢治・平田大二・安間 了・長尾 敬, 2006 年 5 月 15 日, Petrogenetic model for Somuncura plateau basalt in an extra back-arc province: Dehydration of hydrous wadsleyite beneath Patagonia. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

折橋裕二・元木昭寿・Haller Miguel・角野浩史・岩森 光・三部賢治・平田大二・安間 了・長尾 敬, 2006 年 5 月 15 日, Petrogenetic model for Somuncura plateau basalt in an extra back-arc province:

Dehydration of hydrous wadsleyite beneath Patagonia. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

HIRATA, D., H. YAMASHITA, & A. KATO, 2006/07/25. Outline of Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, JAPAN. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, International Conference Center Kobe (第19回国際鉱物学連合総会, 神戸国際コンファレンスセンター).

平田大二, 2006 年 8 月 20 日, 博学連携・融合はどこまで可能か? 学芸員と教師との協働を考える. 平成18年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第60回全国大会, 静岡大学.

笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子, 2006 年 9 月 16 日. 廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験. 日本地質学会第113学術大会, 高知大学.

平田大二・山下浩之・新井田秀一・高橋 司・小出良幸, 2006 年 9 月 17 日, 神奈川県立生命の星・地球博物館と西予市城川地質館との連携～都市型総合博物館と地方専門型博物館との交流～, 日本地質学会第113年学術大会, 高知大学.

平田大二, 2007 年 3 月 3 日, 2007 年南米パタゴニア背弧火山地域の調査速報, 第118回湘南地球科学の会, 生命の星・地球博物館.

笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子, 2006 年 9 月 16 日. 廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験. 日本地質学会第113学術大会, 高知大学.

新井田秀一 環境科学

[本論文]

小出良幸・新井田秀一, 2007. 数値標高による地質情報の可視化と地質学への応用について. 社会情報, (16)2: 19-38. 札幌学院大学情報学部.

[著作・著書・調査報告・資料集等]

新井田秀一, 2006. 宇宙から見た日本 地球観測衛星の魅力, 48pp. 東海大学出版会, 神奈川.

[普及的著作等]

新井田秀一, 2006. 色と形から見る「につぼん」“パノラマにつぼん”を楽しむために. 自然科学のとびら, 12(4): 28-29.

新井田秀一, 2006. なんでも好奇心「宙瞰図」ってなんですか? 友の会通信, 10(3): 6-7.

新井田秀一, 2006. プロローグ 日本列島ランドサット地図. イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 2-3. 技術評論社, 東京; まるで滝のよう! 流域面積が小さく、急な流れの日本の川. 同書, pp. 34-35; やっぱ日本は狭かった?! 列島の平野をぞっと眺める. 同書, pp.

36-37; 総延長はなんと3万3,889km! 日本の海岸線を観る. 同書, p. 38.

[学会発表等]

笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子, 2006年9月16日. 廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験. 日本地質学会第113学術大会, 高知大学.

笠間友博 地学(火山)

[本論文]

萬年一剛・小林 淳・奥野 充・笠間友博・山下浩之・袴田和夫・中村俊夫, 2006. 箱根火山の噴火史—最近の知見に基づく再検討—. 月刊地球, 28(6): 355-362.

笠間友博・山下浩之, 2007. 神奈川県小田原市久野諏訪原で確認された斑レイ岩質岩片を含む諏訪原スコリア(新称). 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 17-24.

山下浩之・笠間友博・川手新一・平田大二, 2007. 箱根火山起源諏訪原スコリア(SwS)に発見された斑レイ岩質岩片の岩石学的性質. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 25-28.

笠間友博・山下浩之, 2007. 藤沢市円行で出現した箱根東京テフラ(Hk-TP)に伴う軽石流堆積物(Hk-T(pfl))の記載と神奈川県中部に分布する同堆積物との対比. 神奈川自然誌資料, (28): 1-6.

山下浩之・笠間友博, 2007. 小田原市早川の石丁場群で発掘された矢穴石の岩石学的特徴. 神奈川自然誌資料, (28): 7-12.

[著作・著書・調査報告書・資料集等]

笠間友博, 2007. 砂と廃油で楽しむ火山づくり. 自然科学のとびら, 13(1): 4-5.

山下浩之・笠間友博, 2007. 早川石丁場群で発掘された石材について. かながわ考古学財団編, かながわ考古学財団調査報告213号「早川石丁場群 関白沢支群広域農道整備事業(小田原湯河原線)に伴う発掘調査」, pp. 125-133. かながわ考古学財団, 横浜.

[普及的著作等]

イーメディア(笠間友博 監修), 2006. 火山国ニッポン噴火の可能性のある活火山. イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 8-9. 技術評論社, 東京; 富士山の真下にプレートが沈み込む! 富士山の火山活動は巨大地震と連動するのか? 同書, pp. 14-15; 陸奥を貫く奥羽山脈が日本最長の山脈になった秘密とは? 同書, pp. 20-21; 荘厳! 標高3,000m以上の「日本の屋根」を観る! 同書, pp. 22-23; 南アルプス(赤石山脈)は深海の地層によってつくられた! 同書, pp. 24-25.

[学会発表等]

笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子, 2006年9月16日. 廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験. 日本地質学会第113学術大

会, 高知大学.

平田大二・山下浩之・笠間友博・田口公則・新井田秀一, 2006年5月14日. 自然史リテラシーの向上をめざした博物館における地球科学学習プログラムの開発〜ボランティアや教員とのコラボレーション〜. 地球惑星科学関連学会2006年合同大会, 幕張メッセ国際会議場, 岡崎浩子・中里裕臣・樽 創・笠間友博, 2007年3月27-31日. 大磯丘陵吉沢層の堆積相(予報). 日本堆積学会2007年例会, つくばカピオ.

山下浩之 地学(岩石)

[本論文]

萬年一剛・小林 淳・奥野 充・笠間友博・山下浩之・袴田和夫・中村俊夫, 2006. 箱根火山の噴火史—最近の知見に基づく再検討—. 月刊地球, 28(6): 355-362.

山下浩之・萬年一剛・石塚 治・川手新一・平田大二・蛭子貞二・谷口英嗣, 2006. 神奈川県湯河原町宮下で掘削されたボーリングコアの岩相記載と地質学的意義. 神奈川温地研報告, 38: 1-10.

萬年一剛・水野清秀・伊藤順一・山下浩之, 2006. 箱根・強羅付近地下の地質構造—とくに湖成堆積物の分布とその堆積環境. 神奈川温地研報告, 38: 11-26.

笠間友博・山下浩之, 2007. 神奈川県小田原市久野諏訪原で確認された斑レイ岩質岩片を含む諏訪原スコリア(新称). 神奈川県立博物館研究報告自然科学, 36: 17-24.

山下浩之・笠間友博・川手新一・平田大二, 2007. 箱根火山起源諏訪原スコリア(SwS)に発見された斑レイ岩質岩片の岩石学的性質. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (36): 25-28.

笠間友博・山下浩之, 2007. 藤沢市円行で出現した箱根東京テフラ(Hk-TP)に伴う軽石流堆積物(Hk-T(pfl))の記載と神奈川県中部に分布する同堆積物との対比. 神奈川自然誌資料, (28): 1-6.

山下浩之・笠間友博, 2007. 小田原市早川の石丁場群で発掘された矢穴石の岩石学的特徴. 神奈川自然誌資料, (28): 7-12.

[著作・著書・調査報告・資料等]

山下浩之・笠間友博, 2007. 早川石丁場群で発掘された石材について. かながわ考古学財団編, かながわ考古学財団調査報告213号「早川石丁場群 関白沢支群広域農道整備事業(小田原湯河原線)に伴う発掘調査」, pp. 125-133. かながわ考古学財団, 横浜.

[普及的著作等]

イーメディア(山下浩之 監修), 2006. 日本列島が真つ二つに分裂した! 大地溝帯、フォッサマグナ. イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修), 新「理科の地図帳」, pp. 16-17. 技術評論社, 東京; 岩石を見れば、地球の壮大な歴史がわかる! 日本をつくるさまざまな岩石. 同書, pp. 30-31.

[学会発表等]

- 平田大二・山下浩之・笠間友博・田口公則・新井田秀一，
2006年5月14日．自然史リテラシーの向上をめざした博物館における地球科学学習プログラムの開発～ボランティアや教員とのコラボレーション～．地球惑星科学関連学会2006年合同大会，幕張メッセ国際会議場．
Kawajiri, K., K. Noda, H. Yamashita & H. Kubota, 2006/08/28-29. Source area of the tephra from the Pliocene Nakatsu Group, central Japan, deduced from xenoliths and phenocrysts. 17th International Geological Congress, Fukuoka.
- Hirata, D., H. Yamashita & A. Kato, 2006/07/25. Minerals and Rocks in Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, JAPAN. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe.
- 平田大二・山下浩之・新井田秀一・高橋 司・小出良幸，
2006年9月17日．神奈川県立生命の星・地球博物館と西予市地質館との連携～都市型総合博物館と地域専門型博物館との交流～．日本地質学会第113年学術大会，高知大学．
- 笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子，
2006年9月16日．廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験．日本地質学会第113年学術大会，高知大学．

石浜佐栄子 地学(堆積学)

[総説]

- 石浜佐栄子，2007. ジュラ紀前期の海洋無酸素事変の研究に関する進展と動向．神奈川県博物館研究報告(自然科学)，(36): 1-16.

[短報]

- 田口公則・石浜佐栄子・平田大二，2007. 横浜市金沢区柴町に露出する上総層群小柴層模式地の地層剥ぎ取り標本について．神奈川自然誌資料，(28): 13-16.

[普及的著作等]

- 石浜佐栄子，2006. “The present is the key to the past” —過去の謎を現在から解き明かす—．自然科学のとびら，12(3): 18-19.
- 石浜佐栄子，2006. 身近な地層探検記．友の会通信，10(1): 6-7.
- イーメディア(石浜佐栄子 監修)，2006. 雪と氷が長い年月をかけて描き出した神秘的な地形．イーメディア編(神奈川県立生命の星・地球博物館 監修)，新「理科の地図帳」，pp. 26-27. 技術評論社，東京；もとは太古のサンゴ礁?! 大洋のど真ん中にあった秋吉台．同書，pp. 32-33.

[学会発表等]

- Ishihama, S. & R. Matsumoto, 2006/08/28-29. Lithological and Geochemical Evidence

of Oxygen-depleted Condition from late Pliensbachian to early Toarcian Black Shale in the Toyora Group, southwest Japan. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan.

- 笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子，
2006年9月16日．廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験．日本地質学会第113年学術大会，高知大学．

奥野花代子 博物館学

[普及的著作等]

- 奥野花代子(JICA大阪 訳)，2006. Barrier free museums. Disabled visitors. 国立民族学博物館編，博物館学集中コース テキスト．62pp. JICA 大阪，大阪．
- 奥野花代子，2006. 利用しやすく快適な博物館づくりに向けて～バリアフリー委員会からの報告～．博物館研究，(41)7: 7-9.
- アイユ編集部(奥野花代子 監修)，2006. 誰もが安心して利用できる開かれた博物館の実現をめざして．アイユ，(182): 12-14.
- 奥野花代子，2006. 地域博物館の連携が不登校生の学習を支援～“ミュージアム・リレー”が生徒の知的好奇心を誘発～．文部科学時報．1566: 56-57.
- 奥野花代子，2007. 誰にもやさしい博物館を目指して～目の不自由な人と取り組む“ユニバーサル・ミュージアム”．内閣府編，それぞれの願い—多様な可能性に挑むことができる社会に向けて—(平成18年度障害者週間事業)，pp.40-41, 内閣府，東京．
- 奥野花代子，2007. ユニバーサル・ミュージアムを目指して～誰にもやさしい博物館づくり～．文部科学省編，文部科学白書，p. 72. 文部科学省，東京．
- 月間広報編集部(奥野花代子 監修)，2007. 触れる実物標本はすべての人の理解を深める．月刊広報，(658): 6-7.
- 奥野花代子，2007. モデル研修会報告 障害別の来館者への配慮と研修会参加者の感想．日本博物館協会編，博物館の望ましい姿シリーズ10「誰にもやさしい博物館づくり事業」バリアフリーのために，pp. 30-32. 財団法人日本博物館協会，東京；視覚に障害のある方の博物館利用を支援して～「誘導・案内ボランティア」活動．同書，pp. 37-40.

[学会発表等]

- 奥野花代子，2007年1月24日．財団法人日本博物館協会「誰にもやさしい博物館づくり事業」バリアフリー研修会・パネルディスカッション「博物館におけるバリアフリーの現状と職員研修」パネリスト．財団法人日本博物館協会．

3.6. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

委員・役員に関しては、「役職名(機関・団体名)」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「役職名」「科目名」「(学校名)」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名(依頼元)」を日本語で、欧文誌については「雑誌名(依頼元)」を欧文で記載した。

斎藤靖二

[委員・役員]

海洋研究開発機構地球内部変動センター外部評価委員
(独立行政法人海洋研究開発機構)
日本深海技術協会深海調査研究推進委員会委員(社団法人日本深海技術協会)
東京地学協会評議員・地学クラブ代表世話人(社団法人東京地学協会)
日本博物館協会棚橋賞選考委員会委員(財団法人日本博物館協会)
日本博物館協会全国博物館における地域子ども教室推進事業運営協議会委員長(財団法人日本博物館協会)
日本博物館協会子どもゆめ基金「野外科学体験活動教材の開発」事業委員長(財団法人日本博物館協会)
野外自然博物館協会評議員(財団法人野外自然博物館協会)
科学博物館後援会評議員(財団法人科学博物館後援会)
全国博物館における地域子ども教室推進事業運営協議会委員(独立行政法人国立科学博物館)
日本地質学会会長(日本地質学会) 2006年5月まで
日本地質学会代議員(日本地質学会)
日本の地質百選選定委員会委員長(日本の地質百選選定委員会)
日本地球惑星科学連合評議員会委員(日本地球惑星科学連合) 2006年5月まで
日本地球惑星科学連合理数系学会教育問題連絡会担当委員(日本地球惑星科学連合)
日本学術会議連携会員(日本学術会議)
文部科学省南極地域観測統合推進本部外部評価委員会委員(文部科学省)

[非常勤講師]

非常勤講師「一般地質学」(国際基督教大学)
非常勤講師「地球を考える II」(日本大学文理学部地球システム科学科)

高桑正敏

[委員・役員]

日本鞘翅学会会長・編集委員・自然保護委員会委員(日本鞘翅学会) 2006年12月31日まで
日本鞘翅学会常任幹事・編集委員・自然保護委員会委員長(日本鞘翅学会) 2007年1月1日から
コガネムシ研究会顧問(コガネムシ研究会)
日本チョウ類保全協会幹事(NPO法人日本チョウ類保全協会)
絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会昆虫

部会検討員(環境省)

指定動物保護対策検討会検討員(環境省)

外来生物対策分類群専門家グループ会合(昆虫類) 委員(環境省)

希少野生動植物種保存推進員(環境省)

小笠原諸島における森林生態系保護地域設定委員会委員(社団法人日本森林技術協会)

河川水辺の国勢調査陸上昆虫類スクリーニング・グループ委員(国土交通省)

鶴見川希少生物生態・保全対策検討委員会委員(国土交通省京浜工事事務所)

ヨコハマナガゴミシ保全対策検討会座長(首都高速道路公団)

生物分類技能検定動物部門試験委員(自然環境研究センター)

丹沢大山総合調査自然再生チーム昆虫グループリーダー(神奈川県環境農政部)

ヒメボタル研究会委員(神奈川県西湘地区行政センター)

生涯学習放送番組「神奈川県再発見」企画会議委員(神奈川県生涯学習文化財課)

横浜市源流域水環境基礎調査内容検討会委員(横浜市)

横浜市の生物多様性保全再生に関する懇談会委員(横浜市)

川崎市青少年科学館協議会委員(川崎市)

[査読]

Elytra(日本鞘翅学会)

広谷浩子

[委員・役員]

小田原市郷土文化館協議会委員(小田原市教育委員会)
横浜市環境影響評価委員会審査員(横浜市環境創造局)
神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員(神奈川県環境農政部)

瀬能 宏

[委員・役員]

日本魚類学会評議員(日本魚類学会)

日本魚類学会自然保護委員会副委員長(日本魚類学会)

日本魚類学会標準和名検討委員会委員長(日本魚類学会)

希少野生動植物種保存推進員(環境省) 平成15～18年
平成18年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価
検討会検討員(環境省)

河川水辺の国勢調査「河川版・ダム湖版」スクリーニング委員会委員(財団法人リバーフロント整備センター)

平成18年度農林水産技術会議研究課題設定部会(水

産業の部) 委員(神奈川県水産技術センター)

[その他]

魚の会事務局 魚の会

[査読]

Memoirs of the Museum of Victoria (Museum Victoria)

関西自然保護機構会誌(関西自然保護機構)

魚類学雑誌(日本魚類学会)

Ecological Research(日本生態学会)

苅部治紀

[委員・役員]

World Dragonfly Association(世界トンボ協会) 日本支部副代表(World Dragonfly Association)

ヨコハマナガゴミムシ保全対策検討会検討委員(首都高速道路公団)

鶴見川希少生物生態・保全検討委員会検討委員(国土交通省京浜工事事務所)

日本蜻蛉学会学会誌編集幹事長(日本蜻蛉学会)

日本蜻蛉学会自然保護委員会マダラナニワトンボ部会部会長(日本蜻蛉学会)

日本蜻蛉学会自然保護委員会小笠原特産種部会部会長(日本蜻蛉学会)

日本鞘翅学会自然保護委員会委員(日本鞘翅学会)

小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会検討委員(東京都)

小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会検討委員(環境省)

佐藤武宏

[委員・役員]

慶應義塾高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員(慶應義塾)

[査読]

四国自然史科学研究(四国自然史科学研究センター)

加藤ゆき

[委員・役員]

神奈川県鳥類目録編集委員会委員(日本野鳥の会神奈川県支部)

神奈川県カワウ対策委員会委員(神奈川県水産課)

周南市ツル保護協議会委員(山口県周南市)

[査読]

日本鳥学会誌(日本鳥学会)

勝山輝男

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物分科会委員(環境省)

日本植物分類学会絶滅危惧植物検討委員会(日本植物分類学会)

稀少野生動物保存推進員(植物)(環境省)

特定外来生物等分類群専門家グループ(植物) 委員(環

境省)

河川水辺の国勢調査スクリーニング・グループ委員(植物)(財団法人リバーフロント整備センター)

丹沢大山総合調査実行委員会(神奈川県環境農政部緑政課)

丹沢大山自然再生委員会委員(丹沢大山自然再生委員会)

小田原市文化財保護委員(小田原市教育委員会)

大和市文化財保護委員(大和市教育委員会)

湯河原町文化財保護委員(湯河原町教育委員会)

神奈川県植物誌調査会運営委員(神奈川県植物誌調査会)

神奈川県植物誌調査会事務局(神奈川県植物誌調査会)

富山県中央植物園客員研究員(富山県中央植物園)

木場英久

[委員・役員]

神奈川県植物誌調査会運営委員(神奈川県植物誌調査会)

神奈川県植物誌調査会事務局(神奈川県植物誌調査会)

ネパール植物誌データベース委員長(ヒマラヤ植物研究会)

東京大学総合研究博物館研究事業協力者(東京大学総合研究博物館)

[非常勤講師]

非常勤講師「自然科学概論」(文教大学国際学部)

非常勤講師「生命科学」(文教大学国際学部)

田中徳久

[委員・役員]

神奈川県植物誌調査会運営委員(神奈川県植物誌調査会)

神奈川県植物誌調査会事務局(神奈川県植物誌調査会)

横浜植物会運営委員(横浜植物会)

[非常勤講師]

非常勤講師「自然博物館学」(横浜国立大学教育人間科学部) 後期

出川洋介

[委員・役員]

日本菌学会編集幹事(日本菌学会)

日本菌学会自然史学会連合連絡委員(日本菌学会)

日本変形菌研究会観察会幹事(日本変形菌研究会)

日本地衣学会学術情報連絡委員(日本地衣学会)

神奈川県キノコの会本部幹事(神奈川県キノコの会)

菌類懇話会幹事(菌類懇話会)

自然史学会連合運営委員(自然史学会連合)

日本分類学会連合植物分類学会絶滅危惧種選定Ⅱ科委員(日本分類学会連合)

相模原市史自然編纂委員(相模原市)

横浜市民協働による生物相・生態系調査検討委員会委員(横浜市環境創造局環境科学研究所)

神奈川県立生命の星地球博物館友の会役員(神奈川県立生命の星・地球博物館友の会)

[受賞]

日本菌学会ポスター賞「山口 薫・出川洋介・中桐 昭」

半水生菌 *Peyronelina glomerulata* のテレオモルフについて」(日本菌学会)

樽 創

[委員・役員]

日本古生物学会「化石」編集幹事(日本古生物学会)
日本第四紀学会「第四紀研究」編集委員(日本第四紀学会)
神奈川地学会事務局(神奈川地学会)

大島光春

[委員・役員]

湘南地球科学の会事務局(湘南地球科学の会)

田口公則

[委員・役員]

日本地質学会普及教育事業部生涯教育委員(日本地質学会)
神奈川地学会事務局(神奈川地学会)
[非常勤講師]
非常勤講師「博物館実習」(日本女子大学文学部) 前期

平田大二

[委員・役員]

日本地質学会国立公園地質リーフレット「箱根火山」編集委員(日本地質学会)
神奈川地学会事務局(神奈川地学会)
湘南地球科学の会事務局(湘南地球科学の会)
あしがら NST (Nature Science Teachers) 研究会事務局(あしがら NST 研究会)

新井田秀一

[非常勤講師]

非常勤講師「博物館学各論」(日本大学生物資源科学部) 後期集中講義

笠間友博

[委員・役員]

日本地質学会代議員(日本地質学会)
日本地質学会関東支部幹事(日本地質学会)
神奈川地学会事務局(神奈川地学会)

山下浩之

[委員・役員]

湘南地球科学の会事務局(湘南地球科学の会)

石浜佐栄子

[委員・役員]

神奈川地学会事務局(神奈川地学会)

奥野花代子

[委員・役員]

文部科学省保存庁舎等を活用した情報発信拠点アドバイザー委員(文部科学省)
国立科学博物館本館バリアフリー等アドバイザー(独立行政法人国立科学博物館)
小田原市郷土文化館協議会委員(小田原市教育委員会)
箱根町立郷土資料館運営懇話会委員(箱根町教育委員会)
日本科学協会評議員(財団法人日本科学協会)
日本科学協会「笹川科学研究助成」選考・評価委員(財団法人日本科学協会)
「誰にもやさしい博物館づくり事業」バリアフリー委員会委員(財団法人日本博物館協会)
科学放送賞審査委員(財団法人高柳記念電子科学技術振興財団)
日本ミュージアム・マネジメント学会理事(日本ミュージアム・マネジメント学会)
日本ミュージアム・マネジメント学会関東支部幹事(日本ミュージアム・マネジメント学会)
神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会事務局(神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会)

3.7. 講師依頼等

講演、講座などの実施日順に、「内容等(依頼元) 場所(実施日)」について記載した。なお、学校(小・中・高・大・養護等)への対応については、「5.2 学校教育への対応」に記載した。

斎藤靖二

大人の講座「先史時代の関東地方と上野台」(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年5月23日(火))
講演「博物館資料論」(国立教育政策研究所) 国立教育政策研究所社会教育実践センター(2006年5月30日(火))
講演「地球環境と日本列島」(国立高専機構小山工業高等専門学校) 同左(2006年6月23日(金))

国立科学博物館サイエンス・コミュニケーター養成講座(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年7月11日(火))
国立科学博物館自然史講座「自然史とは何か」(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年7月14日(金))
国立科学博物館サイエンス・コミュニケーター養成講座(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年8月1日(火))

国立科学博物館サイエンス・コミュニケーター養成講座
(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年8月9日(水))

国立科学博物館サイエンス・コミュニケーター養成講座
(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年8月16日(水))

国立科学博物館サイエンス・コミュニケーター養成講座
(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年8月20日(日))

国立科学博物館サイエンス・コミュニケーター養成講座
(独立行政法人国立科学博物館) 同左(2006年8月23日(水))

日本地質学会一般公開シンポジウム「防災教育と地質学: 子ども達を災害から守るために」(日本地質学会) 高知大学(2006年9月17日(日))

講演「チルドレン・ミュージアムについて」(乃村工藝社) 同左(2006年10月1日(日))

講演「日本列島の話」(山梨市教育委員会) 山梨市民会館(2007年2月24日(土))

日本博物館協会「誰にもやさしい博物館づくりに関する調査研究」シンポジウム(日本博物館協会) 江戸東京博物館(2007年2月27日(火))

理科教員研修会「地球環境変動史と日本列島」(茨城県下館市教育委員会) 筑西市ホテル(2007年3月3日(土))

日本博物館協会子どもゆめ基金「野外科学体験活動教材の開発」事業ワークショップ(日本博物館協会) 商工会館(千代田区霞が関)(2007年3月5日(月))

講演「地球環境の話」(逗子市) 逗子市役所(2007年3月25日(日))

高桑正敏

講演「神奈川県立生命の星・地球博物館の理念と展示の概要」(立命館大学国際平和ミュージアム) 当館(2006年12月5日(火))

広谷浩子

講演「小田原の自然・動物」(小田原市教育委員会生涯学習政策課) 小田原市生きがいふれあいセンターいそしぎ(2006年6月27日(火))

講演「サルからヒトへの進化をさぐる」(東京都調布市立小学校教育研究会理科研究部) 当館(2006年8月4日(金))

こども自然探検隊「サルからヒトへの進化をさぐる」(川崎市青少年科学館) 当館(2007年2月4日(日))

瀬能 宏

講演(瀬能 宏・樽 創)「ホオジロザメ? 川崎に流れ着いたスーパーシャーク」(川崎市) 川崎マリエン(2006年4月29日(土祝))

講演(樽 創・瀬能 宏)「神奈川県ホオジロザメ化石」

(川崎市) 川崎マリエン(2006年4月29日(土祝))
講演「メダカは生き残れるのか? 環境破壊・外来種・遺伝子かく乱」(大阪市立自然史博物館) 大阪市立自然史博物館講堂(2006年8月20日(日))

苅部治紀

講演「南島にはどんな虫がいるんだろう?—南島の昆虫相とその特徴—」(小笠原村ビジターセンター) 同左(2006年6月15日(木))

多摩動物公園小笠原特別展示関連講演「小笠原の固有昆虫の危機と保全への取り組み—外来種に奪われた固有昆虫たちの未来—」(多摩動物公園) 同左(2006年7月9日(日))

講演「水辺の虫があぶない!—神奈川県レッドデータ生物調査報告書から—」(相模原市立博物館) 相模原市立博物館地階大会議室(2006年8月27日(日))

講演「外来生物による小笠原の昆虫相の危機的な状況」(日本昆虫学会) 鹿児島大学(2006年9月18日(月))

講演「酒匂川の昆虫—その特徴と絶滅した昆虫たち—消え行く自然 水辺の再生を考える」(酒匂川水系の環境を考える会) 当館(2007年2月18日(日))

佐藤武宏

観察会「ひとりでできるもん! キャンプ 磯の生きもの観察—野外観察のしかた—」(NPO 法人 NAFA 子育て環境支援センター) 三浦市油壺荒井浜(2006年7月8日(土))

観察会「ひとりでできるもん! キャンプ 磯の生きもの観察—磯のカニを調べてみよう—」(NPO 法人 NAFA 子育て環境支援センター) 三浦市油壺荒井浜(2006年7月9日(日))

講演「キサゴ属3種にみられる対捕食戦略の違いとその意義について」(東京大学大学院理学系研究科) 同左(2006年11月21日(水))

講義「ヴァーメイの研究の追体験—観察で知る巻貝の進化—」(埼玉県立盲学校) 当館(2007年2月20日(土))

加藤ゆき

かながわ野生動物リハビリテーター養成講座「鳥類学入門」(かながわ野生動物サポートネットワーク) 神奈川県自然環境保全センター(2006年6月10日(土))

勝山輝男

バラタクソノミスト養成講座「スゲ植物」(北海道大学理学研究院) 北海道大学総合博物館(2006年6月17日(土))

講演「相模原市の植物調査の課題」(相模原市立博物館) 同左(2006年7月16日(日))

自然講座「かながわの自然と生き物たち 第4回 箱根の植物」(神奈川県教育委員会生涯学習文化財課) 当館(2006年12月9日(土))

講演「自然史博物館における植物の研究・教育・展示」
(富山県中央植物園) 同左(2006年12月12日(土)・
13日(日))
自然保護講座「丹沢の植物」(神奈川県自然環境保全セ
ンター) 神奈川県自然環境保全センターレクチャール
ム(2007年1月20日(土))

田中徳久

定例観察会「荒崎から和田長浜海岸へ」(植物観察同好
会) 横須賀市荒崎〜三浦市和田長浜海岸(2006年5
月16日(火))
緑陰講座「神奈川の植物分布」(植物観察同好会) 当館
(2006年8月1日(火))
サマープログラム「博物館のウラ側探訪」(神奈川県立外語
短期大学附属高等学校) 当館(2006年8月3日(木))
講座「箱根地区自然に親しむ運動〜箱根仙石原高原に
秋草を訪ねて」(箱根町観光部観光振興課) 箱根町仙
石原(2006年9月30日(土))
横浜植物会例会講演「2005年の植物界の話題」(横浜
植物界) 横浜市こども植物園(2006年12月17日(日))
横浜植物会例会講演「済州島ハルラ山3泊4日の旅」
(横浜植物会) 横浜市こども植物園(2007年1月14
日(日))
横浜植物会例会講演「マレーシア・ランカウイ島の自然
と…」(横浜植物会) 横浜市こども植物園(2007年1
月14日(日))
えのきの会研修会「くずは真鶴半島の自然—植物と植生
について—」(秦野市公園みどり課) くずはの家研修室
(2007年3月4日(日))
講座「若葉台再発見『雑木林の自然—植物群落の見
方—』」(横浜市若葉台地域ケアプラザ) 横浜市若葉台
地域ケアプラザ多目的ホールおよび大貫台公園(2007
年3月31日(土))

出川洋介

自然環境保全意識啓発講演会「泉の森のきのこ」(大和
市水と緑課) 大和市自然観察センターしらかしのいえ
(2006年9月23日(土))

樽 創

講演(瀬能 宏・樽 創)「ホオジロザメ? 川崎に流れ
着いたスーパーシャーク」(川崎市) 川崎マリエン(2006
年4月29日(土祝))
講演(樽 創・瀬能 宏)「神奈川県ホオジロザメ化石」
(川崎市) 川崎マリエン(2006年4月29日(土祝))

大島光春

児童文化行事講演「化石と恐竜のはなし」(小田原市教
育委員会生涯学習部青少年課) 当館(2006年11月
12日(日))

田口公則

観察会「相模の古代の宝石・セラドン石をさがしに行こ
う!」(神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター) 宮ヶ瀬湖
周辺(2006年4月1日(土))
講座「身近な道具で野外学習教具の製作〜クリノメーター
の製作〜」(神奈川県立総合教育センター) 同左(2006
年8月1日(火))
おだわらシルバー大学「まぼろしの足柄湾を訪ねて」(小
田原市教育委員会生涯学習政策課) 足柄平野(2006
年10月6日(金))
視察研修対応「地球の過去と現在の状況について」(静
岡県環境保全協会) 当館(2006年11月17日(金))
春季野外観察会(地学)「猿島」(神奈川県高等学校教
科研究会理科部会) 横須賀市猿島(2007年3月24
日(土))
日本第四紀学会講習会「貝化石群集を用いた古環境の
復元法—下飯田遊水池露頭にて貝化石の観察—」(日
本第四紀学会) 横浜市下飯田遊水池(2007年3月
10日(土))
日本第四紀学会講習会「貝化石群集を用いた古環境の
復元法—貝化石を用いた実習・講義—」(日本第四紀
学会) 当館(2007年3月11日(日))

平田大二

視察対応「環境教育・環境学習関連施設の視察—展示
施設、講座・催し物、環境教育・環境学習に関する事
項について」(静岡県環境衛生科学研究所) 当館(2006
年4月21日(金))
成人セミナー「鎌倉が経験した地震とその被害」(鎌倉市
生涯学習推進委員会) 鎌倉市腰越学習センター(2006
年6月5日(月)・12日(月)・26日(月))
視察対応「『持続可能な開発のための防災教育専門家国
際ワークショップ』に関する当博物館視察と箱根火山
フィールドワーク」(国立教育政策研究所) 当館・箱根
町(2006年6月15日(木)・16日(金))
NACS-J 自然観察指導員講習会「神奈川 野外実習『地
域の自然を見てみよう』(地形・地質)」(財団法人日本
自然保護協会(NACS-J)) 富士ゼロックス株式会社塚
原研修所(2006年7月15日(土)・16日(日))
おおい課外塾「酒匂川探検隊—石が語る酒匂川—」(大
井町教育委員会生涯学習課) 酒匂川三角土手付近・
当館(2006年8月19日(土))
講演「第14回全国科学博物館協議会研究発表大会『利
用者の満足度を高める? 多様なニーズへの対応』事
例発表『学校・地域との連携』」(全国科学博物館協
議会) 新江ノ島水族館なぎさの体験学習館(2007年
3月1日(木))

新井田秀一

西湘科学の活動発表会記念講演「宇宙から地球を調べ
る〜地球観測衛星の成果について〜」(西湘科学振興

委員会) 当館 (2007 年 3 月 21 日 (水))

笠間友博

講演「三浦半島の地質」(藤沢市教育文化センター) 三浦半島 (2006 年 6 月 29 日 (木))

講座「こども探検隊」(神奈川県立青少年センター) 当館 (2006 年 8 月 3 日 (木))

講演「三浦半島の地質」(藤沢市教育文化センター) 三浦半島 (2006 年 8 月 9 日 (水))

研修会「第 5 回理科研修会 火山灰土の洗い出しと地域教材を取り入れた授業計画」(あしがら NST) 南足柄市岡本公民館 (2006 年 8 月 20 日 (日))

山下浩之

観察会「西丹沢のザクロ石流紋岩の観察」(平塚市博物館・相模川の生い立ちを探る会) 山北町中川・細川谷 (2006 年 6 月 25 日 (日))

講演「箱根火山の形成史に関する最新の研究例について」(箱根を守る会) 箱根町郷土資料館 (2006 年 6 月 27 日 (火))

野外巡検「東京大学地球惑星科学 21 世紀 COE プログラム 固体地球部門国際ワークショップ 野外巡検」(東京大学地球惑星科学専攻・東京大学地震研究所) 丹沢山地・箱根火山周辺 (2006 年 9 月 30 日 (土))

石浜佐栄子

講義・実習「地層のつき方について」(神奈川県立青少年

センター) 当館 (2006 年 8 月 3 日 (木))

実験・講演「堆積に関する実験と講演」(小田原市小学校理科研究会) 当館 (2006 年 11 月 21 日 (火))

奥野花代子

講義「博物館学集中コース」(国立民族学博物館) 国立民族学博物館 (2006 年 5 月 29 日 (月)・30 日 (火))

見学対応・講義「当館常設展示見学と教養講座の講義」(神奈川県ライトセンター) 当館 (2006 年 7 月 25 日 (火))

西湘出前講座「ミュージアムを楽しむ～五官(感)を使う」(神奈川県西湘地域県政総合センター県民課) 当館 (2006 年 7 月 28 日 (金))

公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムを考える 国際シンポジウム～“つくる”努力と“ひらく”情熱を求めて」(独立行政法人国立科学博物館) 同左 (2006 年 9 月 23 日 (土)～25 日 (月))

講義「博物館のバリアフリー」(寒川町麦笛の会) 当館 (2006 年 8 月 22 日 (火))

西湘出前講座「ミュージアムを楽しむ～五官(感)を使う～」(西湘地域県政総合センター県民課) 小田原音羽 (2006 年 10 月 24 日 (火))

講義「地球博物館の運営にあたっての学芸員の果たす役割について」(柳井市教育委員会) 当館 (2006 年 12 月 15 日 (金))

講義「当館のユニバーサル・ミュージアムへの対応」(埼玉県立盲学校) 当館 (2007 年 2 月 20 日 (土))

3.8. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会について、「それぞれの名称(担当者)」と、「実施日(場所)参加者数」について記載した。

神奈川県昆虫談話会例会(高桑正敏・荻部治紀)

2006 年 8 月 27 日 (日) (講義室) 39 名

2006 年 10 月 29 日 (日) (講義室) 36 名

2006 年 12 月 3 日 (日) (講義室) 39 名

2007 年 1 月 28 日 (日) (講義室) 42 名

2007 年 2 月 25 日 (日) (講義室) 28 名

2007 年 3 月 25 日 (日) 講義室 28 名

日本チョウ類保全協会「チョウ類の保全を考える集い」(高桑正敏)

2007 年 2 月 10 日 (土) (講義室) 40 名

2007 年 2 月 11 日 (日) (講義室) 40 名

平成 17 年度魚の会総会・平成 18 年度魚の会第 1 回講演会(瀬能 宏)

2006 年 5 月 21 日 (日) (講義室) 32 名

平成 18 年度魚の会第 3 回講演会(瀬能 宏)

2006 年 11 月 26 日 (日) (講義室) 21 名

第 24 回化石研究会学術大会(樽 創)

2006 年 6 月 3 日 (土) (講義室) 43 名

2006 年 6 月 4 日 (日) (講義室) 25 名

第 118 回湘南地球科学の会(平田大二・山下浩之・大島光春)

2007 年 3 月 3 日 (土) (講義室) 18 名

鉱物標本観察会(平田大二)

2006 年 10 月 22 日 (日) (実習実験室) 14 名

2006 年 11 月 4 日 (土) (実習実験室) 14 名

2006 年 11 月 18 日 (土) (実習実験室) 9 名

2006 年 11 月 26 日 (日) (実習実験室) 23 名

2007 年 1 月 7 日 (日) (実習実験室) 11 名

2007 年 1 月 8 日 (月祝) (実習実験室) 10 名

2007 年 1 月 14 日 (日) (実習実験室) 10 名

2007 年 2 月 4 日 (日) (実習実験室) 22 名

2007 年 2 月 12 日 (月休) (実習実験室) 15 名

2007 年 2 月 24 日 (土) (実習実験室) 20 名

3.9. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、「協力先」「企画名」「期間」「協力内容（担当者）」を記載した。

川崎市川崎マリエン「ホオジロザメ展示」（2006年4月29日（土祝）～常設）解説パネル・ちらし等（瀬能 宏・樽 創）

神奈川県立歴史博物館特別展「富士山大噴火—宝永の「砂降り」と神奈川」（2006年10月14日（土）～11月19日（日））CG鳥瞰図作成（新井田秀一）

相模原市立博物館暫定展示「自然歴史展示室」（2007年3月10日（土）～）CG鳥瞰図作成（新井田秀一）

横浜市立金沢動物園のはな館企画展示「ほねほね動物園2」（2007年2月23日（金）～4月15日（日））展示協力（大島光春・樽 創）

3.10. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は外来研究員を16名受け入れた。以下に「外来研究員氏名：研究テーマ（受入担当者）」を掲載する。なお、今年度の研究成果に関しては、資料の項（101～108ページ）に掲載した。

若代彰路：西丹沢の森林・溪流生態系における哺乳類の研究（広谷浩子）

中山 文：人工林内における中小型哺乳類の確認（広谷浩子）

丸野内淳介：両生類液浸標本の登録作業（新井一政）

長谷川嘉則：両生類の成体および幼体についての標本保存法の検討（新井一政）

中村進一：神奈川県のRD種の蝶類に関する調査研究（高桑正敏）

須島充昭：神奈川県におけるクロバネキノコバエ科の種多様性に関する研究（高桑正敏）

橋本みのり：大型土壌動物ヤスデ類の大発生による土壌食物網への影響の解明（高桑正敏）

佐久間 将：本州中部域におけるセスジアカムカデの分類学的研究（出川洋介）

八巻明香：ワラジムシ亜目の分類学（出川洋介）

内船俊樹：中部日本におけるガロアムシ類の分類学的研究（出川洋介）

佐藤隆士：植物寄生性 *Megastigmus* 属オナガコバチ類と針葉樹種との関係（出川洋介）

里村多香美：熱帯から温帯地域の多様な森林における植物共生菌類相調査（出川洋介）

川上新一：神奈川県産細胞性粘菌フロラおよびその分類学的解析（出川洋介）

姉崎智子：神奈川県下の完新世動物の形態変異に関する研究—特にニホンイノシシとニホンザルを中心に—（樽 創）

門田真人：「丹沢の化石サンゴ礁」復元と南関東中新世サング石炭岩の分布調査（田口公則）

奥村 清：横須賀累層産軟体動物化石の研究（田口公則）

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2007年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は右表のとおりである。機器等の整備の遅れ、既存データの移行不良などにより、登録作業が遅れている分野もある。

なお、開館以来の資料登録実績に関しては、資料の項(99ページ)に掲載した。

4.1.2. 購入資料

[鳥類] 合計 8 点

剥製(シマゴマ、オオヨシキリ、ハマヒバリ、ベニヒワ、オオマシコ、ギンザンマシコ、ミゾゴイ、アオシギ) 各1点

[魚類] 合計 63 点

相模湾とその関連海域魚類 30 点

原始的淡水魚類 33 点

[昆虫] 合計 258 点

世界の昆虫標本 110 点

ゴミムシダマシ科ハモンゴミムシダマシ(ペルー産) など 18 点

コガネムシ科ミドリプラチナコガネ(コスタリカ産) 1 点

クワガタムシ科パプアヒメホソアカクワガタ(パプアニューギニア産) 1 点

カミキリムシ科クシヒゲホソミヤマカミキリ(スラウェシ産) など 13 点

ヒゲブトオサムシ科オオヒゲブトオサムシ(ザンビア産) 2 点

ハンミョウ科ハチモドキハンミョウ(ザンビア産) 1 点

クヌギカメムシ科アカイツモンカメムシ(エクアドル産) 5 点

サシガメ科フタモンオオサシガメ(ペルー産) 5 点

ゾウムシ科ルリモンハウセキゾウムシ(パプアニューギニア産) など 41 点

アリ科セマルオオアリ(ペルー産) など 7 点

キリギリス科ツタベニツユムシ(コスタリカ産) 1 点

バッタ科シタベニオオバッタ(コスタリカ産) など 8 点

カマキリ科ケントウカマキリ(マレーシア産) など 7 点

世界のトンボ 82 点

ボルネオ島サラワク産サナエトンボ科・ヤンマ科・エゾ

収蔵資料の登録実績

分野	2005年度までの登録数	2006年度の登録数	合計
哺乳類	1,277	194	1,471
鳥類	905	149	1,054
魚類	15,538	3,127	18,665
魚類写真	64,571	1,986	66,557
昆虫	29,028	0	29,028
軟体動物	7,123	397	7,520
甲殻類	4,684	559	5,243
甲殻類細密画	6	142	148
動物その他	45	0	45
維管束植物	193,349	9,879	203,228
コケ	2,841	0	2,841
菌類・地衣類	3,397	0	3,397
植物その他	7	0	7
植生	114	58	172
化石	8,801	1	8,802
岩石	2,570	0	2,570
鉱物	1,750	11,061	12,811
地質・ボーリング	1	1	2
衛星画像	428	0	428
衛星処理画像		70	70
景観画像		378	378
合計	336,435	28,002	364,437

トンボ科・トンボ科 76 点

ウガンダ産トンボ科など 4 点

南アフリカ産モノサシトンボ科 1 点

ペルー産トゲオトンボ科 1 点

カミキリ類の雑種標本 66 点

[植物] 合計 3 点

キノコ(キヌガサダケ) 拡大模型 1 点

変形菌類(ムラサキホコリ)の子実体形成過程拡大模型 1 点

菌類の生活史映像 1 点

[化石] 合計 37 点

クビワベッカーイ頭骨 1 点

パレオパラドキシア・ダバタイ頭骨・四肢骨レプリカ 1 セット 1 点

デスモスチルス乳臼歯 1 セット 3 点
ステラーダイカイギウ頭骨レプリカ 1 点
マダガスカル産アンモナイト切断ベア標本 29 点
チェサペクテン (ホタテガイ) 2 点

[岩石・鉱物] 合計 2 点
地層剥ぎ取り資料 (東漸寺貝塚自然貝層、箱根火山古
期カルデラ形成期噴出物) 2 点
[衛星画像] 合計 23 点
地球観測衛星 ASTER データ 21 点
日本近海 30 秒グリッド水深データ 2 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 点数 (寄贈者 (敬称略))」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計点数を記した。なお、寄贈手続きは完了しているが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には掲載していない。

[哺乳類] 合計 130 点

マレーグマ 1 点
ハクビシン 1 点
アラビアオリックスほか 3 点
ニホンノウサギ 1 点
ニホンノウサギほか 25 点
アナグマほか 27 点
キュウシュウノウサギ 1 点
ニホンジカ 37 点
ムササビ 1 点
ミンククジラ 3 点
ニイガタヤチネズミ 1 点
キタリスほか 3 点
ニホンジネズミ 2 点
タヌキほか 4 点
イエネコほか 2 点
ツキノワグマ 1 点
ニホンカモシカ 1 点
ハクビシン 1 点
テン 1 点
ニホンイノシシ 9 点
オオカミ 1 点
ニイガタヤチネズミ 1 点
ガウアほか 3 点

[鳥類] 合計 105 点

ヒヨドリほか 88 点
ツグミ 1 点
ヒヨドリ 1 点
トラツグミ 1 点
イカル 1 点
ノゴマ 1 点
スズメ 1 点
キンバト 1 点
ヒヨドリ 7 点

カルガモ 1 点
オオルリ 1 点
カモメ 1 点
[魚類] 合計 2,914 点
ギンガメアジほか 62 点
キホウボウほか 33 点
フサカサゴ属の 1 種 1 点
コイ (飼育型) ほか 10 点
ギョウテリス属の 1 種 1 点

オキナワベニハゼほか 8 点
カゴカキダイほか 4 点
オオシロアナゴほか 19 点
タマカイほか 6 点
ギンブナほか 161 点
イボオコゼほか 9 点
ドンコほか 9 点
ミツボシキウセンほか 398 点
クロホシイシモチ 10 点
オイカワほか 260 点
ヤマメほか 254 点
ナミノハナほか 3 点
タカハヤほか 17 点
カワヨシノボリほか 18 点
アカグツほか 4 点
イトヒキハゼほか 52 点
ダンゴウオ 1 点
ハシヒロアナゴほか 10 点
テンスモドキ 1 点
ティフロヌス・ナサスほか 97 点
ハナザメ 1 点
オカムラギンメ 1 点
キジハタ 1 点
アカントスフェックス・レウリスほか 5 点
アミモンガラほか 5 点
トゲカナガシラほか 25 点
チャネル・キャットフィッシュほか 583 点
クロヌタウナギ 14 点
サクラダイほか 6 点
ベニハゼ属の 1 種 4 点
ヨウジウオ科未同定属未同定種 1 点

ホテイエソほか 6 点
 シラコダイ 1 点
 ツラナガソコカナガシラほか 133 点
 セトミノカサゴ 2 点
 ボラ 1 点
 モロほか 30 点
 ギンカガミほか 2 点
 スミツキアカタチ 3 点
 コイ (飼育型) ほか 2 点
 メダカ (南日本集団地域型不明) 1 点
 ホオジロザメ 1 点
 キヘリキンチャクダイほか 2 点
 マハゼほか 106 点
 タケウツボ 1 点
 オイカワほか 212 点
 キホウボウほか 12 点
 ヒガンフグ 2 点
 テンガイハタ 1 点
 ハシキンメほか 14 点
 ドタブカ 1 点
 アカアジほか 3 点
 チチブモドキほか 136 点
 アイブリ 1 点
 ミナミクロダイ 1 点
 カガミダイほか 5 点
 フタスジハゼほか 18 点
 カジカほか 34 点
 ハナメゴチ 1 点
 イドミズハゼ 1 点
 リノムギル・ナスタスほか 47 点
 タナバタウオほか 14 点
 サツキハゼほか 14 点
 コイ (飼育型) 4 点
 アステリアナックス・ファスキアタス種群 7 点
 [魚類写真] 合計 1985 点
 キホウボウ科未同定属未同定種ほか 4 点
 フサカサゴ科の 1 種 1 点
 サケガシラ 1 点
 ハナビラウツボ 1 点
 カエルアンコウ属未同定種 1 点
 ミシマオコゼ属未同定種 1 点
 アカカマスほか 131 点
 シャープスノウト・スネーク・イール 1 点
 ウサギトラギスほか 3 点
 ワタカ 1 点
 トラギス属未同定種 1 点
 イトヒキハゼほか 5 点
 ワモンフグ 1 点
 リボンイワシ 1 点
 キマダラハゼ 1 点
 アンコウほか 2 点
 アウターリーフ・ダムゼルほか 260 点
 マルスズメダイ 1 点
 シキシマハナダイ 1 点
 プテルエレオトリス・ウロディタエニア 1 点
 ヒメハナダイ 3 点
 カナガシラ属未同定種ほか 2 点
 ベニハゼ属未同定種 2 点
 アカヤガラ 1 点
 オニカナガシラほか 2 点
 クビアカハゼほか 5 点
 イボオコゼほか 4 点
 アジアコショウダイほか 14 点
 ホオスジモチノウオほか 3 点
 ハゼ科未同定属未同定種ほか 3 点
 ナガハナダイ属未同定種 1 点
 クロスズメダイ 1 点
 オキナワベニハゼほか 4 点
 モヨウフグ 1 点
 スナゴハゼほか 3 点
 ヒボカンバス・コールマニィ 1 点
 アカオビハナダイ 1 点
 キツネウオ属未同定種ほか 8 点
 ウグイ 1 点
 シャープスノウト・スネーク・イール 1 点
 ニセモチノウオ 1 点
 アカホシキツネベラほか 21 点
 ジュズカケハゼ 3 点
 インドアカタチ 1 点
 イトウ 1 点
 クロユリハゼ属未同定種ほか 3 点
 アマゴほか 3 点
 タテガミカエルウオほか 3 点
 ウシノシタ科の 1 種 1 点
 ソラスズメダイほか 4 点
 アミメミノカエルウオほか 21 点
 アカアマダイほか 140 点
 アオハタ 1 点
 イトヒキハゼ属未同定種 1 点
 クログチニザ 1 点
 クロソラスズメダイ属未同定種 1 点
 オハグロベラ 1 点
 未同定 1 点
 テンガイハタ 1 点
 イトヒキハゼ属未同定種ほか 16 点
 イレズミニザほか 3 点
 サクラテンジクダイほか 2 点
 イソハゼ属未同定種 1 点
 イトアナゴ 1 点

オジロスズメダイほか 3 点
イトヒキハゼ属未同定種ほか 6 点
アルファスズメダイほか 9 点
カエルアンコウ属未同定種ほか 15 点
キヌカジカ 1 点
アオサハギ属の 1 種ほか 30 点
アカササノハベラほか 11 点
メガネクロハギ 1 点
オハグロベラ 1 点
イソアイナメ 1 点
アカアマダイほか 26 点
カンムリベラほか 6 点
フサイタチウオ科未同定属未同定種 1 点
ヤミテンジクダイ 2 点
ヤハズハゼ 1 点
アオハナテンジクダイほか 84 点
ツノカサゴほか 3 点
ニラミギンボ 1 点
クラカオスズメダイほか 25 点
イシフエダイほか 2 点
オオモンハゼ属未同定種 1 点
アトヒキテンジクダイ属の 1 種ほか 20 点
スカシテンジクダイ 1 点
ハゼ科未同定属未同定種 1 点
イトマキエイ属未同定種 1 点
アオブダイ属未同定種ほか 12 点
アゴアマダイ属未同定種 1 点
ホタテツノハゼ属未同定種 1 点
イソギンボ属未同定種ほか 47 点
ノコギリヨウジ 1 点
オリオンズズメダイほか 7 点
ホタテツノハゼ属未同定種 1 点
ジンベエザメ 1 点
バラヒメダイ 1 点
シミラー・ダムゼルほか 5 点
オナガザメ属未同定種ほか 2 点
サケ 1 点
アヤマカサゴほか 53 点
イトヒキハゼ属未同定種ほか 9 点
エイラクブカ 1 点
ナガハナダイ 1 点
カスリヘビギンボほか 2 点
フエダイ科の 1 種 1 点
イボオコゼほか 2 点
ニセスズメ属未同定種 1 点
イソギンボ科未同定属未同定種ほか 6 点
オキシメトボン・コンプレッサスほか 7 点
アブラボテほか 4 点
キンリンサザナミハギ 1 点
スジハナダイ近似種 1 点
アゴアマダイ属未同定種ほか 4 点

シュードコリス・ヘテロブテラほか 10 点
クラカケチョウチョウウオ 1 点
タマギンボほか 3 点
アオハタほか 19 点
ベニハゼ属の 1 種 3 2 点
アサバホラアナゴほか 16 点
イトヒキハゼ属未同定種ほか 8 点
ナカモトイロワケハゼほか 3 点
アゴアマダイ属未同定種ほか 28 点
スジスズメダイ 3 点
エリマキヘビギンボほか 34 点
オキナワハゼ属未同定種ほか 2 点
クロベラほか 3 点
ヤガラ属未同定種 1 点
オヤビツチャ 1 点
カンムリブダイほか 2 点
イシダイ 1 点
アイゴほか 259 点
タカサゴ科未同定種 1 点
コチ科未同定属未同定種ほか 9 点
ゴマアイゴほか 4 点
カタボシオオモンハゼほか 12 点
ニセスズメ属未同定種 1 点
セイシエルズ・ブレニー 1 点
アイカジカほか 160 点
アイナメほか 25 点
ニセクラカオスズメダイ 12 点
イソギンボ属未同定種ほか 42 点
アオハタほか 14 点
イボオコゼ科未同定属未同定種ほか 4 点
カシワハナダイほか 2 点
アルファスズメダイほか 2 点
アイスズメダイほか 54 点
アデウツボほか 2 点
アズマハナダイほか 2 点
アブラハヤほか 4 点
イドミズハゼ 1 点
イトヒキハゼほか 3 点
ギバチほか 2 点
アヤアナハゼ 1 点
ホタテツノハゼ属未同定種 1 点
マスダオコゼ 1 点
アカテンモチノウオほか 26 点
オキナワハゼ属未同定種ほか 21 点
オニゴチほか 3 点
トンガリハゼ属未同定種ほか 3 点
カワヤツメ 1 点
ミナミハナダイ 1 点
コチ科未同定属未同定種 1 点
アオギハゼ近似種 1 ほか 31 点
ヨウジウオ科未同定属未同定種 1 点

アナハゼほか3点
 [軟体動物] 合計13点
 シナハマグリほか11点
 ドブガイほか2点
 [甲殻類] 合計9点
 オガサワラモクズガニ2点
 トラフカラッパ6点
 ノコギリガザミほか1点
 [維管束植物] 合計9,156点
 神奈川県津久井郡津久井町産アスナロほか8点

 東京都小笠原諸島小笠原村母島産セキモンスゲほか9点

 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原産ミツバベンケイソウほか2点
 富山県富山市産タカネショウジョウスゲほか2点

 神奈川県足柄下郡箱根町産タンザワヒゴタイほか3点

 神奈川県逗子市産ヤセウツボ1点
 三重県鳥羽市安楽島町産ヒメゴウソほか4点
 マレーシア産コヒルギほか2点
 岩手県産ゴヨウザンヨウラクほか4点
 東京都多摩市鶴牧5丁目産アメリカヤガミスゲ1点

 新潟県西蒲原郡弥彦村産ホソバカンスゲ1点
 神奈川県小田原市根府川産トヨラクサイチゴほか6点

 東京都八丈島八丈町産ムカゴサイシン1点
 山梨県中巨摩郡芦安村産ミネザクラほか2点
 神奈川県川崎市多摩区東生田産カラクサケマンほか7点

 神奈川県足柄上郡山北町産イワヤナギシダ1点

 神奈川県愛甲郡清川村産コアツモリソウほか7点

 埼玉県飯塚産チチブザクラほか24点
 神奈川県横須賀市芦名産ノコギリシダほか27点

 静岡県静岡市産キンレイカほか2点
 静岡県熱海市伊豆山産アオツヅラフジほか19点

 神奈川県横浜市港南区日野産ウチワゼニクサ5点

 東京都八丈島八丈町産ハチジョウカンスゲほか8点

 高知県土佐市産シオクグ1点

 北海道札幌市豊平区産オウシュウトボシガラほか2点

 鹿児島県垂水市産タカマホトトギスほか5点

神奈川県横須賀市芦名産ツルウメモドキほか32点

 神奈川県藤沢市辻堂産ハマカキランほか6点
 長野県北安曇郡小谷村産クロマメノキほか3点
 神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴産ハマホラシノブ1点

 神奈川県横浜市青葉区恩田町産アマクサシダほか4点

 北海道根室市昆布盛産ナガハグサほか6点
 北海道根室市産ハマニンニクほか13点
 宮城県東白杵郡諸塚村産イトスゲほか3点
 神奈川県中郡二宮町山西産アフリカフウチョウソウほか22点
 静岡県熱海市伊豆山産アキノエノコログサほか42点

 静岡県熱海市泉産イワガネソウほか2点
 静岡県熱海市泉産コボタンヅルほか29点

 愛知県新城市産シライトソウほか160点

 愛知県・長野県北設楽郡・北伊那郡産アオヒエスゲほか35点
 静岡県浜松市水窪町産マンシュウクロカワスゲ1点

 神奈川県足柄下郡箱根町神山産ヒメイワカガミほか18点
 神奈川県津久井郡城山町産アズマネザサほか49点

 神奈川県津久井郡津久井町産ウラジロノキ1点

 神奈川県愛甲郡愛川町産オオイタドリ1点

 高知県香美郡物部村産トサノミゾシダモドキ1点

 群馬県利根郡片品村産シモツケソウほか77点
 神奈川県足柄下郡箱根町神山産アツモリソウ1点

 神奈川県横浜市神奈川区菅田町産ギネアキビ2点

 静岡県熱海市泉産ヤマザクラほか26点
 京都府加佐郡大江町産ショウジョウスゲほか2点

 神奈川県足柄上郡大井町山田産アフリカフウチョウソウ1点
 愛媛県産インズチザクラ1点
 三重県桑名市多度町福永産ヒメシオンほか2点
 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原産マメグミ1点
 神奈川県藤沢市高倉産コブシほか6点
 静岡県熱海市泉産ニオイタチツボスミレほか36点

 山梨県大月市大月町真木産イケマほか11点

菅澤桂子)
東京都町田市玉川学園産ムカゴサイシン 1 点

神奈川県津久井郡津久井町根小屋産タカオヒゴタイほか
256 点
神奈川県足柄下郡箱根町宮城野産シダレザクラほか 175
点
コメツツジほか 3 点
沖縄県国頭郡国頭村産オキナワスズムシソウほか 26 点

静岡県熱海市伊豆山産アワミツバツツジほか 29 点

山梨県南都留郡山中湖村産マメザクラほか 47 点

神奈川県横須賀市芦名産ベニシダほか 35 点
岡山県岡山市灘崎町片岡産イヌホオズキほか 1 点

神奈川県足柄下郡箱根町産キントキヒゴタイほか 20 点
神奈川県足柄下郡箱根町産ササエビモほか 2 点
神奈川県足柄下郡箱根町強羅産キントキヒゴタイ 1 点

沖縄県うるま市与那城伊計産ギョウギシバほか 10 点

沖縄県島尻郡北大東村南産ノキビほか 4 点
三重県三重郡菰野町朝明溪谷の上産コミヤマカンスゲほ
か 2 点
山口県大島郡周防大島町東安下庄産カラクサケマン 1 点

神奈川県厚木市上荻野産キクモほか 6 点
神奈川県足柄下郡箱根町須雲川産ハコネシダ 1 点

栃木県下都賀郡大平町産ツブラジイほか 18 点
神奈川県相模原市橋本産アオキほか 126 点
神奈川県津久井郡藤野町日連産エビネほか 3 点

山梨県大月市大月町真木産ヤハズヒゴタイほか 11 点

神奈川県津久井郡藤野町日連産イヌザクラほか 4 点

高知県高岡郡東津野村産ツルミヤマカンスゲほか 3 点

神奈川県足柄上郡山北町産トウカイスミレ 1 点
静岡県静岡市産ミヤマザクラほか 8 点
静岡県熱海市泉産オオシマザクラほか 47 点

神奈川県川崎市中原区小杉産ヒナツメクサほか 2 点

神奈川県藤沢市産ツルコウゾほか 2 点
愛知県尾張旭市新居町産カスミザクラほか 9 点

神奈川県横浜市栄区産オオヒメワラビほか 2 点
三重県四日市市産オニコウゾリナほか 41 点
神奈川県藤沢市辻堂産クゲヌマランほか 2 点
神奈川県足柄下郡箱根町産ヒメヒゴタイ 1 点
神奈川県平塚市土屋産アゼナルコ 1 点
神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷産サラサドウダンほか 13
点
栃木県宇都宮市篠井町産クロツバラほか 360 点

静岡県熱海市伊豆山産キヨシミツバツツジほか 52 点

神奈川県横須賀市産シチトウハナワラビ 1 点

神奈川県愛甲郡清川村産ヤマアワほか 15 点

神奈川県津久井郡津久井町大室山産タンザワイケマほか
7 点
神奈川県小田原市荻窪産イイギリほか 5 点
神奈川県小田原市入生田産ゼンマイ 1 点

神奈川県小田原市入生田産イワガネゼンマイほか 30 点

神奈川県小田原市入生田産イノモトソウほか 5 点

神奈川県厚木市七沢産カイノキほか 2 点
神奈川県横須賀市芦名産アカガシほか 18 点
山梨県東山梨郡大和村産オオツリバナ 2 点
栃木県宇都宮市中戸祭町・釜川産ハイドジョウツナギ 1
点
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原産コイトスゲほか 1407
点
神奈川県足柄上郡山北町産アマギイノデほか 3 点

神奈川県足柄上郡山北町産アイノコクマワラビほか 6 点

神奈川県相模原市津久井町産ミヤマアオダモ 1 点

神奈川県愛甲郡清川村産ミヤマアオダモほか 7 点

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万産ケクロモジほか 123 点

神奈川県足柄上郡山北町産タキミシダ 1 点

神奈川県足柄上郡山北町産サイゴクベニシダ 1 点

神奈川県足柄下郡箱根町産キントキヒゴタイほか 5115 点

岐阜県郡上郡八幡町産ホザキツリガネツツジほか 106 点

神奈川県足柄下郡箱根町産セキシウモほか 6 点

長野県北安曇郡白馬村産ミヤマムラサキ 1 点
 静岡県熱海市泉産オオバノトンボソウほか 33 点
 静岡県熱海市泉産オオカナワラビ 1 点
 神奈川県小田原市入生田産アメリカオニアザミ 1 点

福井県敦賀市黒河国有林産コミヤマカンスゲ 1 点

山梨県中巨摩郡芦安村産ハコネギクほか 6 点
 静岡県熱海市産サルナンほか 2 点
 宮崎県西都市三宅産ナチシケンダ 2 点
 神奈川県秦野市千村産ジャコウソウ 1 点
 神奈川県足柄上郡山北町玄倉産ホソエカエデ 1 点

秋田県仙北郡産イトアオスゲほか 35 点

秋田県仙北市産ゴヨウイチゴほか 8 点

沖縄県八重山郡竹富町西表島産ハイキビほか 32 点

神奈川県相模原市上矢部産マツバゼリほか 2 点

静岡県熱海市伊豆山産シラキほか 7 点
 石川県白山市産ミヤマアワガエリ 1 点
 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原産ミズトンボほか 2 点

愛媛県産シコクシラベほか 2 点
 鹿児島県熊毛郡上屋久町産ヤクシマヨウラクツツジほか
 43 点

神奈川県足柄下郡箱根町産ハコネギク 1 点
 京都府宮津市産ダルマガク 1 点
 沖縄県八重山郡竹富町西表産ハタガヤ 1 点
 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原産マツムシソウ 1 点

北海道旭川市産ヒメカラフトイチゴツナギ 1 点
 三重県熊野市久生屋町産クロハライ 4 点
 静岡県周智郡春野町産シシラン 8 点
 神奈川県鎌倉市産ニオイタチツボスミレ 1 点
 栃木県宇都宮市産オオアオスゲ 1 点
 愛媛県上浮穴郡産クジュウスゲ 1 点
 栃木県鹿沼市草久産ニッコウハリスゲほか 1 点

神奈川県横浜市栄区本郷台産チャボノカタビラほか 1 点

ツクバネガシほか 2 点
 埼玉県入間市東町産アワゴケ 1 点
 神奈川県横須賀市芦名産イヌワラビほか 6 点
 栃木県宇都宮市幕田町産ヒメムツオレガヤツリ 1 点

神奈川県横浜市都筑区川向町産アズマツメクサほか 2 点

神奈川県横浜市都筑区川向町産ヒロハスズメノトウガラ
 シほか 2 点
 埼玉県川口市産コウキヤガラ 1 点

[化石] 合計 1 点
 ホオジロザメ 1 点

4.1.4. 採集その他による資料（新たに登録されたもの）

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
哺乳類	64	甲殻類	550	植物その他		衛星画像	
鳥類	44	甲殻類細密画	142	植生	58	衛星処理画像	70
魚類	213	動物その他		化石		景観画像	378
魚類写真	1	維管束植物	723	岩石			
昆虫		コケ		鉱物	11,061		
軟体動物	384	菌類・地衣類		地質・ボーリング	1		
合計						合計	13,689

4.1.5. 既存資料の加工

[哺乳類] 合計 3 点

ゾウ骨格 1 点
 アラビアオリックス本剥製 1 点
 ビクーニャ晒し骨格 1 点

[鳥類] 合計 11 点

ダーウィンレア本剥製 1 点
 仮剥製（ヒメアマツバメ、クロジ、オオルリ、アオバズク、
 タシギ、ヨシゴイ、アオバト、ヤマシギ、オオタカ、フ
 クロウ仮剥製各 1 点）10 点

4.2. 図書資料収集状況

今年度受入れした和書の冊数は、購入が137冊、寄贈が707冊、編入が28冊、管理換が1冊であった。洋書については、購入が1冊、寄贈が10冊であった。受入れ図書の合計は884冊である。2007年3月31日現在の所蔵資料総数は次のとおりである。

分野	登録数	分野	登録数
国内刊行図書	13,672 (冊)	ビデオソフト	332 (巻)
国外刊行図書	2,769 (冊)	CD-ROM	16 (タイトル)
購入国内雑誌	10 (タイトル)	マイクロフィルム	34 (リール)
購入国外雑誌	15 (タイトル)		
寄贈国内雑誌	2,428 (タイトル)		
寄贈国外雑誌	535 (タイトル)		
合計		19,811 (点)	

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 資料特別利用

博物館が収集した資料を学術上の研究に利用するために特別利用の制度を設けている。利用しようとする者は、

特別利用承認申請書を提出し、承認を受け、収蔵資料を閲覧、計測、撮影できる。

分野別の特別利用の件数

種別			閲覧		撮影		解析		その他		計	
			件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	3	31	1	10	2	33			6	74
		画像										
	鳥類	標本	1	23							1	23
		画像										
	両生・爬虫類	標本										
		画像										
	魚類	標本	17	177	1	3	6	23			24	203
		画像										
		デジタル画像	10	1,071							10	1,071
		属性										
	昆虫	標本										
		画像										
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本	1	1							1	1
		画像							2	4	2	4
		デジタル画像										
植物	標本	41								41		
	画像											
	属性							3	22,711	3	22,711	
古生物	標本			1	1					1	1	
	画像											
	デジタル画像											
地球環境	標本			1	1					1	1	
	画像							1	51	1	51	
	デジタル画像							4	24	4	24	
計			73	1,303	4	15	8	56	10	22,790	95	24,164

4.3.2. 資料館外貸出

博物館が収集した資料を普及・教育等に供するため、館外貸出の制度を設けている。貸し出しを受けようとするものは、館外貸出承認申請書を提出し、承認を受け、収蔵資

料を借り出すことができる。また、魚類の画像資料と標本については、独立行政法人国立科学博物館との協働により、インターネット上に公開されている(7.3の表5を参照)。

分野別の館外貸出の件数

種別			展示		教材		掲載		その他		計	
			件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	1	13	1	4			1	1	3	18
		画像										
	鳥類	標本										
		画像					1	1			1	1
	両生・爬虫類	標本										
		画像										
	魚類	標本	3	6							3	6
		画像										
		デジタル画像	3	210	4	16	24	68	5	23	36	317
		属性										
	昆虫	標本							4	35	4	35
		画像										
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本										
		画像					1	2			1	2
		デジタル画像										
植物	標本											
	画像											
	属性											
古生物	標本	2	10			1	1	1	2	4	13	
	画像					1	24			1	24	
	デジタル画像	1	1			1	3			2	4	
地球環境	標本	8	119							8	119	
	画像	13	210	1	1	4	4	2	2	20	217	
	デジタル画像	1	1	5	19	7	11			13	31	
計			32	570	11	40	40	114	13	63	96	787

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために、収蔵庫に対して燻蒸を実施した。

[期間] 2006年6月19日(月)～23日(金)

[内容] 殺虫、殺卵、殺菌を目的とする密閉燻蒸

[使用薬剤] アルブ(酸化プロピレン・アルゴン混合ガス)

[実施場所]

収蔵庫I(動物・植物・古生物・地球環境標本)・収蔵庫2(昆虫標本)・昆虫標本製作室・液浸標本収蔵庫・液浸標本製作室・液浸標本製作準備室

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質を生かした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れたり支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、市民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、以下に記した。

自然科学講演会 博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	定員	応募数	受講数
分解者菌類に関する講演 〔特別展開連講演会〕	10/15 (日)	講義室	小学生以上	伊沢正名	写真職人	なし	当日 受付	55
役に立つ菌類 たのしい発酵食品 〔特別展開連講演会〕	11/4 (土)	ミュージアムシアター	小学生以上			なし	当日 受付	112
カビを用いた発酵食品				高田正樹	神奈川工科大学			
カビが作るくすり				内藤 敦	元 三共製薬取締役			

他の機関との連携行事 博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等

講座名	実施日	実施場所	講師	講師所属	受講数
自然史学会連合との共催講演会 教科書で学べない自然史 〔講演会〕	11/12 (日)	ミュージアムシアター			110
貝に貝殻はなぜ必要？			佐々木猛智	東京大学総合研究博物館	
インターネットで蛾を調べてみよう			神保宇嗣	東京大学大学院 総合文化研究科	
なぜ箱根や丹沢にいない昆虫が多いのか？			高桑正敏	当館	
深海魚たちの特殊な形：その意味と由来			篠原現人	国立科学博物館動物研究部	
カメ類の起源と進化			平山 廉	早稲田大学国際教養学部	
植物になるという進化			井上 勲	筑波大学大学院 生命環境科学研究科	
なんじゃもんじゃごけ？			有川智己	慶應義塾大学生物学教室	
箱根火山の生い立ちは本当にわかったのか？			山下浩之	当館	
箱根山の旧石器時代人と現代日本人の関係			海部陽介	国立科学博物館人類研究部	
トコロジストのすすめ —その場所の専門家になろう—			浜口哲一	平塚市博物館	

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

講座名	実施日	実施場所	講師	講師所属	受講数
財団法人日本博物館協会との共催研修会 誰にもやさしい博物館づくり「バリアフリー研修会」 [公開研修会]	1/24 (水)	講義室			88
講演「聴覚障害者に対する対応について」			藤本裕人	国立特殊教育総合研究所	
講演「肢体不自由者への対応について」			飯野順子	東京学芸大学	
実習 「視覚障害者の博物館鑑賞についての理解と支援」			鳥山由子	筑波大学人間総合科学研究科	
パネルディスカッション 「博物館におけるバリアフリーの現状と 職員研修について」			半田こづえ	筑波大学大学院	
			鳥山由子	筑波大学人間総合科学研究科	
			藤本裕人	国立特殊教育総合研究所	
			奥野花代子	当館	
			木幡和男	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	
酒匂川水系の環境を考える会との共催シンポジウム 消えゆく自然—水辺の再生を考える— [公開シンポジウム]	2/18 (日)	ミュージ アムシア ター			230
ホテルからのメッセージ			大場信義	全国ホテル研究会	
酒匂川の昆虫—その特徴と絶滅した昆虫たち—			苅部治紀	当館	
神奈川の淡水魚—現況と復元—			勝呂尚之	神奈川県水産総合研究所 内水面試験場	
生き物豊かな水辺の再生への道は！			勝山輝男	当館	
海洋研究開発機構との共催講演会 スーパーコンピュータ 地球シミュレータでみる巨大地震 [講演会]	2/25 (日)	ミュージ アムシア ター			90
火山と災害について			笠間友博	当館	
地球シミュレータでみる巨大地震の地震波動			坪井誠司	海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター	

5.1.2. 講座等

学校週 5 日制対応講座 土・日曜日に開催する小中学生向け観察会（事前申し込み制）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
大磯海岸化石ウォッチング [野外観察と室内実習]	4/15 (土) 4/16 (日)	大磯海岸 実習実験室	小学4年生～ 中学生と保護者	田口公則 大島光春 樽 創	40	81	44 39
磯の生きものウォッチング [野外観察]	5/13 (土)	真鶴町三ツ石海岸	小中学生と 保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	132	雨天 中止
動物ウォッチング (1) [室内実習]	5/20 (土)	実習実験室 大型標本製作室	小学4年生～ 大学生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	15	18	14
水辺の動物ウォッチング [野外観察]	5/27 (土)	松田町川音川	小学生と保護者	新井一政	30	65	雨天 中止
動物ウォッチング (2) [野外観察]	6/3 (土)	小田原城址公園 実習実験室	小学生～高校生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	20	9	7
河原の石の探検隊 (1) [野外観察]	6/4 (日)	山北町谷峨 酒匂川の河原	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之	20	30	26
アンモナイトの壁を調べよう [室内実習]	6/10 (土)	展示室・講義室	小学4年生～ 中学生と保護者	田口公則	15	15	14

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
秋の植物ウォッチング 〔野外観察〕	9/23 (土)	横浜市 舞岡ふるさと村	小学4年生～ 高校生と保護者	田中徳久 勝山輝男 木場英久	40	19	7
河原の石の探検隊 (2) 〔野外観察〕	10/8 (日)	相模原市高田橋入口 相模川の河原	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之 石浜佐栄子	20	27	25
動物ウォッチング (3) 〔室内実習〕	10/14 (土)	実習実験室 大型標本製作室	小学生～大学生	広谷浩子 岡村綾子 樽 創	15	9	7
動物ウォッチング (4) 〔野外観察〕	11/11 (土)	小田原市早川の河原 実習実験室	小学生～高校生	広谷浩子 岡村綾子 樽 創	20	27	18
河原の石の探検隊 (3) 〔野外観察〕	11/19 (日)	川崎市中野島 多摩川の河原	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之 石浜佐栄子	20	24	23
しましま地層のナゾを解く 〔室内実習〕	12/9 (土)	実習実験室	小学4年生～ 中学生	石浜佐栄子	20	11	11
計13講座	延べ14日				315	467	235



大磯海岸化石ウォッチング



しましま地層のナゾを解く

博物館スクール 夏休みや土・日曜日に開催する連続講座 (一部の講座を除いて事前申し込み制)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
神奈川トンボ調査隊 (1回目/全7回) 〔野外観察と室内実習〕	5/7 (日)	南足柄市 貝沢川周辺	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	20	28	30
神奈川トンボ調査隊 (2回目/全7回) 〔野外観察と室内実習〕	6/3 (土)	愛川町八菅	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	(*)	(*)	20
獣骨入門 〔室内実習〕	7/9 (日)	実習実験室	中学生～ 大人	大島光春	12	16	14
神奈川トンボ調査隊 (3回目/全7回) 〔野外観察と室内実習〕	7/23 (日)	横浜市鶴見区二ツ池 黒川の谷戸田	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	(*)	(*)	22
貝のかたちを調べよう (1) ～ホタテのひみつ～ 〔室内実習〕	7/28 (金)	実習実験室	小学4年生～ 大人	佐藤武宏 田口公則	10	11	8
貝のかたちを調べよう (2) ～アサリのひみつ～ 〔室内実習〕	7/29 (土)	実習実験室	小学4年生～ 大人	佐藤武宏 田口公則	10	22	8
貝のかたちを調べよう (3) ～キサゴのひみつ～ 〔室内実習〕	7/30 (日)	実習実験室	小学4年生～ 大人	佐藤武宏 田口公則	10	10	5

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
菌類をテーマとした自由研究に挑戦しよう [学習会]	8/1 (火)	講義室	小学4年生～高校生	出川洋介	20	28	20
	8/27 (日)						2
サルからヒトへの進化をさぐる [室内実習]	8/2 (水)	実習実験室	小中学生 または教員	広谷浩子	20	25	23
ミニ火山を作ろう [室内実習]	8/11 (金)	実習実験室 早川河原	小学4年生～中学生と保護者	笠間友博	10	129	26
ミニ火山を作ろう [室内実習]	8/18 (金)	実習実験室 早川河原	小学4年生～中学生と保護者	笠間友博	10	139	22
神奈川トンボ調査隊 (4回目/全7回) [野外観察と室内実習]	8/20 (日)	箱根町仙石原	小学4年生～大人	荻部治紀 高桑正敏	(*)	(*)	23
私たちの祖先はだれ? [室内実習]	8/21 (月)	実習実験室	小学4年生～中学生	広谷浩子	20	19	15
私たちの祖先はだれ? [室内実習]	8/22 (火)	実習実験室	小学4年生～中学生	広谷浩子	20	20	15
やさいとくだものの観察 [室内実習]	8/23 (水)	実習実験室	小学生～高校生と保護者	勝山輝男	24	91	39
きのこを育ててみよう [野外観察と室内実習]	9/17 (日)	実習実験室 博物館周辺 (長興山方面)	小学4年生～高校生	出川洋介 博物館菌類 ボランティア	20	18	15
変形菌観察会 [室内実習と野外観察]	9/30 (土)	実習実験室	どなたでも	出川洋介 博物館菌類 ボランティア	30	50	21
	10/1 (日)	博物館周辺					27
神奈川トンボ調査隊 (5回目/全7回) [野外観察と室内実習]	10/14 (土)	愛川町八菅	小学4年生～大人	荻部治紀 高桑正敏	(*)	(*)	20
歯から見る哺乳類の進化 [室内実習]	10/28 (土)	実習実験室	中学生～成人一般	大島光春	12	8	5
	10/29 (日)						7
化石クリーニング教室 [室内実習]	11/25 (土)	実習実験室	小学4年生～中学生	田口公則 大島光春 樽 創	20	158	20
神奈川トンボ調査隊 (6回目/全7回) [野外観察と室内実習]	12/16 (土)	実習実験室	小学4年生～大人	荻部治紀 高桑正敏	(*)	(*)	15
神奈川の石ころ図鑑 [室内実習]	1/13 (土)	実習実験室	小学4年生～中学生 または教員	平田大二 山下浩之	20	17	17
	1/20 (土)						17
神奈川トンボ調査隊 (7回目/全7回) [野外観察と室内実習]	2/17 (土)	実習実験室	小学4年生～大人	荻部治紀 高桑正敏	(*)	(*)	13
計23講座	延べ27日				288	789	469



貝のかたちを調べよう (3) ～キサゴのひみつ～



ミニ火山を作ろう

研究テクニック講座 専門的内容の講座（一部の講座を除いて事前申し込み制）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
スゲ属植物の研究 〔室内講義〕	4/29（土）	実習実験室	成人一般	勝山輝男	36	47	42
先生のための地層と化石入門 〔野外観察と室内実習〕	7/25（火）	博物館	教員または 大学生以上	田口公則	12	16	8
	7/26（水）	横浜市金沢区～		大島光春			7
	7/27（木）	鎌倉市		樽 創 石浜佐栄子			8
コンピュータで地球を見る —先生のためのリモートセンシング入門— 〔室内実習〕	8/4（金）	実習実験室	教員 （コンピュータ を使える方）	新井田秀一	20	8	7
岩石プレパラートを作ろう 〔室内実習〕	8/9（水）	実習実験室	教員	山下浩之	10	6	4
	8/10（木）	大型標本製作室		平田大二 石浜佐栄子			5
キノコ分類学セミナー中級編 〔室内実習〕	9/22（金）	実習実験室	成人一般	出川洋介	なし		当日 受付 28
岩石プレパラートを作ろう 〔室内実習〕	12/2（土）	実習実験室	小学4年生～ 成人一般	山下浩之	10	27	10
	12/3（日）	大型標本製作室		平田大二 石浜佐栄子			8
ダイバーのための魚類学入門 〔室内実習〕	12/10（日）	実習実験室	成人一般	瀬能 宏	10	18	7
	12/17（日）						5
ダイバーのための魚類学入門 〔室内実習〕	1/21（日）	実習実験室	成人一般	瀬能 宏	10	9	6
	1/28（日）						6
コンピュータで地球を見る —リモートセンシング入門— 〔室内実習〕	2/10（土）	実習実験室	中学生～ 成人一般 （コンピュータ を使える方）	新井田秀一	20	28	20
ダイバーのための魚類学入門 〔室内実習〕	2/18（日）	実習実験室	成人一般	瀬能 宏	10	9	7
	2/25（日）						7
計10講座	延べ17日				138	168	185

身近な自然発見講座 対象を限定しない博物館周辺での野外観察の講座（当日受け付け制）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
身近な自然発見講座（第1回目） 〔野外観察〕	4/12（水）	博物館周辺 （長興山方面）	どなたでも	田中徳久 笠間友博 加藤ゆき	なし	当日 受付	雨天 中止
身近な自然発見講座（第2回目） 〔野外観察〕	5/10（水）	博物館周辺 （長興山方面）		新井一政 田中徳久 笠間友博			12
身近な自然発見講座（第3回目） 〔野外観察〕	6/14（水）	博物館周辺 （長興山方面）		新井一政 勝山輝男 広谷浩子			29
身近な自然発見講座（第4回目） 〔野外観察〕	10/11（水）	博物館周辺 （長興山方面）		勝山輝男 出川洋介 岡村綾子			24
身近な自然発見講座（第5回目） 〔野外観察〕	11/8（水）	博物館周辺 （長興山方面）		新井一政 勝山輝男 出川洋介			25
身近な自然発見講座（第6回目） 〔野外観察〕	12/13（水）	博物館周辺 （長興山方面）		新井一政 広谷浩子 笠間友博			26
計6講座	延べ6日						116

神奈川の自然を歩く

一般の方を対象とした県内の自然観察ポイントの探訪（事前申し込み制）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
イネ科の実物図鑑を作ろう 〔野外観察〕	4/23（日）	足柄平野	小学4年生～ 成人一般	木場英久	30	37	29
春の地形地質観察会 〔野外観察〕	5/3（水祝）	箱根仙石原～ 地藏堂	小学4年生～ 成人一般 （健脚向き）	笠間友博 山下浩之 新井田秀一	40	43	38
秋の地形地質観察会 〔野外観察〕	11/3（金・	三浦市城ヶ島	小学4年生～ 成人一般	石浜佐栄子 平田大二 山下浩之 新井田秀一	40	66	58
晩秋の樹木ウォッチング 〔野外観察〕	11/26（日）	湯河原町天照山	中学生～ 成人一般	勝山輝男 木場英久 出川洋介	24	28	19
早春の地形地質観察会 〔野外観察〕	3/4（日）	茅ヶ崎市香川駅～ 茅ヶ崎海岸	小学4年生～ 成人一般	笠間友博 平田大二 新井田秀一 石浜佐栄子	40	66	57
計5講座	延べ5日				174	240	201



イネ科の実物図鑑を作ろう



秋の地形地質観察会

館長と話そう

（当日受け付け制）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
新・館長と話そう！	(1) 7/22（土）	エントランスホール	小中学生と 保護者	斎藤靖二	各回 6件	5件	13
	(2) 7/29（土）					6件	17
	(3) 8/5（土）					6件	13
	(4) 8/12（土）					6件	13
	(5) 8/19（土）					6件	16
計5講座	のべ5日				30件	29件	72

講座名・講義題目	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	定員	応募数	受講数
種をめぐるさまざまな話題 〔室内講義〕			成人 一般			50		
遺伝子解析によって明らかになったシダ植物の多数の新種の存在	10/22（日）	講義室		村上哲明	首都大学東京		28	26
ヒラタケ属の分類と種				根田 仁	森林総合研究所			
カワトンボ類をめぐる最近の分類学的话题と県内における分布	11/18（土）	講義室		苅部治紀	当館		25	14
変な花序をもつハマニンニク				木場英久	当館			
いつからイノシシ？どこまでイノシシ？	12/10（日）	講義室		大島光春	当館		22	12
サル種の種間関係—ちよつとずつ違うことの利点—				広谷浩子	当館			
非武装地帯の崩壊—コブヤハズカミキリはなぜ雑種を作るようになったか—	1/14（日）	講義室		高桑正敏	当館		27	11
日本新種!?の地衣類				木下靖浩	日本地衣学会			
すっきりとは分類できないものもある—種子植物の例—	2/17（土）	講義室		勝山輝男	当館		41	30
身近な淡水魚を考える—コイやメダカの系統と分類—				瀬能 宏	当館			
計1講座	延べ5日					(実人数)	57	52
						(延べ人数)	143	93

5.1.3. 子ども自然科学ひろば

本事業は、文部科学省の「子ども居場所づくり新プラン」の一環として整備された、「全国科学系博物館における地域子ども教室推進事業」にもとづくもので、子どもたちが

自然について学習でき、自然への好奇心と理解を深め、自然について考える力をつける場を設置するものである。

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
* 大磯海岸化石ウォッチング 〔野外観察と室内実習〕	4/15（土）	大磯海岸	小学4年生～	田口公則	40	81	43
	4/16（日）	実習実験室	中学生と保護者	大島光春 樽 創			39
* イネ科の実物図鑑を作ろう 〔野外観察〕	4/23（日）	足柄平野	小学4年生～ 成人一般	木場英久	30	37	29
* 春の地形地質観察会 〔野外観察〕	5/3（水祝）	箱根仙石原～ 地藏堂	小学4年生～ 成人一般 （健脚向き）	笠間友博 山下浩之 新井田秀一	40	43	38
* 神奈川トンボ調査隊（1） 〔野外観察と室内実習〕	5/7（日）	南足柄市 貝沢川周辺	小学4年生～ 大人	苅部治紀 高桑正敏	20	28	30
* 磯の生きものウォッチング 〔野外観察〕	5/13（土）	真鶴町三ツ石海岸	小中学生と 保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	132	雨天 中止
土の中の虫ウォッチング	5/14（日）	実習実験室	小中学生と 保護者	外部指導員 （友の会）	20	30	30
* 動物ウォッチング（1） 〔室内実習〕	5/20（土）	実習実験室 大型標本製作室	小学4年生～ 大学生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	15	18	14
* 水辺の動物ウォッチング 〔野外観察〕	5/27（土）	松田町川音川	小学生と保護者	新井一政	30	65	雨天 中止

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
* 動物ウォッチング (2) [野外観察]	6/3 (土)	小田原城址公園 実習実験室	小学生～高校生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	20	9	7
* 神奈川トンボ調査隊 (2) [野外観察]	6/3 (土)	愛川町八菅	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	20	28	20
* 河原の石の探検隊 (1) [野外観察]	6/4 (日)	山北町谷峨 酒匂川の河原	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之	20	30	26
* アンモナイトの壁を調べよう [室内実習]	6/10 (土)	展示室・講義室	小学4年生～ 中学生と保護者	田口公則	15	15	14
* 獣骨入門 [室内実習]	7/9 (日)	実習実験室	中学生～ 成人一般	大島光春	12	16	14
* 新・館長と話そう! (1) [地球なんでも相談]	7/22 (土)	エントランス ホール	小中学生と 保護者	斎藤靖二	6件	当日 受付 5件	13
* 神奈川トンボ調査隊 (3) [野外観察]	7/23 (日)	横浜市鶴見区ニッ 池・黒川の谷戸田	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	20	28	22
* 貝のかたちを調べよう (1) ～ホタテのひみつ～ [室内実習]	7/28 (金)	実習実験室	小学4年生～ 大人	佐藤武宏 田口公則	10	11	8
* 貝のかたちを調べよう (2) ～アサリのひみつ～ [室内実習]	7/29 (土)	実習実験室	小学4年生～ 大人	佐藤武宏 田口公則	10	22	8
* 新・館長と話そう! (2) [地球なんでも相談]	7/29 (土)	エントランス ホール	小中学生と 保護者	斎藤靖二	6件	当日 受付 6件	17
* 貝のかたちを調べよう (3) ～キサゴのひみつ～ [室内実習]	7/30 (日)	実習実験室	小学4年生～ 大人	佐藤武宏 田口公則	10	10	5
* 菌類をテーマとした自由研究に挑戦 しよう [学習会]	8/1 (火) 8/27 (日)	講義室	小学4年生～ 高校生	出川洋介	20	28	20 2
* サルからヒトへの進化をさぐる [室内実習]	8/2 (水)	実習実験室	小中学生 または教員	広谷浩子	20	25	23
* 新・館長と話そう! (3) [地球なんでも相談]	8/5 (土)	エントランス ホール	小中学生と 保護者	斎藤靖二	6件	当日 受付 6件	13
夏休みオープンラボ (1) 小さな探検隊昆虫標本作製	8/5 (土)	博物館周辺 実習実験室	小中学生	外部指導員 (友の会)	10	13	13
夏休みオープンラボ (2) 小さな探検隊昆虫標本作製	8/6 (日)	博物館周辺 実習実験室	小中学生	外部指導員 (友の会)	10	36	36
* ミニ火山を作ろう [室内実習]	8/11 (金)	実習実験室 早川河原	小学4年生～ 中学生と保護者	笠間友博	10	129	26
* 新・館長と話そう! (4) [地球なんでも相談]	8/12 (土)	エントランス ホール	小中学生と 保護者	斎藤靖二	6件	当日 受付 6件	13
水飢鬼を育てる	8/12 (土)	早川河原	小中学生	外部指導員 (友の会)	40	30	20
夏休みオープンラボ (2) 小さな探検隊昆虫標本作製	8/13 (日)	博物館周辺 実習実験室	小中学生	外部指導員 (友の会)	10	27	27
* ミニ火山を作ろう [室内実習]	8/18 (金)	実習実験室 早川河原	小学4年生～ 中学生と保護者	笠間友博	10	139	22

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
* 新・館長と話そう！ (5) [地球なんでも相談]	8/19 (土)	エントランス ホール	小中学生と 保護者	斎藤靖二	6件	当日 受付 6件	16
* 神奈川トンボ調査隊 (4) [野外観察]	8/20 (日)	箱根町仙石原	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	20	28	23
* 私たちの祖先はだれ？ [室内実習]	8/21 (月)	実習実験室	小学4年生～ 中学生	広谷浩子	20	19	15
* 私たちの祖先はだれ？ [室内実習]	8/22 (火)	実習実験室	小学4年生～ 中学生	広谷浩子	20	20	15
* やさいとくだものの観察 [室内実習]	8/23 (水)	実習実験室	小学生～高校生 と保護者	勝山輝男	24	91	39
* きのを育ててみよう [野外観察と室内実習]	9/17 (日)	実習実験室 博物館周辺 (長興山方面)	小学4年生 ～高校生	出川洋介 博物館菌類 ボランティア	20	18	15
* 秋の植物ウォッチング [野外観察]	9/23 (土)	横浜市 舞岡ふるさと村	小学4年生～ 高校生と保護者	田中徳久 勝山輝男 木場英久	40	19	7
* 変形菌観察会 [室内実習と野外観察]	9/30 (土)	実習実験室	どなたでも	出川洋介	30	50	21
	10/1 (日)	博物館周辺		博物館菌類 ボランティア			27
* 河原の石の探検隊 (2) [野外観察]	10/8 (日)	相模原市高田橋入 口相模川の河原	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之 石浜佐栄子	20	27	25
* 動物ウォッチング (3) [室内実習]	10/14 (土)	実習実験室 大型標本製作室	小学生～大学生	広谷浩子 岡村綾子 樽 創	15	9	7
* 神奈川トンボ調査隊 (5) [野外観察]	10/14 (土)	野外 (未定)	小学4年生～ 大人	荻部治紀 高桑正敏	20	28	20
* 歯から見る哺乳類の進化 [室内実習]	10/28 (土)	実習実験室	中学生～	大島光春	12	8	5
	10/29 (日)		成人一般				7
* 秋の地形地質観察会 [野外観察]	11/3 (金祝)	三浦市城ヶ島	小学4年生～ 成人一般	石浜佐栄子 平田大二 山下浩之 新井田秀一	40	66	58
* 動物ウォッチング (4) [野外観察]	11/11 (土)	早川河原 実習実験室	小学生～高校生	広谷浩子 岡村綾子 樽 創	20	27	18
* 河原の石の探検隊 (3) [野外観察]	11/19 (日)	川崎市中野島 多摩川の河原	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之 石浜佐栄子	20	24	23
* 化石クリーニング教室 [室内実習]	11/25 (土)	実習実験室	小学4年生～ 中学生	田口公則 大島光春 樽 創	20	158	20
* 晩秋の樹木ウォッチング [野外観察]	11/26 (日)	湯河原町天照山	中学生～ 成人一般	勝山輝男 木場英久 出川洋介	24	28	19
* 岩石プレパラートを作ろう [室内実習]	12/2 (土)	実習実験室	小学4年生～ 成人一般	山下浩之 平田大二 石浜佐栄子	10	27	10
	3 (日)	大型標本製作室					8
* ししま地層のナゾを解く [室内実習]	12/9 (土)	実習実験室	小学4年生～ 中学生	石浜佐栄子	20	11	11

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
* 神奈川トンボ調査隊 (6) [野外観察]	12/16 (土)	実習実験室	小学4年生～ 大人	荏部治紀 高桑正敏	20	28	15
竹や木の実で笛やブローチを作ろう	12/23 (土 祝)	実習実験室	小学生と保護者	外部指導員 (友の会)	なし	118	118
* 神奈川の川の石ころ図鑑 [室内実習]	1/13 (土)	実習実験室	小学4年生～ 中学生 または教員	平田大二 山下浩之	20	17	17
	1/20 (土)						17
* 神奈川トンボ調査隊 (7) [野外観察]	2/17 (土)	実習実験室	小学4年生～ 大人	荏部治紀 高桑正敏	20	28	13
竹や木の実で笛やブローチを作ろう	2/17 (土)	実習実験室	小学生と保護者	外部指導員 (友の会)	なし	88	88
* *早春の地形地質観察会 [野外観察]	3/4 (日)	茅ヶ崎市香川駅～ 茅ヶ崎海岸	小学4年生～ 成人一般	笠間友博 平田大二 新井田秀一 石浜佐栄子	40	66	57
計28講座	延べ32日				997	2,033	1,326

* 印の講座については、当館主催の年間の講座と共通。

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所 (空欄は当館)
4/25 (火)	動物・植物の進化を通して 地球の歴史を考える	相模原市立 くぬぎ台小学校	樽 創 木場英久	5	74	
5/9 (火)	震災の状況や教訓を学び 知識と認識を深める	箱根町立湯本中学校	笠間友博	3	20	湯本中学校視聴覚室
5/18 (木)	神奈川における昆虫相の変遷 小笠原諸島における外来生物が 在来種に与える影響	東海大学教養学部 人間環境学科 自然環境課程	高桑正敏		11	
5/25 (木)	火山の噴火実験	東京学芸大学 附属大泉小学校	笠間友博	5	15	
6/9 (金)	「創造」の授業の中での「学問・研究」 —博物館の仕事—	橘学苑中学校	中島 功	2	8	
7/18 (火)	丹沢の植物	自修館中等教育学校	田中徳久	1	20	
7/21 (金)	地球展示室の解説・バックヤード見学	横浜市立戸塚高等学校	山下浩之	2, 3	36	
7/24 (月)	丹沢の植物	不二聖心女子学院 中学校	田中徳久	2	95	
7/31 (月)	夏季講座『地学実習』 流水の作用および岩石の種類についての標 本採集・実地見学砂の観察・火山噴火の室 内実験	私立黎明館中学・ 高等学校	平田大二 笠間友博	中1 ～ 高3	32	新松田駅周辺の 酒匂川河原・ 実習実験室
8/7 (月)	日本産カミキリムシに関する講義	麻布大学附属 淵野辺高等学校	高桑正敏	1～3	14	
8/16 (水)	スーパー・サイエンス・ハイスクール 常設展・特別展・バックヤードの見学	県立西湘高等学校	木場英久	1	80	
8/29 (火)	実習講座 「コンピュータで地球を見る—リモート センシング入門—」	県立横浜緑が丘 高等学校	新井田秀一	2	21	

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所（空欄は当館）
12/1（金）	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 「身近な自然から学ぶ環境教育」 —化石を採取し標本を作製しよう—	国際学園星槎中学校	田口公則	1～3	50	国際学園二宮研修棟 大磯海岸西小磯
12/8（金）						
12/15（金）						
1/12（金）						
1/19（金）	地球博物館の展示室・資料庫の見学、資料				90	当館
12/4（月）	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 巻貝の形態的特徴・捕食や成長について	筑波大学附属盲学校	佐藤武宏	2	8	筑波大学附属盲学校
12/11（月）	博物館学III「博物館の活動について—博物館とバリアフリー—」	東京大学教育学部	奥野花代子		35	東京大学教育学部
12/14（木）	博物館見学 箱根巡検（大観山・山伏峠・大涌谷）	私立武蔵中学校	笠間友博 山下浩之	1		当館 箱根方面
12/14（木）	地球の環境演習 水族館・博物館研究、バックヤード見学	日本ペット＆アニマル専門学校	山口佳秀		26	
12/18（月）	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 全盲の科学者ヴァーメイの研究の追体験 観察とデータ処理で知るエスカレーション	筑波大学附属盲学校	佐藤武宏	2	8	筑波大学附属盲学校
1/18（木）	地学I「実験を通して箱根火山の形成史を学ぶ」	県立神奈川総合高等学校	笠間友博	1～2	17	神奈川総合高等学校
2/12（月祝）	自然探索実験の研修	自由学園最高学部	山口佳秀	1～3	20	
3/21（水祝）	「集まれ！中学生、地球博物館へ～平成18年度西湘科学の活動発表会～」 記念講演『宇宙から地球を調べる～地球観測衛星の成果について』	（財）相模湾水産振興事業団西湘科学振興委員会	新井田秀一	中1～3		

5.2.2. 総合的な学習への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所（空欄は当館）
5/1（月）	「キャリア・デー」博物館の仕事	県立足柄高等学校	広谷浩子	1～3	30	県立足柄高等学校
5/25（木）	箱根の森に生息している昆虫を調べる	小田原市立千代中学校	高桑正敏	2	4	
7/5（水）	環境問題の視点から省エネルギーを考える	小田原市立橘中学校	新井田秀一	2	28	
7/5（水）	地質学的にみたエネルギー資源（例えばメタンハイドレート・オイルシェールなど）について	小田原市立橘中学校	石浜佐栄子	2	17	
7/11（火）	「地域に発信しよう」～みんなの幸せにつながる小田原の町づくり～ 野生動物の保護について	小田原市立千代中学校	広谷浩子	3	1	
7/13（木）	「進路探求」の一環として 「研究・学術機関等訪問研修」	県立大磯高等学校	山下浩之	1	22	
7/13（木）	卒業制作「生物の進化」	早稲田実業学校中等部	広谷浩子	3	1	
9/14（木）	地球温暖化について	小田原市立城北中学校	ライブラリー	3	3	
9/20（水）	展示室利用の誘導案内協力支援	千葉県立千葉盲学校	奥野花代子	小6	7	
10/20（金）	地質学について	静岡県長泉町立北中学校	ライブラリー	2	2	
10/26（木）	小田原の生きもの	小田原市立酒匂中学校	広谷浩子	1	52	
11/7（火）	地域学習・一日探求日	南足柄市立岡本中学校	ライブラリー	1		
11/9（木）	絶滅動物について ～絶滅した日本の動物の生態や特徴～	相模原市立大野南中学校	広谷浩子	2	2	

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所（空欄は当館）
11/16（木）	絶滅しそうな動物とその原因 保護するためには	秦野市立東中学校	広谷浩子	2	3	
12/19（火）	大昔の地球環境・宇宙の始まりや 星の歴史・恐竜の時代	小田原市立 国府津中学校	ライブ ラリー	1	3	
2/16（金）	箱根火山について	箱根町立湯本中学校	山下浩之	1	6	

5.2.3. 地域科学館連携支援事業

この事業は、学校と連携して行う科学技術や理科などに
関する学習に対して、（独）科学技術振興機構（JST）が 支援をおこなうものである。
火山実験装置を開発し、下記の出前授業を行った。

実施日	内容・演題等	実施校	対応者	学年	人数
9/27（水）	火山噴火モデル実験	神奈川県立神奈川総合高等学校	笠間友博	1～2	2
10/13（金）		藤沢市立本町小学校	笠間友博 石浜佐栄子	6	140
10/17（火）		藤沢市立大鋸小学校	笠間友博 新井田秀一	6	105
10/25（水）		箱根町立温泉小学校	笠間友博 石浜佐栄子	6	10
11/6（月） 11/8（水）		函嶺白百合学園中学高等学校	笠間友博 平田大二 石浜佐栄子	中1	70
11/15（水） 11/16（木）		武蔵高校中学校	笠間友博 山下浩之	中1	176
1/18（木）		神奈川県立神奈川総合高等学校	笠間友博	1～3	17
2/27（火） 2/28（水）		小田原市立千代中学校	笠間友博 山下浩之 石浜佐栄子	1	200

5.2.4. 職場体験学習

自分の進路を見つめ考える進路学習の中で、実際に職
場で職業体験を行う機会として、近隣の中学校からの依頼 が増えている。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数
7/5（水）	職場体験学習	南足柄市立酒匂中学校	中島 功 佐藤武宏	2	3
10/25（水）	職業体験	小田原立白山中学校	中島 功	2	4
11/7（火）	職業体験学習	南足柄市立足柄台中学校	平田大二 広谷浩子	2	1
11/16（木） ～17（金）	職業体験学習	南足柄市立岡本中学校	中島 功	2	3
12/6（水）	職場体験学習	小田原市立城南中学校	佐藤武宏	2	3
1/25（木）	職場体験学習	小田原市立片浦中学校	中島 功	2	1
2/8（木）	職場体験学習	南足柄市立南足柄中学校	中島 功 佐藤武宏	2	2

5.2.5. インターンシップの受け入れ

2002年度より、高校生の就業体験実習を受け入れている。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数
7/24 (月)	インターンシップの受け入れ	県立舞岡高等学校	中島 功	1	2
8/10 (木)	インターンシップの受け入れ	県立平塚商業高等学校	中島 功	2	1

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。今年度は9大学から21名の実習生を受け入れた(表)。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する2日間と学芸部が担当する7日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。

実習日と主な実習内容

全員共通実習(2日間) 担当: 企画普及課職員

[期日] 8月3(木)・4(金)日

[内容]

オリエンテーション、館長講話、展示室・収蔵庫など館内諸施設見学、各部長による館の概要・展示内容・研究状況などのガイダンス。

グループ別実習(7日間): 学芸各グループ担当

地球環境グループ(3名)

[担当] 笠間友博

[期間] 8月5(金)・6(日)・8(火)・10(木)・11(金)・17(木)・18(金)日

[内容]

一般来館者対象の火山噴火演示実験(シナリオ作製～演示)。

古生物グループ(3名)

[担当] 大島光春

[期間] 8月8(火)～11(金)・16(水)～18(金)日

[内容]

化石資料の整理、レプリカ作製。

植物グループ(4名)

[担当] 勝山輝男・木場秀久・田中徳久

[期間] 8月5(土)～7(月)・9(水)～12(土)日

[内容]

植物標本の整理(ラベル貼り付け、収蔵庫への配架)。

動物グループ(8名)

[担当] 高桑正敏・広谷浩子・佐藤武宏・荏部治紀・新井一政

[期間] 8月16(水)～22(火)日

[内容]

動物の分類・学名に関するレクチャー、標本整理(ラベル貼り付け、収蔵庫への配架)。

魚類グループ(3名)

[担当] 瀬能 宏

[期間] 8月5(土)～7(月)・9(水)～12(土)・14(月)日

[内容]

魚類標本の作製、整理、登録。

博物館実務実習受け入れ状況

大学・学部等	人数
東京学芸大学・環境教育課程	1
茨城大学・理学部	1
東京農業大学・農学部	1
東京都立大学・理学部	1
日本大学・文理学部	1
日本大学・生物資源学部	5
横浜国立大学・教育人間科学部	5
奈良女子大学・大学院	2
北里大学・水産学部	1
北里大学・獣医畜産学部	1
信州大学・理学部	2
合計	21

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わずこの実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。この実習は企画情報部企画普及課が担当し、大学側の希望がある場合にはそれぞれの専門分野の学芸員が担当する。

今年度は5大学7件127名の見学実習を受け入れた(表)。

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	大学名	人数	担当
6/10(土)	麻布大学	6	出川洋介
8/10(木)	麻布大学	18	広谷浩子
9/6(水)	日本女子大学	10	田口公則
10/14(土)	桜美林大学	6	出川洋介
11/3(金)	日本大学	22	新井一政
12/3(日)	東海大学	43	新井田秀一
12/17(日)	東海大学	22	新井田秀一
合計		127	

5.4. 各種研修

5.4.1. 教員の各種研修の受け入れ

新採用の先生方の研修受け入れ、小中学校の教育研究会や県立総合教育センターと連携した教員研修を行った。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所(空欄は当館)
7/20(木)	中学校・高等学校理科研修 「自然観察会のポイント」	横浜市教育センター 横浜市立中学校 教育研究会理科部会	平田大二	40	横浜市教育センター 物理室
7/27(木)～28(金)	新採用教員研修	小田原市立泉中学校	中島 功	2	
7/28(金)～30(日)	新採用教員研修	小田原市立富水小学校	中島 功	1	
8/1(火)	「身近な道具で野外学習教具の製作～クリノメーターの製作～」 実習：「地層の調査観察をする際に使用する教具(クリノメーター)の製作」 講義・実習：「地学学習における基本的な実験・観察法、システム科学の視点を取り入れた指導法」	総合教育センター	田口公則 笠間友博		総合教育センター 善行庁舎地学実験室
8/1(火)～3(木)	新採用教員研修	大和市立大野原小学校	中島 功	1	
8/2(水)	夏季自然観察会 「鋸山をつくる岩石」	横浜市立中学校 教育研究会理科部会	平田大二	40	千葉県安房郡 鋸南町周辺
8/2(水)	新採用教員研修	秦野市立西小学校	中島 功	2	
8/3(木)	新採用教員研修	小田原市立泉中学校	中島 功	2	
8/4(金)	教員研修 講座「サルからヒトへの進化をさぐる」	東京都調布市立小学校 教育研究会理科研究部	広谷浩子	18	
8/4(金)	新採用教員研修	秦野市立西小学校	中島 功	2	
8/4(金)～5(土)	新採用教員研修	小田原市立富水小学校	中島 功	1	
8/10(木)	「地層の観察～城ヶ島を訪ねて」 講義・実習：「地層の観察」 「地層の成り立ち、地質調査方法、城ヶ島の地形と地質」	総合教育センター	平田大二		三浦市三崎町城ヶ島
8/18(金)	理科研究会「昆虫の観察と解説」	小田原市小学校 教育研究会理科部会	高桑正敏		博物館周辺早川河岸

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所（空欄は当館）
8/19（土）	収蔵庫の見学、常設展示見学、 アンモナイトの壁のワーク ショップ、化石レプリカづくり	神奈川理科サークル （県内小中高教員）	田口公則	6	
11/21（火）	火山実験及び堆積実験と講演	小田原市小学校 教育研究会理科部会	笠間友博 石浜佐栄子		
12/15（金）	研究視察： 地域博物館の運営にあたっての学 芸員の果たす役割について 地域博物館として資料を整理し、 公開するときの留意点について	山口県柳井市教育委員会	奥野花代子	2	
3/24（土）	春季地学野外観察会 「猿島の地質見学」	神奈川県高等学校 教科研究会理科部会	田口公則	12	横須賀市猿島

5.4.2. 各種研修の受け入れ

以下のとおり各種研修を受け入れた。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所（空欄は当館）
9/13（水）	六教育事務所 社会教育主事研究協議会 「誰にもやさしい博物館づくりに向けて」	教育事務所長会	奥野花代子	13	
10/ 3（火）	県外視察研修会 当博物館の設立目的等	さいたま市納税 貯蓄組合連合会	二川幸夫	20	
3/ 2（金）	当館の概要（活動報告等）について	東京ガス（株）	奥野花代子	2	
3/ 8（木）	学校団体の対応、特に盲学校への取り組み について 展示室内のバリアフリー対応について	ガスの科学館	田口公則	2	

5.5. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や、学校現場での豊かな経験を活かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。

2006 年度のライブラリー利用者は 97,399 人で、1 日平均利用者数は 315 人であった。電話や文書による資料の問い合わせが 30 件あり、また有料ではあるがコピーサービスも行っており、延べ 309 件の申込みがあった。

5.6. 団体利用対応

団体利用希望については、学習指導員が予約受付、下見の対応、展示ビデオ紹介テープの貸出、館内見学のためのガイド（約 20 分）などの対応を行っている。

5.6.1. 月別ガイダンス対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
件数	35	54	35	37	27	34	78	63	18	18	25	29	453	37.8
人数	2,074	2,901	1,903	2,006	1,102	1,680	4,207	2,742	728	902	1,201	1,177	22,623	1,885.3

5.6.2. 団体利用状況

2006年度の団体入館利用は1,621団体、人数は86,313人、館全体の利用者に対する割合は35.7%になる。

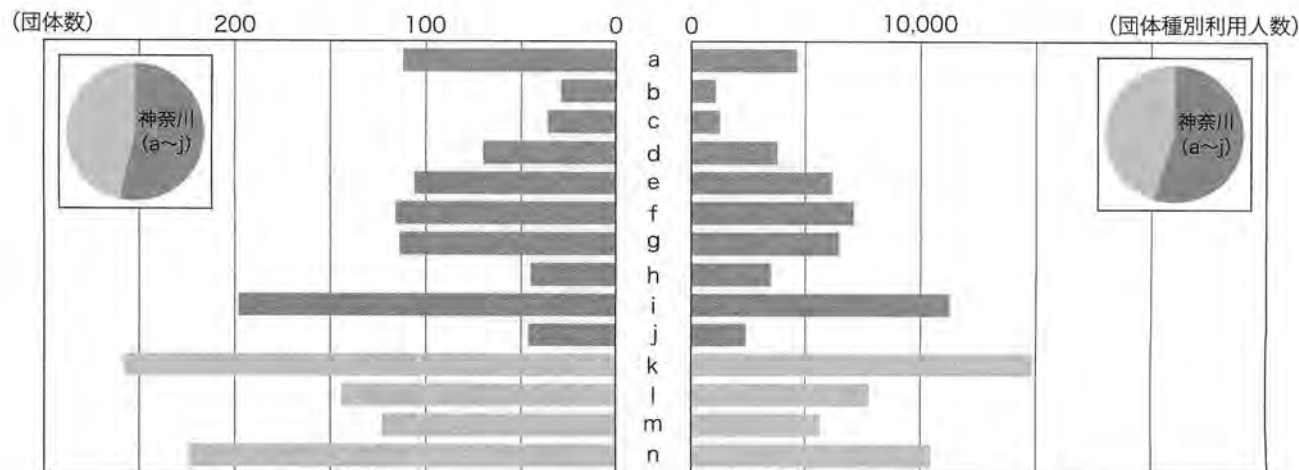
団体利用の中で、学校関係団体数は861団体、63,656人、この数字は全団体数の53.1%、全団体人数の73.8%に

月別種別利用状況

月	4		5		6		7		8		9		10	
種別	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
A 県内小学校	35	3,486	33	3,076	21	1,947	19	1,650	2	31	11	1,050	66	5,701
B 県内小学校以外の学校	9	1,283	30	2,965	15	735	40	2,892	11	432	11	772	13	685
C 県外小学校	9	662	61	3,886	43	2,489	6	353	0	0	26	2,044	109	6,880
D 県外小学校以外の学校	16	2,296	20	2,596	11	536	16	1,464	7	293	11	428	9	459
E 学校以外の教育機関・施設	7	185	8	216	7	158	26	1,045	47	1,975	6	236	5	269
F 病院・しょうがい者施設・福祉施設	4	108	7	218	13	375	12	213	9	256	15	486	26	755
G 高齢者団体・趣味の会等	22	593	18	388	27	862	8	175	4	52	22	638	34	890
H 自治会・町内会・商店会等	1	65	2	51	7	285	3	93	0	0	1	28	9	309
I 企業・自治体・各種組合等	9	259	9	238	8	214	8	280	6	187	11	293	19	521
J 市民団体・NPO等	1	42	2	38	0	0	2	100	2	46	1	40	1	20
K 研究会・研修会・学会等	0	0	0	0	1	15	1	28	2	17	2	41	1	4
L 外国人諸団体	3	115	1	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
M 旅行会社ツアー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	40	1	40	1	35
N その他	2	37	2	78	2	35	3	37	0	0	1	14	4	83
学校関係合計 (A～D)	69	7,727	144	12,523	90	5,707	81	6,359	20	756	59	4,294	197	13,725
全団体のうち学校関係の割合	58.5%	84.6%	74.6%	90.5%	58.1%	74.6%	56.3%	76.3%	22.0%	22.7%	49.6%	70.3%	66.3%	82.6%
全体合計	118	9,131	193	13,840	155	7,651	144	8,330	91	3,329	119	6,110	297	16,611

上の表から続く

月	11		12		1		2		3		合計団体数		合計人数	
種別	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	計	割合	計	割合
A 県内小学校	25	1,936	3	161	9	866	10	841	4	98	238	14.7%	20,843	24.1%
B 県内小学校以外の学校	17	1,460	2	188	6	229	32	1,292	18	654	204	12.6%	13,587	15.7%
C 県外小学校	38	2,181	4	234	0	0	1	19	1	35	298	18.4%	18,783	21.8%
D 県外小学校以外の学校	12	1,474	6	324	2	131	7	336	4	106	121	7.5%	10,443	12.1%
E 学校以外の教育機関・施設	9	564	5	149	5	173	17	406	23	725	165	10.2%	6,101	7.1%
F 病院・しょうがい者施設・福祉施設	23	575	8	197	4	115	7	187	11	274	139	8.6%	3,759	4.4%
G 高齢者団体・趣味の会等	34	1,007	11	251	4	119	16	538	14	291	214	13.2%	5,804	6.7%
H 自治会・町内会・商店会等	9	435	2	67	1	32	9	251	2	34	46	2.8%	1,650	1.9%
I 企業・自治体・各種組合等	26	697	6	136	5	165	14	322	10	309	131	8.1%	3,621	4.2%
J 市民団体・NPO等	2	67	1	20	1	20	0	0	1	25	14	0.9%	418	0.5%
K 研究会・研修会・学会等	1	40	0	0	1	95	1	13	0	0	10	0.6%	253	0.3%
L 外国人諸団体	1	13	0	0	0	0	2	115	0	0	7	0.4%	333	0.4%
M 旅行会社ツアー	1	9	0	0	1	18	1	22	4	75	10	0.6%	239	0.3%
N その他	3	52	2	33	1	29	1	15	3	66	24	1.5%	479	0.6%
学校関係合計 (A～D)	92	7,051	15	907	17	1,226	50	2,488	27	893	861	53.1%	63,656	73.8%
全団体のうち学校関係の割合	45.8%	67.1%	30.0%	51.5%	42.5%	61.5%	42.4%	57.1%	28.4%	33.2%				
全体合計	201	10,510	50	1,760	40	1,992	118	4,357	95	2,692	1,621	100.0%	86,313	100.0%



なる。特に、小学校の占める割合は高く、学校関係団体の
中で 62.2% を占める。種別による利用状況および地域別

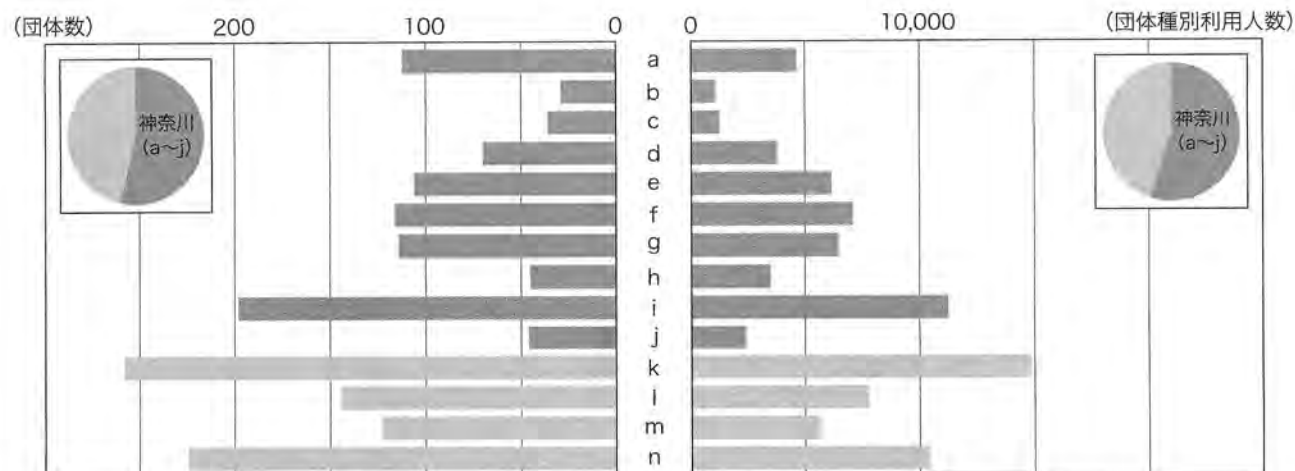
の利用状況は図表の通りである。

月別地区別利用状況

月	4		5		6		7		8		9		10	
地域	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
a 小田原	7	176	10	977	6	299	14	611	5	146	6	142	17	667
b 足柄下	2	42	2	32	3	92	1	80	1	15	1	16	5	219
c 南足柄・足柄上	1	17	4	134	1	110	3	59	5	121	1	19	8	282
d 平塚・二宮・大磯	7	804	11	869	2	96	8	239	10	363	3	171	4	276
e 厚木・秦野・伊勢原・愛甲	20	1,881	16	1,464	5	116	11	565	3	82	6	305	12	715
f 県央・県北	18	1,759	6	316	10	620	5	216	7	175	6	150	30	2,441
g 藤沢・鎌倉・茅ヶ崎・寒川	9	632	13	1,143	8	468	12	364	10	380	9	450	12	850
h 横須賀・三浦・逗子・葉山	1	33	4	198	2	87	9	827	4	233	10	910	6	637
i 横浜	12	709	15	1,713	16	1,201	30	2,290	20	666	13	582	24	1,172
j 川崎	1	15	3	67	6	259	4	383	2	55	4	110	7	427
k 東京	17	1,582	26	2,113	43	1,733	22	1,498	15	843	36	2,076	39	1,613
l 千葉	6	316	28	1,561	7	430	7	555	1	30	6	423	65	3,608
m 静岡	6	660	18	1,453	12	315	8	269	2	29	4	172	22	965
n その他	11	505	37	1,800	34	1,825	10	374	6	191	14	584	46	2,739
神奈川県関係の合計 (a~j)	78	6,068	84	6,913	59	3,348	97	5,634	67	2,236	59	2,855	125	7,686
神奈川県関係の割合	66.1%	66.5%	43.5%	49.9%	38.1%	43.8%	67.4%	67.6%	73.6%	67.2%	49.6%	46.7%	42.1%	46.3%
全体合計	118	9,131	193	13,840	155	7,651	144	8,330	91	3,329	119	6,110	297	16,611

上の表から続く

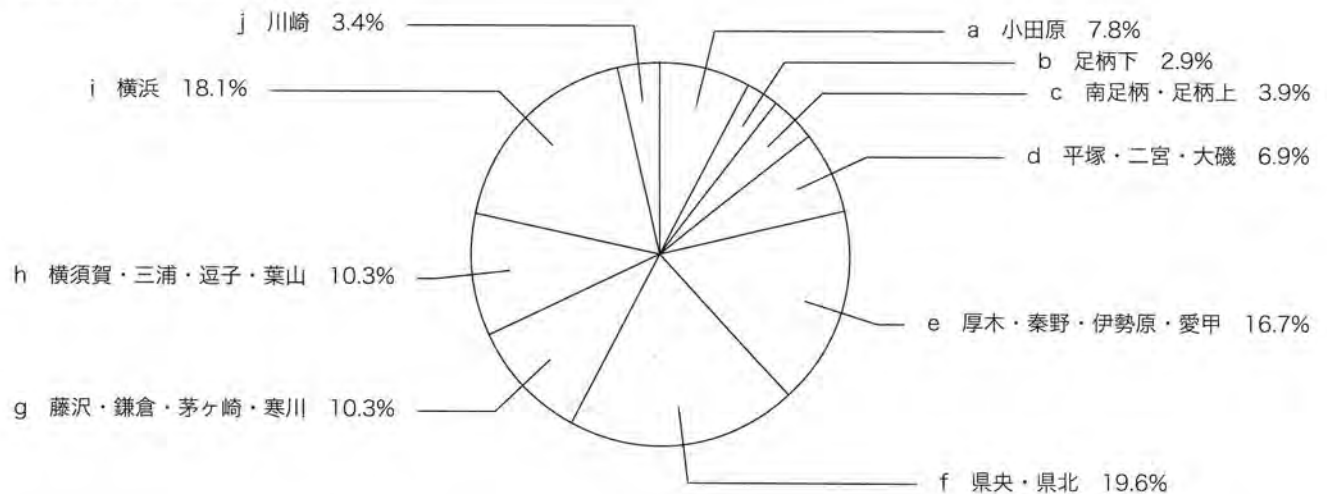
月	11		12		1		2		3		合計団体数		合計人数	
地域	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	計	割合	計	割合
a 小田原	12	615	6	218	5	178	17	478	7	135	112	6.9%	4,642	5.4%
b 足柄下	5	276	0	0	3	122	4	141	2	40	29	1.8%	1,075	1.2%
c 南足柄・足柄上	3	180	0	0	0	0	6	291	4	35	36	2.2%	1,248	1.4%
d 平塚・二宮・大磯	6	236	1	31	2	109	7	326	9	263	70	4.3%	3,783	4.4%
e 厚木・秦野・伊勢原・愛甲	7	135	2	65	3	104	13	415	8	309	106	6.5%	6,156	7.1%
f 県央・県北	13	685	2	37	0	0	9	425	10	283	116	7.2%	7,107	8.2%
g 藤沢・鎌倉・茅ヶ崎・寒川	14	1,072	3	223	7	272	10	346	7	272	114	7.0%	6,472	7.5%
h 横須賀・三浦・逗子・葉山	5	431	0	0	1	36	1	46	2	53	45	2.8%	3,491	4.0%
i 横浜	30	1,597	13	298	4	215	13	601	8	210	198	12.2%	11,254	13.0%
j 川崎	5	186	1	16	5	527	4	210	4	139	46	2.8%	2,394	2.8%
k 東京	26	1,902	9	595	3	226	13	384	9	276	258	15.9%	14,841	17.2%
l 千葉	20	777	1	10	0	0	2	31	1	22	144	8.9%	7,763	9.0%
m 静岡	21	836	5	151	2	53	7	270	16	491	123	7.6%	5,664	6.6%
n その他	34	1,582	7	116	5	150	12	393	8	164	224	13.8%	10,423	12.1%
神奈川県関係の合計 (a~j)	100	5,413	28	888	30	1,563	84	3,279	61	1,739	872	53.8%	47,622	55.2%
神奈川県関係の割合	49.8%	51.5%	56.0%	50.5%	75.0%	78.5%	71.2%	75.3%	64.2%	64.6%				
全体合計	201	10,510	50	1,760	40	1,992	118	4,357	95	2,692	1,621	100.0%	86,313	100.0%



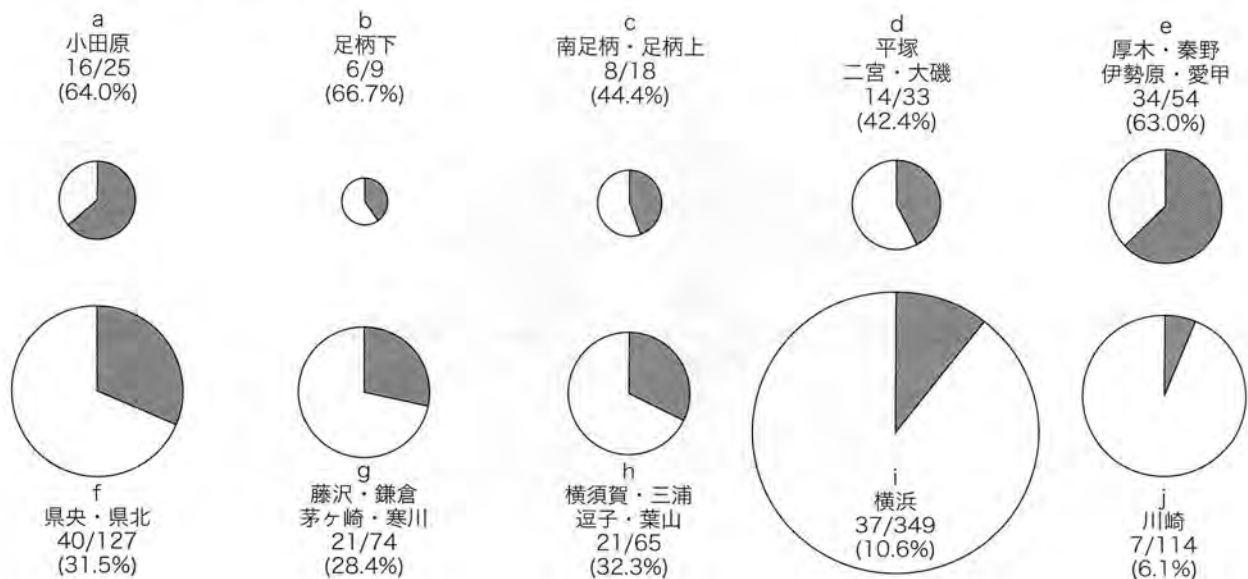
県内地区別学校利用状況

地区名	小学校				小学校以外の学校				合計	全体に占める割合
	構成市町村	小学校利用数	県内で の割合	地区内 小学校数	各地区で の利用率	中学校	高校	大学 盲聾養 護学校		
a	小田原市	16	7.8%	25	64.0%	6	2	1	25	9.5%
b	箱根町・真鶴町・湯河原町	6	2.9%	9	66.7%	3			9	3.4%
c	南足柄市・松田町・開成町・大井町・中井町・山北町	8	3.9%	18	44.4%	1			9	3.4%
d	平塚市・二宮町・大磯町	14	6.9%	33	42.4%	2	1	1	19	7.2%
e	厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村	34	16.7%	54	63.0%	3	1	1	40	15.2%
f	海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・相模原市・城山町・藤野町	40	19.6%	127	31.5%	6	2	1	49	18.6%
g	藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町	21	10.3%	74	28.4%	9	2	1	36	13.6%
h	横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町	21	10.3%	65	32.3%				21	8.0%
i	横浜市	37	18.1%	349	10.6%	3	3	1	45	17.0%
j	川崎市	7	3.4%	114	6.1%	2		1	11	4.2%
合計		204	100.0%	868	23.5%	35	11	6	264	100.0%
割合		77.3%				13.3%	4.2%	2.3%	3.0%	100.0%
						22.7%				

県内小学校の地区別利用数の割合



地区別の学校総数に対する利用数の割合



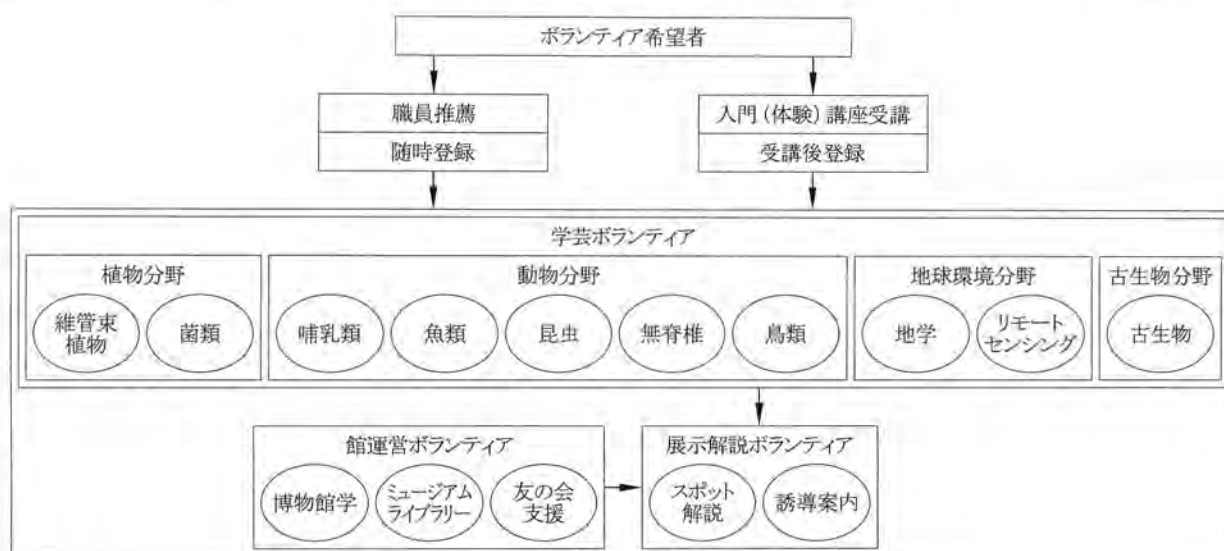
5.7. 博物館のボランティア活動

神奈川県立生命の星・地球博物館のボランティア活動は、生涯学習の一環として学習支援事業に位置づけ、実施している。具体的には、ボランティアに資料整理や展示、調査研究、学習支援事業等の様々な博物館活動に協力していただく場と機会を広く提供し、ボランティアがこうした活動や学習をとらして自己研鑽を図り、社会貢献をめざすよう支援している。

2002年度から「展示解説ボランティア」の活動を開始したことにより、当館のボランティア体制は、活動内容から「博物館ボランティア」を「学芸ボランティア」と「館運営ボランティア」、「展示解説ボランティア」の3種類となった(図)。

登録には職員推薦(随時)あるいは入門(体験)講座受講の二つの方法がある。有効期間は1年(当該年度)であるが、ボランティアの自由な意思と継続性を重視し再登録することができる。

なお、「学芸ボランティア」及び「館運営ボランティア」は、担当学芸員及び職員と活動日を調整しながら活動している。



5.7.1. 学芸ボランティア

ボランティア活動を通じて、学芸員の知識や技術を得て自己の学習を向上させ、自己実現を図ることを目的としている。

主に、資料整理、標本作製、研究協力、展示協力、事務協力などをその活動内容としている。

5.7.2. 館運営ボランティア

館運営ボランティア活動は、「博物館学」と「ミュージアムライブラリー」、「友の会支援」の3分野で構成し、より利

用しやすい博物館をめざして様々な活動に協力を得ている。

5.7.3. 展示解説ボランティア

展示解説ボランティアは、「学芸ボランティア」および「館運営ボランティア」の希望者と、「誘導・案内ボランティア」により行われ、2002年度から始まった活動である。また、2004年度からはボランティア講座の展示解説分野の修了者も活動に加わっている。

この活動は、主に1階常設展示の展示品を解説する「スポット解説ボランティア」と視覚障害者を案内する「誘導・案内ボランティア」がある。

なお、「展示解説ボランティア」には、制服としてスタッフフジャンパーを貸与している。

5.7.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は右表ならびに下表のとおりである。「展示解説ボランティア」は、「学芸ボランティア」

と「館運営ボランティア」から希望者を募ったために重複している。

2005 年度登録者数

登録分野	男性	女性	計
学芸・館運営・展示解説	0	0	0
学芸・館運営	0	0	0
学芸・展示解説	19	9	28
館運営・展示解説	3	7	10
学芸	78	90	168
館運営	11	5	16
展示解説	7	7	14
合計	118	118	236

分野別内訳と活動状況

分野			登録数			活動状況（延べ人数）												
			男性	女性	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学芸ボランティア	植物	植物	7	23	30	24	32	25	45	25	29	33	28	19	25	39	36	360
		菌類	18	16	34	63	87	89	97	95	62	23	23	26	39	43	43	690
	動物	哺乳類	4	10	14	4	4	13	7	14	15	18	15	10	14	9	25	148
		魚類	23	17	40	19	18	11	13	13	11	14	17	35	39	26	24	240
		昆虫	6	5	11	10	10	14	17	16	11	17	17	10	9	9	15	155
		無脊椎	1	0	1	5	2	2	2	1	2	2	1	2	2	3	2	26
		鳥類	4	3	7	5	5	2	5	5	5	0	0	0	0	0	0	27
	地球環境	地学	20	16	36	61	50	46	59	50	65	48	49	62	55	69	73	687
		R S	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		古生物	14	9	23	11	12	19	12	11	10	10	15	10	11	15	11	147
	合計		97	99	196	202	220	221	257	230	210	165	165	174	194	213	229	2,480

R S = リモートセンシング

館運営	博物館学	3	3	6	2	1	2	1	2	2	3	4	1	0	2	2	22
	ライブラリー	0	6	6	4	3	2	2	4	2	3	4	3	3	3	2	35
	友の会支援	11	3	14	16	21	12	20	14	13	22	18	10	19	31	48	244
	合計	14	12	26	22	25	16	23	20	17	28	26	14	22	36	52	301
解説	スポット解説	29	23	52	34	40	29	34	34	30	38	31	28	32	36	32	398
	うち誘導・案内	3	7	10	3	4	6	12	3	8	16	2	1	3	2	2	62

延べ活動人数3,240名（展示解説含む）

5.7.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、活動の場を広く提供するために講座を開催している。その内容等は表のとおりである。受講した方は、翌年度から当館でボランティア活動をすることができる。

[日程]

2007年1月25日(木)～2月3日(土)までの間の3～4日間(分野別の講座が1～2日間)

[内容]

博物館が受け入れ可能な分野で、ボランティア活動を希望される方を対象とした講座。

[講座定員] 6分野 24名および展示解説 10名 計 34名

[実施分野] 5分野 11名および展示解説 3名 計 14名

講座日程

共通

日時	内容	対象
1/25 (木)		
10:00～10:30	開会・挨拶・日程と講座内容説明・概要説明・諸注意等	応募者全員
10:30～11:30	講義「当館のボランティア活動について」(ボランティア担当)	
11:30～12:00	施設案内(職員引率)・展示見学(各自)	
13:00～14:30	講義「博物館の使命」(学芸部長)	応募者・現在活動中のボランティア
14:30～15:00	各担当者紹介・分野ごとオリエンテーション(各担当学芸員)	応募者全員

分野別

分野	内容	研修 日数	募集 定員	申し 込み	受講 人数	修了 人数	登録 人数
維管束植物	標本製作・情報システムへのデータ登録等(1/26・1/31)	2	5	1	1	1	1
菌類	標本製作・資料整理・情報システムへのデータ登録等(1/26)	1	3	4	4	4	4
哺乳類	標本整理・情報システムへのデータ登録等(2/1・2/2)	2	5	3	2	2	2
魚類	標本整理・魚類写真資料の整理等(1/31)	1	3	2	2	2	2
昆虫	標本整理・標本作製等(1/26)	1	3	2	0	0	0
ライブラリー	図書資料整理・情報システムへのデータ登録等(1/30)	1	5	3	2	2	1
展示解説	展示解説のしかた・展示解説の実習(1/27・1/30)	2	10	5	3	3	3

共通

日時	内容	対象
2/3 (土)		
10:00～11:45	活動・体験発表(現在活動中のボランティア) 学芸ボランティアから (植物分野から柳澤かほるさん・菌類分野から木村洋子さん)	応募者・現在活動中のボランティア
11:45～12:00	登録手続き説明等・活動にあたって・閉会(ボランティア担当)	
資料配付	ミュージアムライブラリーの利用のしかた(司書)	登録希望者

5.7.6. ミニレクチャーの開催

主に展示解説ボランティアの研修と、関連分野に関してより深い理解を得られることを目的として、学芸員と司書によるミニレクチャーを実施している。今年度における開催日時、内容等は表のとおりである。なお、学芸ボランティア、学習指導員等にも広く参加を呼びかけている。

実施日	内容	担当者	参加者数
5/25 (木)	地球のなりたちと地質・岩石について	斎藤靖二	49
8/4 (金)	ふしぎな生きもの菌類～動物? 植物? それとも?～ (特別展展示解説)	出川洋介	13

5.8. 友の会

「博物館友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に平成8年度に発足した。

5.8.1. 事務局・広報部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。

事務局

2006年度には8回の役員会を開催し、以下の事項を討議・実行した。

- 1 友の会ミッション
友の会とは……役割の明確化、共通認識のために議論を展開したが具体的な進展なし。
- 2 博物館との業務分担の再確認（博物館との調整のための協議）
- 3 NPO化に向けての調査・研修会（未実施）
- 4 友の会入会案内リーフレットの配布（有効的な設置の検討）段階的に実施
- 5 友の会運営支援者「ネコの手貸し隊」の活用（活動延人数123名・登録者71名）
- 6 子ども自然科学ひろば実行委員会（年4回実施）
- 7 ミューズ・フェスタ実行委員会（年5回実施）
- 8 入会キャンペーン（5月、8月、3月に実施）
- 9 「友の会通信」の教育機関への配布検討（通巻50号記念合本作製）

さらに、博物館と共催で“サロン・ド・小田原”を6回開催（別掲）し、“ミューズ・フェスタ2007”を実施した。

なお、2005年度の会員数（2006年3月末）は、正会員594名、賛助会員4名である。

広報部

- 1 「友の会通信」の発行
「友の会通信」を4回（通巻52～55号）発行し、配布した。
 - 1) 編集会議（前号反省、次号企画）5回、外部執筆者コーナーを新設。
 - 2) 編集作業（共同作業）4回。
 - 3) 長期編集計画の作成。
- 2 友の会HP・ブログの管理および運営
- 3 友の会と博物館行事年間一覧表の作成・配布1回
 - 1) 行事案内の方法、時期、紙面構成等について再検討会議1回。
- 4 職員紹介マップ作製・配布
- 5 情報の保存・管理システム作り
情報利用の規定を設ける
- 6 「自然科学のとびら・友の会版」発行
4回（通巻41～44号）

5.8.2. 企画部・各グループの活動

企画部

友の会が主催する観察会や講座を企画し、それらが円滑に実行できるように博物館側との調整を行った。また、総会終了後の友の会親睦イベントや各グループに属さないバックヤード探検隊等の行事を実施する。（表1）

地学グループ

友の会発足以来の地学愛好者の集まり。岩石、地層、地形などの野外観察を主体に、講座や学習会を開催して活発に活動している（表2）。

自然倶楽部

早川流域の自然観察会を中心に、人の暮らしとのつながりや歴史など、川の在り方を「楽修」し“早川水系自然博物館の創造”を目指した活動を展開する（表3）。

オープンラボ

「身近な自然」の観察の楽しみを伝える目的で小・中学生と保護者を対象に、博物館周辺での昆虫採集、館内での標本作り。植物や小さな生きものの顕微鏡観察を行っている（表4）。

植物グループ

2001年に発足した植物観察会は、植物が好きでたまらない会員たちのための観察会である。神奈川を中心に、四季折々の植物を求めて野や山に出かけている（表5）。

昆虫探検隊

昆虫好きの子どもと大人が集まって自然の中に出かけて行く。野山での昆虫たちとの出会いが新たな感動を呼ぶ（表6）。

表 1 企画部

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
4/9日(日)	友の会親睦イベント	長興山・石垣山 他	68	勝山輝男
4/29(土)	バックヤード探検隊	博物館	5	大島光春
5/13(土)	魚の標本づくり講座	小田原魚市場・博物館	15	瀬能 宏
9/9(土)	磯のいきもの観察会	真鶴半島	21	佐藤武宏
2/11(日)	地図を楽しもう	実習実験室・博物館周辺	49	新井田秀一

表 2 地学グループ

一般向け観察会・特別巡検

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
4/22(土)	箱根巡検Part II	白銀林道	38	山下浩之
5/27(土) ～28(日)	富士火山特別巡検「新富士火山を探して」	富士山	20	笠間友博 山下浩之
7/29(土)	丹沢の沢でパンニング	細川谷近辺	33	山下浩之
9/23(土)	大磯丘陵テフラ観察会 「関東ローム層の基本的な見かた」	大磯丘陵	41	笠間友博
10/14(土)	火山地形ウォッチング	芦ノ湖西岸	24	山下浩之 笠間友博 新井田秀一
11/12(土)	鉱物観察会2006	東伊豆海岸	24	
12/16(土)	大磯丘陵テフラ観察会「最古のロームを見る」	大磯丘陵	24	笠間友博

小・中学生向け講座

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
5/20(土)	親子教室「ザクロ石を集めよう」	博物館講義室	39	
8/19(土)	夏休み自由研究「岩石標本を作ろう2006」	松田町酒匂川河原	30	
8/26(土)	夏休み自由研究「鉱物みんなで鑑定会」	博物館講義室	37	

表 3 自然倶楽部

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
5/3(水)	早川野鳥こども観察会	博物館周辺	24	
6/3(土)	早川の文化と歴史の探訪会 Part 6 「太閤の岩風呂を訪ねて」	宮ノ下駅～太閤の岩風呂～ 早川溪谷探勝路～堂ヶ島温泉 ～宮ノ下駅	26	新井一政 勝山輝男
8/12(土)	水飢鬼を育てる！ Part 3	博物館周辺	27	新井一政
11/12(土)	早川水系の源を探る Part 10 「箱根の池巡り自然観察会」	芦之湯～阿字ヶ池～精進池 ～お玉ヶ池～湯本	39	新井一政 勝山輝夫

表 4 オープンラボ

公開講座

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
5/14(日)	土の中の虫ウォッチング	実習実験室	30	出川洋介

夏休みオープンラボ

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
8/5(土)	「小さな探検隊・葉っぱでスタンプ・顕微鏡観察」	実習実験室・博物館周辺	62	
8/6(日)	「小さな探検隊・葉っぱでスタンプ・顕微鏡観察」	実習実験室・博物館周辺	75	
8/13(日)	「小さな探検隊・葉っぱでスタンプ・顕微鏡観察」	実習実験室・博物館周辺	212	

表 5 植物グループ

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
4/21(金)	植物観察会「in 春の高尾」	高尾山	28	勝山輝男
6/6(火)	植物入門講座「イネ科ワールド」	実習実験室	25	木場英久
9/1(金)	植物観察会「富士山五合目」	富士山	55	勝山輝男
10/3(火)	植物入門講座「つる植物に注目」	実習実験室・博物館周辺	49	勝山輝男
11/18(土)	植物観察会「晩秋の湯河原を歩く」	湯河原町・日金山	34	勝山輝男
3/9(金)	植物観察会「頭高山の春探し」	秦野市・頭高山	26	勝山輝男

表 6 昆虫探検隊

実施日	行事名	実施場所	参加者数	館側協力者
5/27 (土) ～28 (日)	春の昆虫探検隊「ブナとカタクリと春の女神ギフチョウと」	新潟県・松之山町方面	14	高桑正敏 荻部治紀

5.9. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2005年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。

5.9.1. 広報印刷物の作成・配布

主な広報として、特別展・観察会・講演会など1年間の各種催し物を告知するため催し物案内、特別展・企画展開催に合わせポスターとチラシ、「子ども自然科学ひろば」のチラシ、「ミューズ・フェスタ2007」のポスター・チラシを下記の表のとおり作成・配布した。

左：特別展「ふしぎな生きもの菌類」ポスター・チラシ（表面）
右：企画展「パノラマにつぼん」ポスター・チラシ（表面）



ポスター・チラシ作成状況

月	ポスター・チラシ名	仕様	印刷部数	配布先の件数	主な配布先
6	特別展「ふしぎな生きもの菌類」ポスター	B1・B2・A3判、オフセット印刷、4色刷り	3,650	3,800	A, B, C, D, E, F, G, H, I
	特別展「ふしぎな生きもの菌類」チラシ	A4判、オフセット印刷、表面4色・裏面1色刷り	70,000		
7	子ども自然科学ひろばチラシ 2006年夏	B4判、館内簡易印刷、両面1色刷り	32,000	81	J
9	子ども自然科学ひろばチラシ 2006年秋	B4判、館内簡易印刷、両面1色刷り	32,000	81	J
11	企画展「パノラマにつぼん」ポスター	A3判、オフセット印刷、4色刷り	1,000	460	A, C, E, F, G, H, I
		B1判・B2判、館内印刷、4色刷り	55		
	企画展「パノラマにつぼん」チラシ	A4判、オフセット印刷、表面4色・裏面1色刷り	10,000		
12	子ども自然科学ひろばチラシ 2006年冬	A3・B4判、館内簡易印刷、片面1色刷り	4,000	81	J
2	ミューズ・フェスタ2007ポスター	A3判、オフセット印刷、4色刷り	500	2,200	A, C, D, E, F, G, I
	ミューズ・フェスタ2007チラシ	A4判、オフセット印刷、両面4色刷り	30,000		
3	子ども自然科学ひろばチラシ 2007年春	A3・B4判、館内簡易印刷、片面1色刷り(2種)	各4,000	81	J
	催し物案内	A3判、オフセット印刷、両面1色刷り	30,000	3,200	A, B, C, D, E, F, G

主な配布先の凡例。 A：県内小・中・高校等； B：県外（東京・静岡）小・中・高校等； C：県内図書館； D：県内公民館・地区センター； E：博物館園； F：県市町村情報提供窓口； G：マスメディア； H：小田急電鉄、箱根登山鉄道、JR 東日本各鉄道会社の協力による B1 判ポスターの掲示； I：近隣 2 市 8 町各自治会でのポスター掲示、チラシ組回覧、広報紙への記事掲載依頼； J：足柄上・下地区公立小・中学校

5.9.2. マスメディア等への情報提供

博物館の行う各種催し物の案内は、地元の小田原記者クラブへ定期的に提供している。また、当館は観光地箱根・小田原エリアにあるため、旅行情報誌やアミューズメント情報誌などに無償で施設紹介されており、非常に恵まれた環境にある。これら情報誌とは定期的に情報の更新を行っている。

特別展や企画展といった企画展示の話題は、マスメディアで取り上げられる率が高いため、小田原記者クラブ以外にケーブルテレビ、コミュニティFM局など中小のメディア

向けにも情報提供する一方、前日に内覧会を催すなど様々なかたちで広報展開を図った。

この1年間の紹介記事件数は、確認したものだけでも256件あった。その内訳は、新聞42件、雑誌・図書類68件、広報紙・情報紙70件、テレビ28件、ラジオ8件、ウェブサイト等インターネット32件、その他8件である。これは掲載社からの連絡に基づくもので、実際の記事件数はこの数倍にのぼると思われる。特に、ウェブサイトでの掲載頻度に関しては未知数である。

5.10. 入館者を対象としたアンケート

来館者学に対するサービス向上を目的に情報収集を行った。

[実施時期] 平成19年1月13日～2月25日

[実施方法]

展示室入り口で用紙・ボールペン配布後、所定場所での記述・投函（非対面方式）。

[回収集] 901枚

[調査内容] 来館目的・満足度・情報収集手段など

[結果] 表のとおり

問1 どのような目的でこの博物館に来られましたか（いくつかをつけてもよい）。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 楽しそうなので	361	20.8
(2) 博物館が好き	319	18.4
(3) 生き物や石などが好き	233	13.4
(4) いろいろ勉強がしたい	135	7.8
(5) 調べたいものがある	26	1.5
(6) 珍しいものがありそう	140	8.1
(7) 箱根に来たので	317	18.3
(8) 食事をしたい	6	0.3
(9) お土産を買いたい	27	1.6
(10) 何となく	64	3.7
(11) その他	108	6.2
合計	1,736	100.0

問2 博物館の中で感動したもの、興味がわいたものがありましたか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) あった	772	94.5
(2) なかった	45	5.5
合計	817	100.0

問3 博物館の雰囲気はどうでしたか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) よい	723	81.6
(2) ふつう	153	17.3
(3) わるい	10	1.1
合計	886	100.0

問4 博物館の施設は利用しやすかったですか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) よい	609	69.8
(2) ふつう	254	29.1
(3) わるい	10	1.1
合計	873	100.0

問5 博物館の職員、スタッフの対応はどうでしたか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 親切・丁寧だった	662	75.1
(2) ふつう	214	24.3
(3) わるい	5	0.6
合計	881	100.0

問6 見学して満足されましたか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 満足した	693	79.4
(2) ふつう	169	19.4
(3) わるい	11	1.3
合計	873	100.0

問 7 この博物館に来たのは何回目ですか。

「(1) はじめて」の場合 問 7 (1) また来たいですか。

「(2) 何度か来ている」の場合 問 7 (2) 何回目ですか。

選択肢 [問7]	回答数	割合 (%)
(1) はじめて	507	57.0
(2) 何度か来ている	383	43.0
合計	890	100.0

選択肢 [問7(1)]	回答数	割合 (%)
(1) はい	268	90.2
(2) いいえ	29	9.8
合計	297	100.0

選択肢 [問7(2)]	回答数	割合 (%)
(1) 2回目	176	46.0
(2) 3回目	92	24.0
(3) 4回目	38	9.9
(4) 5回目	34	8.9
(5) 6回目	8	2.1
(6) 7回目	5	1.3
(7) 8回目	2	0.5
(8) 9回目	0	0.0
(9) 10回以上	28	7.3
合計	383	100.0

問 8 何を見て博物館に来ましたか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) インターネット	150	16.1
(2) 本 (ガイドブックなど)	135	14.5
(3) 雑誌	26	2.8
(4) タウンニュースなど	9	1.0
(5) 人から聞いて	231	24.8
(6) 博物館のチラシ	52	5.6
(7) 博物館のポスター	35	3.8
(8) 県のたより	51	5.5
(9) 市町村広報誌	26	2.8
(10) 遠足などで来て	54	5.8
(11) その他 (通りがかりなど)	164	17.6
合計	933	100.0

問 9 何で博物館に来ましたか。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 自家用車	644	72.5
(2) 電車	198	22.3
(3) 貸切バス	19	2.1
(4) バス・タクシー	16	1.8
(5) オートバイ・自転車	6	0.7
(6) 歩いて	5	0.6
(7) その他	0	0.0
合計	888	100.0

問 11 あなたの年代は。

選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 小学生	164	18.6
(2) 中学生	18	2.0
(3) 高校生	11	1.2
(4) 大学生	39	4.4
(5) その他の10歳代	4	0.5
(6) 20歳代	71	8.1
(7) 30歳代	232	26.3
(8) 40歳代	133	15.1
(9) 50歳代	83	9.4
(10) 60歳代	92	10.4
(11) 70歳代以上	34	3.9
合計	881	100.0

問 10 お住まいはどちらですか。

選択肢	回答数	県内割合 (%)	県外割合 (%)	割合 (%)
横浜	139	24.6		16.0
川崎	39	6.9		4.5
横須賀	37	6.5		4.3
小田原	55	9.7		6.3
足柄下	5	0.9		0.6
足柄上	12	2.1		1.4
鎌倉	16	2.8		1.8
藤沢	45	8.0		5.2
茅ヶ崎	25	4.4		2.9
平塚	45	8.0		5.2
秦野	28	5.0		3.2
伊勢原	14	2.5		1.6
厚木	21	3.7		2.4
相模原	29	5.1		3.3
二宮	5	0.9		0.6
大磯	4	0.7		0.5
その他の県内	46	8.1		5.3
小計	565	100.0		65.1
東京	137		45.2	15.8
埼玉	29		9.6	3.3
静岡	71		23.4	8.2
千葉	29		9.6	3.3
群馬	5		1.7	0.6
山梨	7		2.3	0.8
その他の県外	25		8.3	2.9
小計	303		100.0	34.9
合計	868			100.0

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告(自然科学)」36号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川自然誌資料」第28号を刊行した。今年度は投稿規定を一部改定した。本誌は、主な研究機関(一部海外を含む)、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4号刊行した。一般利用者向けに、博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。主な内容は、自然科学に関する情報、最新のトピックスの紹介、研究成果、資料紹介、博物館の講演会、展示、行事等に関するものなどである。本誌は、県内中学校、高等学校、大学、図書館、全国の博物館等に配布している。また、同様の内容をホームページ(<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>)で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」11号(2005年度)を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 研究報告

[号数] 36号

[発行日] 2007年3月23日

[発行部数] 1,000部

[編集担当] 石浜佐栄子

[内容]

地球科学

石浜佐栄子：ジュラ紀前期の海洋無酸素事変の研究に関する進展と動向

笠間友博・山下浩之：神奈川県小田原市久野諏訪原で確認された斑レイ岩質岩片を含む諏訪原スコリア(新称)

山下浩之・笠間友博・川手新一・平田大二：箱根火山起源諏訪原テフラ(SWS)に発見された斑レイ岩質岩片の岩石学的性質

古生物学

大島光春：上部中新統三浦層群大磯層から産出したイノシシ類臼歯について

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創：生命の星・地球博物館古生物ボランティアグループ：横浜市南西部の上部更新統から見出された熱帯種タイワンシラトリ化石

植物学

田中徳久：神奈川県中津川のツメレンゲ群落

動物学

尼岡邦夫・瀬能 宏・岩槻幸雄：九州から得られたヘラガンゾウビラメおよびモンダルマガレイの2標本について
瀬能 宏・小林洋子・小林延行：宮古諸島の沿岸魚類
高桑正敏：雑木林におけるシロスジカミキリと好樹液性昆虫はなぜ衰退したか？

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 28号

[発行日] 2007年3月31日

[発行部数] 900部

[編集担当] 岡村綾子

[内容]

笠間友博・山下浩之：藤沢市円行で出現した箱根東京テフラ(Hk-TP)に伴う軽石流堆積物(Hk-T(pl))の記載と神奈川県中部に分布する同堆積物との対比

山下浩之・笠間友博：小田原市早川の石切丁場群で発掘された矢穴石の岩石学的特徴

田口公則・石浜佐栄子・平田大二：横浜市金沢区柴町に露出する上総層群小柴層模式地の地層剥ぎ取り標本

について

松島義章・田口公則・樽 創：神奈川県小田原市小船における完新統下原層の露頭剥ぎ取り資料および産出した貝化石

大澤剛士：2000年から2005年までの仙石原湿原の景観変化—写真による印象調査—

本田数博・阿部裕太：厚木市中津川西岸の河岸段丘崖に自生するシュロの分布調査

田中徳久・高橋秀男：「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物

河津英子：ツチノウエノハリゴケの新産地

帆足美伸：平塚市博物館収蔵のナヨタケ属菌不明種 “ウ

メネズイタチタケ”について
西村幹雄・藤澤示弘：丹沢大山地域の大型菌類について(II)
山口喜盛・山口尚子：小田原市のため池で確認されたコウモリ類について
板橋正憲・須永絵美・東野晃典・小林順子・田坂樹里：座間市で保護されたヒナコウモリの越冬飼育と出産の記録
岡田昌也・黒田貴綱・勝野武彦：神奈川県複数の流域におけるイタチの分布と生息環境に関する研究
藤吉敬子・宇山 智・井上和宏・浅野嗣三・渋谷香奈子・瀧澤 恵・菅原野花・岩本 順・藤原怜史・黒島祥一・竹村和記・石川康裕・藤吉正明：神奈川県弘法山公園において自動撮影と夜間観察で得られた哺乳類の記録
青木雄司・柳川美保子：茅ヶ崎市における地上棲小型哺乳類の生息状況

日比野義介・伊藤 治：南足柄市立丸太の森の鳥類記録
村瀬敦宣・根本雄太・前田 玄：東京湾の浜離宮恩賜庭園潮入の池と高浜運河に出現するハゼ科魚類
永井紀行・齋藤和久：不動川水系の魚類
中村静男・浜口哲一：神奈川県初記録のタケウチケブカミバエとその虫こぶについて
小菅皇夫：相模川河川敷のササラダニ類
西 栄二郎・田中克彦：神奈川近海の干潟・汽水域に産する環形動物多毛類
西 栄二郎・工藤孝浩・中山聖子・榎本輝樹・田中克彦・伊藤徹雄・諏訪部英俊・坂本昭夫・木村 尚・水尾寛巳・早川厚一郎：横浜野島沿岸における2003年春期赤潮後の生物相
倉持卓司・池田 等：相模湾より採集されたイボガニ(十脚目：異尾亜目)

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 12巻2号 通巻45号

[発行日] 2006年6月15日

[編集担当] 木場英久

[内容]

表紙「ナカムラギンメとオカムラギンメ」(瀬能 宏)
「ちょっとした時間に野鳥を楽しむ」(加藤ゆき)
「ふしぎな生きもの 菌類～動物?植物?それとも?～」(出川洋介)
展示シリーズ18「砂漠に咲く花～デザート・ローズ～」(平田大二)
ライブラリー通信「コケの魅力」(篠崎淑子)
「愛らしいゴキブリたち」(高桑正敏)

自然科学のとびら 12巻3号 通巻46号

[発行日] 2006年9月15日

[編集担当] 木場英久

[内容]

表紙「海水を飲みに来るアオバト」(加藤ゆき)
「"The present is the key to the past" —過去の謎を現在から解き明かす—」(石浜佐栄子)
「2005年のスタンディングから」(樽 創)
ライブラリー通信「美しき菌類」(篠崎淑子)
「中国科学院昆明動物研究所の昆明動物博物館を訪ねて」(松島義章(名誉館員))

自然科学のとびら 12巻4号 通巻47号

[発行日] 2006年12月15日

[編集担当] 木場英久

[内容]

表紙「展示室で虹色を楽しむ」(田口公則)
「チャートという岩石」(斎藤靖二)
展示シリーズ19「食虫目アズマモグラ」(山口佳秀)
「色と形から見る『につぼん』“パノラマにつぼん”を楽しむために」(新井田秀一)
ライブラリー通信「玉虫厨子のタマムシ」(篠崎淑子)
「哺乳類標本ができるまで」(広谷浩子)

自然科学のとびら 13巻1号 通巻48号

[発行日] 2007年3月15日

[編集担当] 木場英久

[内容]

表紙「おしべが花卉になる桜」(木場英久)
「昆虫担当学芸員と昆虫の保全活動」(菊部治紀)
「砂と廃油で楽しむ火山づくり」(笠間友博)
ライブラリー通信「パノラマにつぼんが終わっても」(篠崎淑子)
「南アルプスの高山植物が消える?」(勝山輝男)

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 11号

[発行日] 2006年10月15日

[発行部数] 1,000部

[編集担当] 橋本 隆・佐藤武宏・田中徳久

[内容]

沿革・事業報告(運営管理機能・情報発信機能・シンク
タンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・
情報システム・連携機能)・資料

6.2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	281	神奈川県植物誌2001	9,800	108
地球SOS	500	67	神奈川の植物絵葉書Aセット	200	終了
絶滅した生物	500	29	神奈川の植物絵葉書Bセット	200	終了
貝からの伝言	500	32	展示案内 生命あふれる不思議な星	420	495
フォッサマグナ要素の植物	600	66	ザ・シャーク	1,000	38
櫻井コレクションの魅力	400	21	侵略とかく乱の果てに	900	終了
日本の魚学・水産学事始め	1,000	13	丹沢の自然	900	終了
オオカミとその仲間たち	1,100	38	東洋のガラパゴス 小笠原	1,600	5
カニの姿	1,200	3	化石どうぶつ園	1,100	41
フットのひとりごと	900	0	神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006	2,000	498
写真で見る神奈川の植物	800	終了	身近な菌類の観察	1,000	700
			合計		2,435

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、当館が目指す以下のような新しい博物館を支えるシステムとして整備されることとなった。

- ・高度情報化における自然・文化の情報センター
- ・映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- ・他の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

上記3システムは、1995年度より稼動している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」の2つのサブシステムにより構成され、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援する。

なお、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせに対しては、当初、別のサブシステムが計画されていたが、現在はインターネットの普及により博物館のホームページをもって代替運用している。

当システムは当館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2007年3月31日現在の、博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は100BASE-FX、10/100BASE-TXによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ ディスク容量	数量	備考
CPUルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300	6GB	1	収蔵資料管理システム（管理部）
		RedHat Linux ES3	146GB		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX600	1GB	4	収蔵資料管理システム（データ部）
		RedHat Linux ES3	36GB		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX300	2GB	1	展示情報システムの管理
		RedHat Linux ES3	72GB		
	WEBサーバ	富士通 PRIMERGY RX300	2GB	1	ホームページの管理
		RedHat Linux ES3	72GB		
	Mailサーバ	富士通 PRIMERGY RX300	2GB	1	メール情報の管理
		RedHat Linux ES3	72GB		
	Updateサーバ	富士通 PRIMERGY BX620	2GB	1	Windows Updateの管理
		Windows 2003 Server SP1	73GB×2		
ミュージアムライブラリー	研究用WS	富士通 CELSIUS N430	2GB	2	衛星画像処理や分布図の作成など
		WindowsXP Professional	160GB		
	職員用端末	富士通 FMV-E5210	1GB	2	
		WindowsXP Professional	160GB		
	来館者用端末	富士通 FMV-E620	256MB	4	展示情報システムの閲覧など
		WindowsXP Professional	40GB		
研究室・バックヤード	画像入力用	富士通 FMV-E5210 他	1GB	3	
		WindowsXP Professional 他	160GB		
	職員用端末	富士通 CELSIUS N440	2GB	1	
		WindowsXP Professional	160GB		
	職員用端末	富士通 FMV-E630 他	1GB	21	
		WindowsXP Professional 他	160GB		

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

収蔵資料管理システムでは、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料情報を、サーバと呼ばれるコンピュータで一元管理するとともに、資料の画像情報の管理も行う。このサブシステムは博物館情報システムの中核となるシステムであり、資料の受入からラベル等の印刷やダウンロードまでをカバーできる。

当サブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』および『神奈川県植物誌 2001』の証拠標本を含む『維管束植物データベース』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真を属性情報とともにデータベース化した『魚類写真データベース』など、約 20 のデータベースから構成され、館外資料の情報を格納するデータベースも準備されている。2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。その登録状況を右表に示した。また、開館以来の登録実績に関しては、資料の項（99 ページ）に掲載した。

これらの情報は、研究への利用はもちろん、一部ではあるがミュージアムライブラリーで公開されている。本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている（85 ページ 7.4.1. の項を参照）。

収蔵資料管理システムの登録実績

分野	2005年度までの登録数	2006年度の登録数	合計
哺乳類	1,277	194	1,471
鳥類	905	149	1,054
魚類	15,538	3,127	18,665
魚類写真	64,571	1,986	66,557
昆虫	29,028	0	29,028
軟体動物	7,123	397	7,520
甲殻類	4,684	559	5,243
甲殻類細密画	6	142	148
動物その他	45	0	45
維管束植物	193,349	9,879	203,228
コケ	2,841	0	2,841
菌類・地衣類	3,397	0	3,397
植物その他	7	0	7
植生	114	58	172
化石	8,801	1	8,802
岩石	2,570	0	2,570
鉱物	1,750	11,061	12,811
地質・ボーリング	1	1	2
衛星画像	428	0	428
衛星処理画像		70	70
景観画像		378	378
合計	336,435	28,002	364,437
図書	13,013	900	13,913
雑誌	2,876	58	2,934
合計	15,889	958	16,847

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報を、

検索システムにより分かりやすく提供している。2006年度は図書・雑誌検索が新たに追加された。下表のうち、「画像で見る歴史と文化」は県立歴史博物館の提供である。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、215種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、約2,000種の画像や解説文を提供する。
	チョウ	神奈川に生息するチョウ、119種の画像や解説文を提供する。
	トンボ	神奈川に生息するトンボ、80種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、約300種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、66種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126種の画像や解説文を提供する。
酒井コレクション細密画		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660種の画像を提供する。
日本で見られる恐竜		国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書13752冊、雑誌2870冊が検索可能。
画像で見る歴史と文化	浮世絵	県立歴史博物館が保有している約7,000点の浮世絵コレクションから、時代や作者、地域などのテーマごとに選択した浮世絵230点を紹介する。
	絵馬	神奈川県でよく見ることができるとも珍しい絵馬など125点を紹介する。
	関東大震災	関東大震災によって受けた神奈川県下の被害を、写真資料70点で紹介する。
	水墨画	平成10年に開催された特別展「関東水墨画の200年」から85点を選択して各作品についての解説をつけ、あわせて画人の紹介をする。
	古地図	平成9年に開催した古地図の特別展に出品された作品の中から代表的な作品85点を紹介する。
	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料221点を紹介する。
	真葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から46点を紹介する。

7.3. インターネットの利用

小田原市と共同で1995年10月より開設していたWebサイト（ホームページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。博物館に関する様々な情報を提供しているホームページであるが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997年度以降のアクセス実績に関しては、資料の項（100ページ）に掲載した。

月別 Web トップページカウント数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
人数	15,131	15,950	12,910	16,799	22,899	17,050	17,037	13,615	11,474	14,008	13,607	13,934	184,414	15,367.8

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的に関わり情報を公開している Web サイトなどについて表にまとめた。

博物館の情報を公開している Web ページ

タイトル (HPアドレス)	当館からの提供状況	備考
魚類写真資料データベース http://research.kahaku.go.jp/zoology/photoDB/	魚類 (写真) より 54,583 件のデータを公開。	科学的研究を視野に入れた公的機関が提供する画像 DB では世界最大。
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類 (写真) より 47,170 件のデータを公開。	上の魚類写真資料データベースの英語版。
Fish Databases of Japan http://fishdb.kahaku.go.jp/cgi-bin/WebObjects/ichthy1.woa	魚類より 7,893 件を提供。	国内 9 つの研究機関の所蔵標本を横断的に検索できるシステム。タイプ標本の画像表示や、標本の採集地を地図上に表示するシステムも含む。
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	岩石、鉱物、砂、露頭などの約 2,500 件の画像を公開。	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大地・地球地学紀行、増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility, 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関する情報をインターネットによって簡単に検索できることを目的に 2001 年より始まった事業である。

日本国内では、独立行政法人国立科学博物館が中心となって、自然史標本データ整備事業をすすめ、サイエンス

ネット (s-net) として世界にむけて生物多様性の情報を発信するようになった。

今年度より、当館を含む神奈川県内の 6 つの博物館は、自然史標本データベース神奈川委員会を発足させ、このサイエンスネットへの情報提供を開始した。

18 年度神奈川委員会参加館

横須賀市立自然人文博物館
厚木市立郷土資料館
相模原市立博物館
平塚市博物館
川崎市立青少年科学館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの標本情報提供件数

維管束植物標本	5,000
魚類標本	5,000
軟体動物標本	2,000
哺乳類標本	106
合計	12,106

神奈川委員会全体では、30,000 件の情報を提供した。

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会 (WESKAMS)

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに 1996 年に発足したものである。会の愛称を WEST KANAGAWA MUSEUMS を略して「WESKAMS (ウエスカムズ)」と名付け、その事務局を当館においている。

[会議の開催]

WESKAMS の目的を達成させるための事業について、企画の方向性も含めて協議・検討する場として「館園長・協力者会議」を年2回開催している。2006 年度は表のとおりである。

[ミュージアム・リレー]

WESKAMS の連携・協調事業の一つとして、1997 年 10 月からミュージアム・リレーを毎月1回、持ち回りで各館園をつなぎながら実施している。当館での開催は次のとおりである。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
8/29 (月)	「館園長・協力者会議」(19回目)	当館会議室	22館園30名 協力者6名
3/17 (金)	「館園長・協力者会議」(20回目)	小田原市尊徳記念館	13館園17名 協力者4名

当館で開催のミュージアム・リレー

開催日	名称	内容	参加者
8/31 (木)	第107走(回)ミュージアム・リレー	特別展「不思議な生きもの菌類」の展示解説と見学	62名

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、博物館と友の会の共催による講演会形式の集いである。市民のみなさんが学芸員、研究者と気軽に交流できる場なることを目指している。第1部の講演会では、館長、学芸員や外部研究者等により研究活動、調査報告、最近のトピック等々の話題提供がなされる。第2部の茶話会では、第1部の話題提供に関連する資料等を囲みながら、参加者と話題提供者らの歓談が行われ、サロンの交流の場が生まれている。

第70回 ダニと共に50年

[開催日] 2006年5月11日(木)

[演者] 青木淳一(前館長)

[参加者] 70名

[演者] 出川洋介・内藤 敦(元三共製薬)、高田正樹(神奈川工科大)

[参加者] 92名

第71回 日本列島は寄木細工

[開催日] 2006年6月29日(木)

[演者] 斎藤靖二(館長)

[参加者] 67名

第72回 あなたは「みどり」が好きですか

[開催日] 2006年8月12日(土)

[演者] 松田輝雄(元NHKエグゼクティブアナウンサー)

[参加者] 39名

第73回 発酵食品の夕べ

[開催日] 2006年11月4日(土)



「発酵食品の夕べ」茶話会の様子

第74回 パノラマにつぼんをたのしむ

〔開催日〕2006年12月16日(土)

〔演者〕新井田秀一

〔参加者〕37名

第75回 子どものころの自然の遊びを思い出そう

〔開催日〕2007年2月23日(金)

〔演者〕田口公則・広谷浩子・佐藤昭男(友の会)

〔参加者〕28名



「パノラマにつぼんをたのしむ」茶話会の様子

8.3. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

ミュージアムショップ(1階)

“生涯学習施設としての博物館”におけるミュージアムショップなので、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。また、特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトにあわせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思って頂けるような空間づくりを実施している。

レストラン「フォーレ」(3階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、

感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、老若男女に対応できる品揃えとなっている。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色をだすため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ「あーす」(1階)

「ともしびショップ」は、障害者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障害者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目にあたる。

ショップ「あーす」は来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。



ミュージアムショップ



レストラン「フォーレ」



ともしびショップ「あーす」

III 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日

条例 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立 歴史博物館	横浜市中区 南仲通5丁目 60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立 生命の星・ 地球博物館	小田原市 入生田499番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 前 2 項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する児童及び生徒の

引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りではない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表(第 4 条関係)

	区分	個人	20人以上 の団体
神奈川県立 歴史博物館	20歳以上の者 (学生を除く)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者 学生	同 200円	同 150円
神奈川県立 生命の星・ 地球博物館	20歳以上の者 (学生を除く)	1人につき 510円	1人につき 400円
	20歳未満の者 学生	同 300円	同 200円

備考 1 学生とは、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。以下「法」という。)第 1 条に規定する大学及び高等専門学校、法第 82 条の 2 に規定する専修学校並びに法第 83 条第 1 項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者、65 歳以上の者並びに法第 1 条に規定する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (3) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。

- (4) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (5) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規程する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第5条 教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

(1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文

部科学大臣の指定した博物館に相当する施設

(2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館

(3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館

(4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校

(5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であっても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行うことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986 年		4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定	10 月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手
1988 年		1992 年	
7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 裕（慶応大学名誉教授））から提言	6 月	第二期造成工事着手
1989 年		8 月	博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定 神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置	1993 年	
11 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足	4 月	博物館情報システム開発着手
12 月	展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手	6 月	第三期造成工事着手
1990 年		1994 年	
2 月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手	6 月	第四期造成工事着手
3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正
9 月	博物館情報システム実施計画策定	1995 年	
10 月	建築基本設計着手	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
1991 年		3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得	3 月 20 日	開館記念式典実施
		3 月 21 日	一般公開開始

2.2. 開館から 2006 年度末まで

1995 年		1996 年	
3 月 21 日	一般公開開始	2 月 28 日	1995 年度第 2 回神奈川県博物館協議会（当館）
4 月 29 日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中 雄一	3 月 1 日	特別展「中津層出土のサル化石」（5 月 12 日まで）
5 月 7 日	入館者 10 万人到達（開館 41 日目）	3 月 20 日	開館 1 周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士
6 月 22 日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）	4 月	シンボルマーク製作
9 月 6 日	ジブチ共和国大統領ご視察	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（開館 321 日目）
9 月 24 日	入館者 30 万人到達（開館 158 日目）	6 月 1 日	学習指導員による団体サービス（ガイダンス）充実
10 月 7 日	特別展「チョウとガの世界」（11 月 26 日まで）	6 月 8 日	「新収集資料展」（6 月 23 日まで）
11 月 4 日	日本鱗翅学会創立 50 周年記念大会（11 月 5 日まで）	7 月 20 日	特別展「迫われる生きものたち」（9 月 23 日まで）
11 月 10 日	1995 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）	9 月	ガイダンスビデオ製作
		10 月 24 日	1996 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
		12 月 20 日	「ゆく年くる年展」（1 月 31 日まで）

1997 年

- 3月1日 エントランスガイダンス開始
- 3月1日 特別展「櫻井コレクションの魅力」(5月11日まで)
- 3月12日 1996 年度第2回神奈川県博物館協議会
- 3月20日 開館2周年記念講演会「3年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうにご利用してみませんか」
浜口哲一・濱田隆士
バリアフリー音声ガイドサービス開始
- 3月21日 日本植物分類学会第27回大会(3月23日まで)
- 7月20日 特別展「地球再発見」(11月3日まで)
- 7月23日 入館者100万人到達(開館705日目)
- 11月12日 1997 年度第1回神奈川県博物館協議会
- 11月15日 日本鞘翅学会第10回記念大会(11月16日まで)
- 12月20日 「ゆく年くる年展」(1月31日まで)

1998 年

- 1月30日 日本古生物学会1998 年年会(2月1日まで)
- 2月1日 特別展「フランツ・ヒルゲンドルフ展」(3月31日まで)
- 3月12日 1997 年度第2回神奈川県博物館協議会
- 3月21日 開館3周年記念事業「生命の星・地球フェスタ'98」(3月29日まで)
- 3月30日 天皇陛下・皇后陛下行幸啓
- 4月4日 日本動物分類学会第34回大会(4月5日まで)
- 4月25日 企画展「植物画で観る山の花」(5月24日まで)
- 7月18日 特別展「オオカミとその仲間たち」(9月27日まで)
- 8月26日 日本第四紀学会1998 年大会(8月28日まで)
- 9月12日 中国遼寧省友好代表団来館
- 10月24日 企画展「ふれる彫刻展 Part 2」(11月23日まで)
- 10月29日 1998 年度第1回神奈川県博物館協議会
- 11月3日 入館者150万人到達(開館1,090日目)
- 12月12日 「新収集資料展」(1月10日まで)

1999 年

- 1月30日 特別展「カニの姿」(3月31日)
- 3月19日 1998 年度第2回神奈川県博物館協議会
- 3月20日 「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
- 4月24日 企画展「北アルプスの四季」(5月30日まで)
- 7月17日 特別展「海から生まれた神奈川」開催(9月5日まで)
- 8月4日 中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
- 10月1日 特別展「のぞいてみよう!5億年前の海」(11月28日まで)
- 11月6日 日本蛸蛤学会大会(11月7日まで)
- 11月12日 天皇陛下ご在位10周年慶祝事業 無料公開
- 11月14日 みなかんネットワーク大会
- 11月25日 1999 年度第1回神奈川県博物館協議会
- 11月27日 常設展示化石標本3点の盗難を確認
- 12月9日 常設展示化石標本10点の盗難を確認
- 12月11日 企画展「カラー魚拓の世界」(1月16日)

2000 年

- 3月18日 開館5周年記念 活動報告展「開かれた博物館をめざして」(5月14日)
- 3月20日 開館5周年記念講演会「博物館は宝の山!」
- 3月23日 Xu Daosheng (湖北省博物館)・Jang, Sang-Hoon (韓国国立中央博物館) ほか視察
- 3月31日 濱田隆士館長退任
- 4月1日 青木淳一館長就任
- 5月13日 日本土壌動物学会第23回大会(5月14日まで)
- 7月15日 特別展「サルがいて、ヒトがいて」(9月3日まで)
- 8月6日 入館者200万人到達(開館1,613日目)
- 9月23日 企画展「切手で語る魚類の世界」(11月5日まで)
- 10月6日 2000 年度日本魚類学会年会(10月9日まで)
- 10月15日 200 万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」
- 11月30日 2000 年度第1回神奈川県博物館協議会

2001 年

- 2月10日 特別展「ふしぎ大陸 南極展」(4月8日)
- 3月20日 開館6周年記念講演会「自然史(誌)を楽しむ〜いま箱根の自然は〜」
- 3月27日 2000 年度第2回神奈川県博物館協議会
- 3月27日 神奈川県博物館協議会協議会を廃止
- 4月15日 青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
- 7月20日 特別展「神奈川の植物・その10余年の変化」(9月16日まで)
- 10月19日 中国遼寧省職員視察
- 10月20日 特別展「地球を見る〜宇宙からみた神奈川」(12月16日まで)
- 11月9日 ミュージアム・リレー第50 走達成記念講演会
- 11月22日 ミュージアム・リレー第50 走達成記念シンポジウム
- 11月23日 日本蛸蛤学会(11月25日まで)

2002 年

- 1月4日 企画展「地球の息吹・富士彩彩」(1月27日まで)
- 2月16日 企画展「みんなの手づくり恐竜展」(3月17日まで)
- 2月21日 博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
- 3月19日 箱根フリーパス対象施設に参加
- 3月21日 開館7周年記念シンポジウム「蝕まれるかながわの生物」
- 4月27日 「新収集資料展」(6月2日まで)
- 7月19日 入館者250万人到達(開館2,206日目)
250 万人達成感謝ウィーク
- 7月20日 特別展「人と大地と」(9月29日まで)
- 7月21日 「自然を楽しむみち」案内板贈呈式
- 12月7日 特別展「ザ・シャーク」(3月2日)

2003 年

- 1月30日 博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」
- 3月11日 全国科学博物館協議会総会(3月12日まで)
- 3月21日 ミューズ・フェスタ2003(3月22日まで)
- 3月28日 青木淳一館長が小田原城下町大使に就任
- 4月26日 企画展「活動報告展・学芸員のお仕事」(6月8日まで)
- 7月19日 特別展「侵略とかく乱のはてに」(9月15日まで)
- 7月20日 夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(8月31日まで)
- 8月2日 日本蕨苔類学会(8月3日まで)
- 8月12日 教育委員視察
- 10月25日 松沢成文知事来館
- 11月1日 特別展「丹沢の自然」(1月25日)

2004 年

- 3月9日 博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例について」
- 3月20日 ミューズ・フェスタ2004(3月21日まで)
- 4月24日 企画展「きのこアート展」(6月6日まで)
- 5月25日 入館者300万人到達(開館3,770日目)
- 7月17日 特別展「東洋のガラパゴス 小笠原」(10月31日まで)
- 7月21日 夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(8月31日まで)
- 11月20日 日本鞘翅学会第17回大会(11月21日まで)
- 12月18日 企画展「+2°Cの世界」(2月27日まで)

2005 年

- 3月8日 博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
- 3月20日 ミューズ・フェスタ2005(3月21日まで)
- 4月1日 「博物館10年の歩み」(4月10日まで)
- 4月29日 「収蔵資料展」(5月29日まで)
- 7月16日 特別展「化石どうぶつ園」(11月6日まで)
- 7月18日 夏休み中無休開館期間(8月29日まで)
- 12月10日 企画展「丹沢～むかし・今・あした～」(2月12日まで)

2006 年

- 1月14日 ミュージアム・リレー第100走達成記念行事(1月15日まで)
- 3月23日 博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
- 3月18日 ミューズ・フェスタ2006(3月19日まで)
- 3月18日 「マイミュージアム・みんなの活動報告・マイミュージアム写真展」(4月10日まで)
- 3月31日 青木淳一館長退任
- 4月1日 管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。
斎藤靖二館長就任
- 4月29日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月28日まで)
- 7月15日 特別展「ふしぎな生きもの 菌類 ～動物?植物?それとも?～」(11月5日まで)
- 7月8日 入館者350万人到達(開館3,409日目)
- 7月17日 夏休み中無休開館期間(8月28日まで)
- 11月12日 自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」
- 12月9日 企画展「パノラマにつぼん」(2月25日まで)

2007 年

- 2月28日 全国科学博物館協議会理事会総会
- 3月17日 ミューズ・フェスタ2007(3月18日まで)
- 3月17日 活動報告展「みんなの活動報告展」(5月6日まで)
- 3月30日 博物館課題研究会

3. 統計資料

3.1. 入館者状況

3.1.1. 2006 年度の入館者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
開館日数	26	26	22	28	31	26	27	25	24	24
入館者数										
有料 成年個人	6,394	7,300	4,502	7,251	14,212	6,221	4,757	4,593	3,052	4,306
同上特展のみ				347	763	327	357	117		
未成年・学生個人	134	186	124	177	457	271	135	135	141	157
同上特展のみ				15	39	54	12	5		
成年団体	276	482	264	436	188	292	568	786	241	105
未成年・学生団体	73	0	27	0	44	22	17	0	0	0
成年割引	156	216	80	478	1,066	287	171	183	184	209
未成年・学生割引	4	7	3	27	54	66	4	8	37	29
小計	7,037	8,191	5,000	8,731	16,823	7,540	6,021	5,827	3,655	4,806
無料 園児	1,256	1,724	988	4,208	3,784	1,641	1,253	1,911	644	1,329
小学生	6,326	8,814	5,638	5,550	9,508	4,469	13,292	5,643	1,368	2,293
中学生	1,172	2,813	577	1,590	2,233	379	568	1,121	482	306
高校生	2,011	1,292	177	508	945	185	234	939	79	87
65歳以上	2,751	2,119	2,299	2,209	3,443	2,001	2,583	2,721	1,340	1,288
しょうがい者	455	675	602	685	995	634	958	600	331	303
その他	1,463	1,214	914	1,188	741	852	1,416	873	291	440
小計	15,434	18,651	11,195	15,938	21,649	10,161	20,304	13,808	4,535	6,046
合計	22,471	26,842	16,195	24,669	38,472	17,701	26,325	19,635	8,190	10,852
1日平均	864.3	1,032.4	736.1	881.0	1,241.0	680.8	975.0	785.4	341.3	452.2
前年比 (%)	107.8	122.0	110.7	105.6	105.3	104.3	83.5	97.5	83.8	99.6

特別展示室の入室者数

有料 成年				3,037	8,421	2,902	2,492	730		
未成年・学生				83	361	248	95	39		
				3,120	8,782	3,150	2,587	769		
無料	3,682	11,760		9,438	18,427	8,160	16,239	1,835	3,516	6,010
合計	3,682	11,760		12,558	27,209	11,310	18,826	2,604	3,516	6,010

(右ページへ続く)

3.1.2. 2006 年度特別展示室入場者状況

企画名	期間	日数	入場者数				
			有料			無料	合計
			20歳以上 学生を除く	20歳未満 学生	小計		
マイミュージアム・みんなの活動報告・マイミュージアム写真展	4/1 (土)～9 (金)	8				2,726	2,726
学芸員の活動報告展	4/29 (土)～5/28 (日)	26				12,716	12,716
ふしぎな生きもの 菌類 ～動物?植物?それとも?～	7/15 (土)～11/5 (日)	106	17,582	826	18,408	54,099	72,507
パノラマにつぼん	12/9 (土)～2/25 (日)	64				15,939	15,939
みんなの活動報告展	3/17 (土)～3/31 (土)	12				4,700	4,700
合計		216	17,582	826	18,408	90,180	108,588

月	2月	3月	合計	1日平均	構成比	前年比	累計 (*)	1日平均	構成比
開館日数	25	25	309				3,637		
入館者数				(%)	(%)		(%)	(%)	
有料 成年個人	4,685	5,993	73,266	237.1	30.3	105.4	1,232,009	338.7	33.5
同上特展のみ			1,911	6.2	0.8	105.1	21,561	5.9	0.6
入館者 未成年・学生個人	208	437	2,562	8.3	1.1	105.6	43,311	11.9	1.2
同上特展のみ			125	0.4	0.1	183.8	1,207	0.3	0.0
成年団体	270	192	4,100	13.3	1.7	97.6	134,244	36.9	3.7
未成年・学生団体	32	20	235	0.8	0.1	77.3	5,192	1.4	0.1
成年割引	275	409	3,714	12.0	1.5	97.6	19,985	5.5	0.5
未成年・学生割引	53	108	400	1.3	0.2	94.8	2,031	0.6	0.1
小計	5,523	7,159	86,313	279.3	35.7	104.6	1,459,540	401.3	39.7
無料 園児	2,089	2,355	23,182	75.0	9.6	109.9	271,530	74.7	7.4
小学生	2,209	3,365	68,475	221.6	28.3	101.7	916,631	252.0	25.0
入館者 中学生	394	409	12,044	39.0	5.0	105.6	174,064	47.9	4.7
高校生	159	246	6,862	22.2	2.8	103.7	107,292	29.5	2.9
65歳以上	1,680	2,249	26,683	86.4	11.0	98.9	440,406	121.1	12.0
しょうがい者	544	564	7,346	23.8	3.0	94.8	97,777	26.9	2.7
その他	630	622	10,644	34.4	4.4	103.3	205,055	56.4	5.6
小計	7,705	9,810	155,236	502.4	64.3	102.5	2,212,755	608.4	60.3
合計	13,228	16,969	241,549	781.7	100.0	103.2	3,672,295	1,009.7	100.0
1日平均	529.1	678.8	781.7						
前年比 (%)	101.3	98.8	101.9						

(*) 一般公開開始
(1995年3月21日)からの累計

特別展示室の入館者数			
有料 成年			17,582
未成年・学生			826
			18,408
無料	6,413	4,700	90,180
合計	6,413	4,700	108,588

入館者数記録

最高入館者数: 2,316人 7月23日(日)
最低入館者数: 72人 1月12日(金)

3.1.3. その他の博物館利用者

施設利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ライブラリー利用者	9,654	11,424	7,554	9,475	15,078	6,693	9,681	7,124	3,859	4,616	5,382	6,859	97,399
講座・講演会	86	177	46	73	695	64	149	274	186	175	503		2,428
サロン・ド・小田原		70	67		39			92	37		28		333
研修・実習・学校	74	30	14	232	361	26	84	34	99	91	28	4	1,077
その他		32	68		137		50	67	39	73	165	3,394	4,025
合計	9,814	11,733	7,749	9,780	16,310	6,783	9,964	7,591	4,220	4,955	6,106	10,257	105,262

「講座・講演会」には、博物館主催または共催の講座や講演会、友の会主催または共催の講座や講演会など、観覧券の発券を伴わない利用者を含む。

「研修・実習・学校」には、職場体験研修、新採用研修、博物館実習や、学校の課外活動など、観覧券の発券を伴わない利用者を含む。

「その他」には、ミューズフェスタの参加者および、博物館が開催に協力した各種催し物の利用者の人数を示した。

利用人数は、実際に利用した人数(のべ人数)によって算出している(3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出)。

3.2. 入館者実績

年度	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303
有料 成年個人	10,541	176,762	138,362	131,314	121,257	98,259	88,236	82,620	84,153	84,090
同上特展のみ			1,725	1,614	1,297	1,005	2,413	2,406	4,114	2,118
入館 未成年・学生個人	501	5,365	4,942	5,190	4,470	3,497	3,181	2,826	2,918	2,588
同上特展のみ			66	70	61	43	123	101	352	123
者 成年団体	177	18,745	20,670	19,615	16,159	13,232	10,534	7,784	7,761	6,509
未成年・学生団体	23	629	496	432	1,119	523	394	204	377	214
成年割引				93	138	63	68	239	3,428	4,258
未成年・学生割引				17	2	1	5	29	281	458
小計	11,242	201,501	166,261	158,345	144,503	116,623	104,954	96,209	103,384	100,358
無料 園児	2,078	27,035	22,416	25,164	26,034	21,311	19,741	18,829	22,267	22,384
小学生	5,921	90,094	80,892	82,556	81,453	75,182	72,144	69,195	71,091	79,289
入館 中学生	1,095	23,232	20,076	19,751	15,591	13,965	12,234	11,260	12,992	11,165
高校生	470	12,341	14,130	12,493	10,068	7,892	7,167	7,510	7,014	6,678
者 65歳以上	1,811	49,686	52,755	50,878	45,155	38,380	33,293	29,579	29,868	28,599
しょうがい者	235	10,535	8,991	8,776	8,555	6,615	7,284	8,899	7,818	8,117
その他	1,522	38,786	28,411	19,224	18,066	15,150	13,349	12,997	13,191	12,261
小計	13,132	251,709	227,671	218,842	204,922	178,495	165,212	158,269	164,241	168,493
合計	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851
平均入館者数	2,437.4	1,526.0	1,308.7	1,253.1	1,168.6	990.3	897.6	828.9	871.7	887.3
指数 (95年度=100)	5.4	100.0	86.9	83.2	77.1	65.1	59.6	56.2	59.1	59.3
最高入館者数		6,152	5,007	4,148	4,221	3,324	3,110	2,722	2,899	2,899
日付		5/4	5/5	5/4	5/3	5/4	7/25	4/30	5/31	8/17
最低入館者数		148	147	94	153	107	113	72	149	91
日付		1/12	12/24	1/15	1/14	1/14	2/6	9/11	12/10	12/18

年度	2004年度	2005年度	2006年度	合計	比率 (%)
開館日数	299	305	309	3,637	
有料 成年個人	73,639	69,510	73,266	1,232,009	33.55
同上特展のみ	1,140	1,818	1,911	21,561	0.59
入館 未成年・学生個人	2,591	2,426	2,562	43,057	1.17
同上特展のみ	75	68	125	1,207	0.03
者 成年団体	5,011	4,201	4,126	134,524	3.66
未成年・学生団体	242	304	235	5,192	0.14
成年割引	4,178	3,806	3,688	19,959	0.54
未成年・学生割引	416	422	400	2,031	0.06
小計	87,292	82,555	86,313	1,459,540	39.74
無料 園児	19,999	21,090	23,182	271,530	7.39
小学生	73,015	67,324	68,475	916,631	24.96
入館 中学生	9,253	11,406	12,044	174,064	4.74
高校生	8,050	6,617	6,862	107,292	2.92
者 65歳以上	26,751	26,968	26,683	440,406	11.99
しょうがい者	6,853	7,753	7,346	97,777	2.66
その他	11,155	10,299	10,644	205,055	5.58
小計	155,076	151,457	155,236	2,212,755	60.26
合計	242,368	234,012	241,549	3,672,295	100.00
平均入館者数	810.6	767.3	781.7	1,009.7	
指数 (95年度=100)	53.5	51.6	53.3		
最高入館者数	2,979	2,482	2,316	6,152	
日付	5/4	10/27	7/23	97/5/4	
最低入館者数	83	77	72	72	
日付	1/14	12/20	1/12	01/9/11, 07/1/12	

3.3. 特別展・企画展開催実績

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
1995	特別展	チョウとガの世界	1995.10.7～11.26	41	3,247	13,655	16,902
1996	特別展	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	1996.3.1～5.12	63	—	94,566	94,566
	企画展	新収資料展	1996.6.8～6.23	13	—	10,501	10,501
	特別展	追われる生きものたち	1996.7.20～9.23	58	19,011	33,475	52,486
	企画展	文化財保護ポスター展	1996.12.5～12.15	10	—	1,471	1,471
	企画展	ゆく年くる年展	1996.12.20～1997.1.31	30	—	10,194	10,194
	特別展	櫻井コレクションの魅力—偉大なアマチュア自然科学者の軌跡—	1997.3.1～5.11	61	—	40,848	40,848
1997	企画展	ふれる彫刻100展	1997.5.23～6.22	25	—	—	—
	特別展	地球再発見—新しい地球像をもとめて—	1997.7.20～11.3	92	18,033	46,886	64,919
	企画展	文化財保護ポスター展	1997.12.6～12.14	8	—	—	—
	企画展	新収資料展	1997.11.15～11.24	9	—	6,374	6,374
	企画展	ゆく年くる年展	1997.12.20～1998.1.11	12	—	2,997	2,997
	特別展	日本の魚学・水産学事始め—フランツ・ヒルゲンドルフ展—	1998.2.1～3.31	48	1,557	7,398	8,955
1998	企画展	植物画で観る山の花—小林政雄作品集より—	1998.4.25～5.24	26	—	13,375	13,375
	特別展	オオカミとその仲間たち—イヌ科動物の世界—	1998.7.18～9.27	61	17,714	30,588	48,302
	企画展	ふれる彫刻 Part 2—地球の心を彫る！	1998.10.24～11.23	26	—	14,316	14,316
	企画展	新収資料展	1998.12.12～1999.1.10	12	—	4,168	4,168
	特別展	カニの姿—酒井コレクションから—	1999.1.30～3.31	51	3,746	14,228	17,974
1999	企画展	北アルプスの四季—岳をめぐりて	1999.4.24～5.30	32	—	15,119	15,119
	特別展	海から生まれた神奈川—伊豆・小笠原弧の形成と活断層—	1999.7.17～9.5	43	8,585	16,807	25,392
	特別展	のぞいてみよう！5億年前の海—三葉虫が見た世界—	1999.10.1～11.28	49	4,690	21,470	26,160
	企画展	カラー魚拓の世界	1999.12.11～2000.1.16	24	—	6,082	6,082
	企画展	平成11年度活動報告展 開かれた博物館をめざして—生命の星・地球博物館の5年間の歩み—	2000.3.18～5.14	52	—	17,647	17,647
2000	特別展	サルがいて、ヒトがいて—野生動物との共存を考える—	2000.7.15～9.3	43	9,949	24,359	34,308
	企画展	切手で語る魚類の世界	2000.9.23～11.5	42	—	11,797	11,797
	企画展	田中茂穂博士と魚学研究ゆかりの品々	2000.10.7～10.8	2	—	600	600
	特別展	ふしぎ大陸 南極展	2001.2.10～4.8	49	2,141	11,643	13,784
2001	特別展	神奈川の植物 その10余年の変化	2001.7.20～9.16	51	6,197	10,886	17,083
	特別展	地球を見る—宇宙から見た神奈川—	2001.10.20～12.16	50	6,511	13,628	20,139
	企画展	地球の息吹 富士彩々	2002.1.4～1.27	22	—	7,708	7,708
	企画展	みんなの手づくり恐竜展	2002.2.16～3.17	25	—	14,003	14,003
2002	企画展	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	2002.3.21～4.21	26	—	13,029	13,029
	企画展	新収資料展	2002.4.27～6.2	34	—	3,363	3,363
	特別展	人と大地と—Wonderful Earth—	2002.7.20～9.29	64	12,891	23,674	36,565
	特別展	ザ・シャーク—鯨の進化と適応・ケースコレクションより—	2002.12.7～2003.3.2	68	11,840	19,211	31,051
2003	企画展	日本の自然にヘラクレスはいらない—移入昆虫がもたらす諸問題を考える—	2003.3.21～4.6	17	—	9,442	9,442
	企画展	友の会活動報告および活動紹介展	2003.4.26～6.8	38	—	18,711	18,711
	特別展	侵略とかく乱のはてに—未来へつなげる自然とは—	2003.7.19～9.15	51	14,109	25,477	39,586
	特別展	丹沢の自然	2003.11.1～2004.1.25	69	6,186	11,376	17,562
	企画展	きらわれものだよ、全員集合！—きらわれものたちの意外な素顔—	2004.3.20～4.4	14	—	8,263	8,263
	企画展	博物館友の会活動報告および活動紹介展	2004.4.24～6.6	33	—	28,714	28,714
	企画展	きのこアート展	2004.7.17～10.31	93	17,602	31,862	49,464
2004	特別展	東洋のガラパゴス 小笠原—固有生物の魅力とその危機—	2004.12.18～2005.2.27	56	—	23,669	23,669
	企画展	博物館10年の歩み・友の会活動紹介	2005.3.20～4.10	20	—	5,180	5,180
	企画展	収蔵資料展	2005.4.29～5.29	26	—	15,925	15,925
	特別展	化石どうぶつ園—北アメリカ漸新世の哺乳類—	2005.7.16～11.6	105	22,243	54,988	77,231

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
2005	企画展	丹沢～むかし・今・あした～	2005.12.10～2006.2.12	51	—	14,785	14,785
(続き)	企画展	マイミュージアム・みんなの活動報告展・マイミュージアム写真展	2006.3.18～4.9	19	—	9,997	9,997
2006		学芸員の活動報告展	2006.4.29～5.28	26	—	12,716	12,716
	特別展	ふしぎな生きもの 菌類～動物?植物?それとも?～	2006.7.15～11.5	106	18,408	54,099	72,507
	企画展	パノラマにつぼん	2006.12.9～2007.2.25	64	—	15,939	15,939
		みんなの活動報告展	2007.3.17～3.31	12	—	4,700	4,700

3.4. 資料登録実績

分野	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
哺乳類		1,432	65	1	0	0	0	417	170	8
鳥類										
魚類		846	733	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879
魚類写真		7,593	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361
昆虫		26,839	817	742	623	6	0	0	0	0
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616	0	36	147	9
甲殻類		0	0	0	4,218	0	12	0	0	0
甲殻類細密画										
動物その他		0	0	0	28	4	2	11	0	0
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754	0	1,333	1,281
コケ		2,670	14	83	6	7	61	0	0	0
菌類・地衣類		0	2	459	218	1,717	1,001	0	0	0
植物その他		0	0	5	0	0	2	0	0	0
植生									10	40
化石		2,220	3,477	21	594	2,304	0	72	24	3
岩石		0	492	259	52	32	0	0	1,173	128
鉱物		181	0	92	0	0	0	0	1,472	0
地質・ボーリング		1	0	0	0	0	0	0	0	0
衛星画像										401
衛星処理画像										
景観画像										
小計		212,506	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	16,110

図書										11,355
雑誌										2,730
小計										14,085

合計		212,506	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	30,195
----	--	---------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------

分野	2004年度	2005年度	2006年度	合計
哺乳類	21	64	194	1,471
鳥類		4	149	1,054
魚類	1,635	2,583	3,127	18,665
魚類写真	3,780	813	1,986	66,557
昆虫	0	1	0	29,028
軟体動物	93	12	397	7,520
甲殻類	15	439	559	5,243
甲殻類細密画		6	142	148
動物その他	0	0	0	45
維管束植物	1,507	1,981	9,879	203,228
コケ	0	0	0	2,841
菌類・地衣類	0	0	0	3,397
植物その他	0	0	0	7
植生	64	0	58	172
化石	0	86	1	8,802
岩石	0	434	0	2,570
鉱物	0	5	11,061	12,811
地質・ボーリング	0	0	1	2
衛星画像	0	27	0	428
衛星処理画像			70	70
景観画像			378	378
小計	7,115	6,455	28,002	364,437

図書	886	772	900	13,913
雑誌	95	51	58	2,934
小計	981	823	958	16,847

合計	8,096	7,278	28,960	381,284
----	-------	-------	--------	---------

3.5. ホームページアクセス実績

月\年度	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
4月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979
5月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848
6月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055
7月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531
8月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083
9月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989
10月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232
11月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960
12月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984
1月				919	1,913	3,781	6,052	7,068	11,210	11,551
2月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583
3月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405
合計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200
1日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	167.74	302.40	421.31

*2001年4・8・9月と2002年6月はマシントラブルのためカウントできなかった。

月\年度	2004年度	2005年度	2006年度	合計
4月	11,071	15,489	15,131	
5月	13,215	11,870	15,950	
6月	15,225	14,086	12,910	
7月	14,975	14,781	16,799	
8月	16,654	19,838	22,899	
9月	13,885	13,081	17,050	
10月	13,843	14,690	17,037	
11月	12,685	10,995	13,615	
12月	11,129	9,720	11,474	
1月	12,471	12,993	14,008	
2月	11,680	11,580	13,607	
3月	10,523	13,494	13,934	
合計	157,356	162,617	184,414	962,259
1日平均	431.11	445.53	505.24	

4. 調査研究関連資料

4.1. 研究成果

箱根火山—箱根火山および箱根地域の新しい形成発達史—

[研究の種類] 博物館総合研究

[研究期間] 平成 16～18 年度 (3 年計画の 3 年目)

[研究組織]

山下浩之 (研究代表者)・平田大二・新井田秀一・田口公則・笠間友博・石浜佐栄子 (以上 当館)・萬年一剛・棚田俊收・菊川城司・板寺一洋 (以上 神奈川県温泉地学研究所)・長井雅史 (日本大学文理学部自然科学研究所)・小林 淳 (株式会社ダイヤコンサルタント)・小田義也 (首都大学東京工学研究科土木工学) 川手新一 (武蔵高等学校)・谷口英嗣 (駒沢高等学校)・藤本光一郎 (東京学芸大学教育学部地学教室)

[研究内容・成果]

箱根火山および箱根周辺地域について、地球科学的資料および基礎データを収集し、箱根火山の形成モデルの見直しと、いくつかの新知見を見出した。

1. 箱根火山体の形成発達史：長井ほかを中心に、地質学的、岩石学的、地球化学的手法により箱根火山の形成発達史を見直した。箱根古期山体は 1 つの成層火山ではなく、複数の成層火山からなることを見出した。
2. 中央火口丘の形成史と神山噴火 (3000 年) 以降の噴火活動史：小林ほかを中心に、地質学的、火山灰層序学的手法により、東京軽石噴火以降の中央火口丘の噴火史を解明した。さらに、中世の噴火の証拠等を発見し、報告を行なった。
3. 新期カルデラの形成：萬年ほかを中心に、重力値およびボーリングコアの解析から、新期カルデラの位置の推定、山体の地下構造を明らかにした。
4. 新期火砕流 (特に東京軽石) についての新知見：笠間ほかを中心に、箱根火山新期カルデラ最大の噴火と考えられている東京軽石の降下堆積物および火砕流堆積物の構造および流向などをまとめ、報告を行なった。
5. 地震波で見た箱根火山の地下構造：小田ほかを中心に、地震波の解析による箱根火山の地下構造の推定を行なった。
6. ボーリングコアから見た箱根の基盤岩：山下ほかを中心に、箱根火山古期山体山腹で掘削された大深度ボーリングコアについて、岩石学的、地球化学的解析を行い、いくつかの報告を行なった。
7. 須雲川安山岩類および早川凝灰角礫岩類の岩石学的特徴：山下ほかを中心に、箱根の基盤岩と考えられている須雲川安山岩類および早川凝灰角礫岩類について、主に地球化学的視点から解析を行なった。
8. 基盤岩類の変質について：藤本ほかを中心に、箱根

火山古期山体山腹で掘削された大深度ボーリングコア資料の変質についてまとめた。現在は古期カルデラ内部のボーリングコア資料の解析も行なっている。

9. 早川凝灰角礫岩産の貝化石：田口ほかを中心に、早川凝灰角礫岩から産する貝化石についての記載を行い、当時 (4Ma) の化石相の解析を行なった。
10. 北部伊豆弧 (伊豆～丹沢域) の中部～下部地殻：山下ほかを中心に、火山噴出物中の深成岩レキについて、岩石学的、地球化学的解析を行い、箱根火山の地下 (中部～下部地殻) に丹沢深成岩類と類似する深成岩体の存在を見出した。

なお、本研究成果は、2007 年度発行予定の神奈川県立博物館調査研究報告書 (自然科学) 15 号、および 2008 年夏の特別展示で公開する予定である。

上記の研究テーマとは別に、現在の箱根火山の地球科学的現象についての概論のまとめを行なった。また、採集した資料、データについて、データベースを作成中である。

- a. 箱根火山岩石データベース：採集した岩石の、位置情報、露頭写真、偏光顕微鏡写真、および全岩化学分析値のデータベース。
- b. 箱根起源火山灰データベース：採集した火山灰の、位置情報、露頭写真、洗った火山灰の顕微鏡写真等をまとめたデータベース。
- c. 箱根衛星画像データベース：衛星画像について PC 処理を行なうことにより、様々な高度や角度から見た箱根火山のコンピューターグラフィックをデータベースにした。
- d. 箱根地域観察会データベース：箱根地域で開催された講座や観察会の資料を、一般公開できるようにデータベース化した。

神奈川県の維管束植物相の特徴と変遷に関する研究—植物分布の解析—

[研究の種類] 博物館基礎研究 (グループ研究)

[研究期間] 平成 13～18 年度 (6 年計画の 6 年目)

[研究組織] 田中徳久 (研究代表者)・木場英久・勝山輝男

[研究内容・成果]

神奈川県の植物相については、総合研究「神奈川県植物誌 2001」により、2001 年時点での状況は概ね明らかにされている。しかし、新たな帰化植物の侵入や、調査の進行に伴う新産植物の発見、分類学的な知見の進捗による再検討の必要性、開発などによるレッドデータ植物の消失など、さまざまな要因により、その植物相は変化を続ける。本研究では、総合研究「神奈川県植物誌 2001」に

より収集された膨大な標本データをもとにし、神奈川県産の維管束植物の分布特性や植物地理学的な位置づけ、生態的特徴などを明らかにするとともに、その過程で収集された未同定標本の整理を進め、神奈川県産の維管束植物相の現状とその変遷を記録し続けることも本研究の重要な目的とする。なお、本研究は、総合研究「神奈川県植物誌2001」での共同研究者であった神奈川県植物誌調査会ほかの諸機関とも連携して研究を進めていることを付記しておく。

本研究では、平成13年度にグループ研究として開始して依頼、主に以下のような成果を上げてきた。

(1) 標本データを用いた地域メッシュによる植物地理区分

『神奈川県植物誌2001』のための111個の調査メッシュにより、神奈川県全域の植物地理区分を行った。その結果、神奈川県全域は、丹沢・箱根の両山地と、それ以外の丘陵・低地に区分され、細かくは、両山地の高海拔地、低海拔地、小仏・多摩地区、三浦半島などにさらに区分され、川崎市川崎区、横浜市中区、城ヶ島、江ノ島、開成町、芦ノ湖なども特殊な植物相を有することが明らかになった。

(2) 箱根地域の植物の分布解析

箱根地域の標本の集積状況を解析し、集中的に調査が行なわれた地域などを明らかにした。また、箱根地域を外輪山内、外輪山外北東側、南東側などに区分し、それぞれに分布する植物について解析した。

(3) レッドデータ植物の分布解析

神奈川県産のレッドデータ植物について、神奈川県における稀少性から重み付けし、レッドデータ植物が集中して分布する地域を抽出し、評価した。

(4) 新産帰化植物の報告

日本新産帰化植物ではズングリオヒシバ、ノレンガヤ、ヒツノコシカニツリ、サヤシロスゲ、クキナシマツヨイグサを報告した。また、神奈川県新産のものでは、セイヨウチャヒキ、マドリッドチャヒキ、ハダカエンバク、ムラサキナギナタガヤ、コケイラクサ、ダツタンソバ、キクバアリタソウ、シバツメクサ、ツキミマンテマ、ハリゲナタネ、ニセカラクサケマン、フウセンツメクサ、イチゲフウロ、アフリカフウチョウソウ、ルリハッカなどが採集された。

(5) 新産在来植物の報告

神奈川県新産では、オオアゼテンツキ、ハチジョウシュラン、コバノミツバツツジが記録され、絶滅とされていたタキミシダ、ヒメコスカグサ、ヤマサギソウ、ヒメフタバラン、サワトウガラシが再発見された。

今後はこれらの成果を生かしつつ、その過程で課題となった点などについて再検討し、さらに解析を続けて行く予定である。また、『神奈川県植物誌2001』の次の植物誌についても、諸課題を整理しつつ、準備をすすめていく。

交雑による種の融合—コブヤハズカミキリ属を例にして(2)—

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 平成16～18年度(3年計画の3年目)

[研究担当者] 高桑正敏

[研究内容・成果]

<目的>

本属の4種は形態的に明瞭に区別され、フォッサマグナ地域において異所・側所的に分布するが、そこではしばしば交雑個体群が認められる。こうした交雑個体群は最近になって生じた可能性が強く、種分化の方向性にあったものたちが種融合の方向へと転化した面がうかがえる。本研究では、交雑個体群の存在と動向を正確に把握すること、ならびに交雑個体群とその周辺の種個体群の形質を分類学的(かつ分子系統解析)によって比較検討することで、種融合の事実と方向性を明らかにし、また種融合を生ずるに至った要因を考察する。

<方法>

交雑個体群の存在と動向把握はアマチュア研究者である小林敏男・中林博之両氏との共同研究として行う。平成18年度は主に、八ヶ岳富士見高原におけるフジコブヤハズカミキリとタニグチコブヤハズカミキリの分布接点や長野県各地の各種状況を調査した。調査には成虫誘引トラップを用いた。

<調査結果:八ヶ岳富士見高原におけるケースのみ>

2004年の日本鞘翅学会第17回大会において、フォッサマグナ帯に位置する八ヶ岳西側の長野県富士見高原においてフジコブヤハズとタニグチコブヤハズの2種のコブヤハズカミキリ類が分布域を接し、その接点では雑種個体群が認められることを明らかにするとともに、フジコブヤハズがタニグチコブヤハズ分布圏に進出している状況を示した。つまり、この地域においては、フジコブヤハズが分布域を拡大(南～東下)しつつあること、その拡大はタニグチコブヤハズを遺伝的に取り込みながらであること、比較的短い年数で後種の形態的特徴が発現せずに消失してしまうであろうという仮説を提唱した。

そこで、フジコブヤハズがタニグチコブヤハズを取り込みながら南～東下したとすれば、その状況証拠は現存する個体群の形質に反映されているにちがいないと考え、現在の接点とフジコブヤハズ分布圏(接点から西～北北西方向に約400m～1km間隔に4ヶ所)でサンプリングした。得られた個体について鞘翅の斑紋部・翅端部・斑紋後方の形質を解析したところ、現在の接点から西～北方向へ離れるにつれてタニグチコブヤハズ的な形質が認められなくなっていくことがわかった。つまり、かつての接点が現在よりも西～北方向に位置していた可能性がある。とくに現在の接点にもっとも近いB地点は、近い過去に接点であったと考えた方が妥当であろう。

<成果報告>

上記の成果については、日本鞘翅学会2006年大会において、高桑正敏・小林敏男・中林博之の連名で「コブヤハズカミキリ類2種の交雑帯周辺における形質吸収の軌跡」(口頭)の発表を行った。

早川下流域における両生・爬虫類の調査

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究期間〕 平成 16 ～ 18 年度（3 年計画の 3 年目）

〔研究担当者〕 新井一政

〔研究内容・成果〕

この調査は、道路完成間近の平成 16 年度から開通後の平成 18 年度までの 3 年間にわたって、早川下流域にどのような両生類と爬虫類が生息しているのかを記録したものである。なお、調査地域（早川下流域）は箱根町山崎地区から河口（小田原市早川）までとした。

両生類は、アズマヒキガエル（ヒキガエル科）、ニホンアマガエル（アマガエル科）、タゴガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル（以上アカガエル科）、カジカガエル（アオガエル科）の 6 種類のカエルの生息が確認できた。

早川流域におけるカジカガエルは、入生田地区が分布の最下流域に当たる。また、宮沢川や吾生沢川等の支流域には、タゴガエルが多く生息する。

ニホンイモリについては、「昔（昭和 20 年代）は入生田の田んぼで普通に見られた」という聞き込みもあったが、現在ではイモリの生息は確認できなかった。

爬虫類は、ニホンヤモリ（ヤモリ科）、ニホントカゲ（トカゲ科）、ニホンカナヘビ（カナヘビ科）、ジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシ（以上ナミヘビ科）、ミシシippアカミミガメ（ヌマガメ科）の 7 種類の生息が確認できた。その内の 1 種、ミシシippアカミミガメはアメリカからの移入種である。

ニホンヤモリは、夜行性のため目撃記録数は決して多くは無いが、初夏から秋頃にかけてジュース類の自動販売機の明かりに集まる昆虫を捕食しに集まる姿を見かけることができる。

今回の調査結果を、博物館が現在地に移転してきた平成 7 年～8 年の記録と比較してみると、生息が確認できた両生類の種数には変化はなかったが、爬虫類では、シマヘビ（ナミヘビ科）とニホンマムシ（クサリヘビ科）の 2 種の生息が確認できなかった。過去にシマヘビがたびたび目撃された、博物館西側の畑地とそこに隣接する草はらは、現在、個人住宅とアパートがになっており、また、平成 8 年 9 月に 2 回、ニホンマムシが目撃された風祭地域の早川左岸の荒地は、小田原箱根道路に姿を変えている。

この調査結果から、『10 年間に 2 種の爬虫類が早川下流域から姿を消した』と結論付けるのは早計であろう。今後も観察を続けてより正確な生息状況を把握し、博物館周辺の生物相を知る一助にしたい。

調査方法の開発に着目した博物館周辺の哺乳類生息調査

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究期間〕 平成 16 ～ 18 年度（3 年計画の 3 年目）

〔研究担当者〕 広谷浩子

〔研究内容・成果〕

<はじめに>

霊長類や有蹄類を除く哺乳類の多くは、夜行性のため、調査そのものがむずかしい。痕跡をたどったり、通り道にカメラをセットして撮影したりするチャンスを待つ調査だけではなく、より精度の高い調査がのぞまれる。また、多くの哺乳類が共存する環境では、種間関係がどのようになっているか、興味深いがこれまで日本国内ではこのような視点からの研究が少ない。本研究では、博物館周辺をフィールドに、新しい哺乳類調査の方法の開発・試行と哺乳類の種間関係の把握をめざした。また、調査地内に広がる移入種の生息状況についても調査した。

方法 調査の主対象は、食肉類（タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ハクビシン）とげっ歯類のうちのリス科（ムササビ、タイワンリス）である。調査地は博物館周辺の小田原市入生田・風祭地区と箱根町山崎・湯本地区であった。調査には、哺乳類ボランティアの支援を受け、定期的に情報を収集した。調査地内の哺乳類の生息情報を聞き取りや痕跡採取などによってまとめ、調査地域内の哺乳類分布図をつくった。

<結果>

博物館の周辺の環境は、国道 1 号線と早川を境界にして、大きく異なる。北地域は、果樹園・人工林が多く、ふもとは住宅地と畑地が広がっている。南地域は、落葉樹林と人工林がモザイク状に分布し、早川河岸は急傾斜のため、人手がほとんど入っていない。この 2 地域で、調査対象を 1 種ずつ（北はムササビ、南はアナグマ）にしぼって、詳しい調査をおこなった。

北地域では、神社や丘陵部の高木の下で、ムササビの糞や食痕を確認した。日中にニホンザルの群れと遭遇し、木から追い落とされることも何回あった。しかし、声や滑空する姿が頻繁に認められるわけではないので、生息密度はあまり高くはないと考えられる。南地域に生息するアナグマは早川の河岸の斜面を主に利用しており、碎石場跡の湿地のような場所では、足跡や糞などが多数確認された。

両種に共通していたのは、果樹園や畑地などが彼らの生活の場になることはなく、それぞれ局限された場所のみを利用しているということである。これに対して、より広域的に生息し、痕跡も多数認められたのは、イノシシである。南北どちらの地域でも、イノシシはこの 10 年で爆発的に個体数を増加させている。また、近年にはニホンジカの分布拡大もめざましい。このような大型哺乳類の急速な増加が 2 種をはじめとする他の哺乳類に与える影響について、より詳しく調べる必要がある。

<まとめ>

博物館周辺の哺乳類のうち、食肉類とムササビ、さらにニホンザルの生息状況を把握することができた。この地

域では、イノシシとニホンジカの侵入と急速な増加が在来の哺乳類の生態に大きな影響を与えていることが予想された。調査対象にしてこなかった小型哺乳類についても、同様の観点からの調査を行う必要がある。最後に、新しい調査方法については十分な検討を行うことができなかったが、収集データの定量化を中心に次の段階の研究に継続していきたい。

小笠原諸島および琉球列島における沿岸性魚類の生物地理学的研究：ミクロネシア・フィリピン・台湾沿岸域との比較から

[研究の種類] 博物館基礎研究（個別研究）

[研究期間] 平成 16 ～ 18 年度（3 年計画の 3 年目）

[研究担当者] 瀬能 宏

[研究内容・成果]

本研究ではこれまでに黒潮流域 12 地点間の魚類相の比較を行い、地点間の類似性や非類似性、またそれらを生み出す要因となる黒潮の生物地理学的機能（分散や障壁）を明らかにしてきた。また、黒潮源流部にあたるミクロネシアの魚類相との比較を通じて、小笠原諸島の位置づけ（南日本の太平洋岸との類似性が高い）や琉球列島の沿岸魚類相の特殊性（隔離機構）についても議論を深めてきた。これまでの成果は論文（例えば Senou *et al.*, 2006: Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastline under the influence of the Kuroshio Current）や学会（2004 年度、2005 年度日本魚類学会年会など）を通じて公表してきたが、基礎となる地点ごとの魚類目録については八丈島や伊江島など、一部の地域を除いて未公表であった。そこで今回は未公表地のひとつである琉球列島宮古諸島における沿岸魚類の目録化を行った。目録は、神奈川県立生命の星・地球博物館に所蔵されている標本（99 点）と、同館の魚類写真資料データベースに登録されている画像 4,149 点（大部分が水中写真）を基に作成した。また、18 世紀以降の文献による記録も必要に応じて追加した。その結果、同諸島の魚類は少なくとも 17 目 82 科 863 種に達することが判明した。科別の種数ではハゼ科の 146 種を筆頭に、ベラ科（97 種）、スズメダイ科（83 種）、テンジクダイ科（45 種）、ハタ科（34 種）、チョウチョウウオ科（33 種）、イソギンポ科（32 種）、ブダイ科（26 種）、ニザダイ科（25 種）、ヨウジウオ科（19 種）と続き、上位 10 科で全体の 62.6% を占めていた。これらの中には未記載種、日本未記録種、あるいは既知種であるが、分類学的に再検討を要する種が少なくとも 24 種含まれていた。これらの多くは水中写真だけの記録であったり、標本数が少ないなどの問題があり、今後さらなる調査研究が必要である。本研究により、同島の沿岸魚類相はほぼ解明されたと考えられる。

ダンベイキサゴとキサゴの対捕食戦略の比較

[研究の種類] 博物館基礎研究（個別研究）

[研究期間] 平成 16 ～ 18 年度（3 年計画の 3 年目）

[研究担当者] 佐藤武宏

[研究内容・成果]

軟体動物にとって破壊性捕食者の存在は、多様化の大きな要因となると考えられ、これまでもさまざまな研究がなされてきている。しかし、それらの多くは、捕食に対して有利と思われる性質を持ったグループの消長を大づかみにとらえたものや、逆に特定の種内での変異に関するものが多く、同所に生息する近縁種についての考察は、ほとんど行なわれていなかった。

本研究では、藤沢市の鵠沼海岸～辻堂西海岸地先に生息する、ニシキウズガイ科の巻貝、キサゴ (*Umbonium costatum*) とダンベイキサゴ (*Umbonium giganteum*) に注目し、対捕食戦略の要素と考えられる、繁殖戦略、捕食成功率、成長速度、殻の物理的強度の比較をおこなった。また、この結果と、千葉県木更津市盤洲干潟に生息する、イボキサゴ (*Umbonium moniliferum*) の結果との比較をおこなった。

調査の結果、ダンベイキサゴは、多産多死型の繁殖戦略を持ち、捕食成功率はほぼ致命的、世代時間は短く成長速度は速く、殻の物理的強度は低い、という特徴を持つことが明らかになった。一方、キサゴは、ダンベイキサゴに比べるとそれほど多産多死型とはいえない繁殖戦略を持ち、捕食成功率は低く、殻の物理的強度は高い、という特徴を持つことが明らかになった。また、先行研究によって世代時間はやや長く成長速度は遅い (Noda, 1991; Noda *et al.*, 1995) ことが明らかになっていた。以上をまとめると、ダンベイキサゴは弱い殻を持ち、攻撃は致命傷になるという弱点を、早く成長してたくさん子供を産むという方法で補っているのに対し、キサゴは殻の強度を高め、攻撃に対して防御することによって、生息密度が低くゆっくり成長するという弱点を補っている、といえる。

よって、同所に生息する近縁な 2 種間においても、対捕食戦略がまったく異なるという例がある、という事実を確認することができた。

さらに、イボキサゴに対して予察的な調査をおこなったところ、イボキサゴは、繁殖戦略、捕食成功率に関してダンベイキサゴに類似していることが確認され、世代時間と成長速度に関してはダンベイキサゴとキサゴの中間である可能性が示唆された。

本研究で、ダンベイキサゴとイボキサゴが似たような対捕食戦略を持つものに対して、キサゴは異なる対捕食戦略を持つことが示された。この結果は、形態によって考えられてきたキサゴとイボキサゴが近縁であるという関係 (e. g. Makiyama, 1924; 小澤・岡本, 1993) や、分子生物学的に考えられてきたダンベイキサゴとキサゴが近縁という関係 (小澤・岡本, 1993) とは、異なる結果であった。このような戦略の類似性の起源を明らかにするためには、化石種や、3 種の共通の祖先種にさかのぼって検討する必要があるだろう。

神奈川県植物群落データベース—基礎データベースの整備—

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 平成13～18年度(6年計画の6年目)

[研究担当者] 田中徳久

神奈川県内の植物群落については、これまでに数多くの報告があり、その植物社会学的な位置づけなどについては、かなり明らかになっていると言える。しかし、レッドデータ植物を含む植分や、それ自体が稀少な植物群落であるものなど、その現状を把握する必要がある植物群落も多い上、帰化植物の侵入、繁茂により、その種組成が大きく変化しつつある植物群落も存在する。本研究は、神奈川県内で記録された植物群落をデータベース化するとともに、現地調査により、植生調査資料を収集し、既発表資料との比較・検討を行い、その現状を把握し、その変遷を明らかにすることを目的にしたものである。

平成13～15年度には、データベース項目の検討や基本データの整備を進め、平成16～18年度には、作成した基礎データベースを拡充し、分布情報を解析するための枠組みを作成した。なお、これらに並行し、野外における植物社会学的な植生調査資料の収集は、平行して進めている。

これまで、神奈川県内の植物群落に関する報文45編をデータベース化し、それに掲載されている1,677個の植生単位を単一化し、798個の植生単位について、基礎データベースとして整備した。その結果、一部は自明のことでもあるが、以下のような傾向が明らかになった。

(1) 報文数の移り変わり

年度ごとの報文の公表数を年度ごとに比較すると、近年は少ない傾向にあり、地域植生誌的な研究が成果になりにくい学界の状況や、昨今の不景気状況が、調査の委託関係に影響していることが想像された。

(2) 報文ごとの掲載植生単位数

報文ごとの掲載植生単位数は、対象とする地域の面積にも左右されるが、対象面積が狭くとも、掲載植生単位数が多い報文もあり、その調査の目的の違いなどにおける、植生単位の捉え方などの影響が大きいことが明らかになった。

(3) 各植生単位の報告数

植生単位によって、神奈川県内からの報告数には大きなばらつきがある。もちろん、広範に分布する植生単位は多く、稀少なものは少ないが、相互の種組成の比較を行っていない現在の状況では、植生単位の認識の度合いが大きな影響を与えている。すなわち、古くから認識され、各報文でも安定して使用されている植生単位名は多く、近年記載された植生単位やその位置づけが未確定なものは少ない傾向にある。

今後はこれらの成果を踏まえ、その課題を解決するためにさらに検討を進め、構築された基礎データベースを基礎に、群落名・組成表レベルからスタンドレベル、報文レベルから調査地レベルの詳細データベースを構築し、解析を進める予定である。

微小生息地と生活史の解明に基づく真菌類の分類学的研究—入生田及び周辺地域の植物寄生菌(担子菌門サビキン綱)のフローラ—

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 平成16～18年度(3年計画の3年目)

[研究担当者] 出川洋介

担子菌門サビキン綱は、全世界に、約7,000種が知られる大きな分類群である。ときに農産業上の重篤な病害を引き起こす維管束植物の病原菌として知られるが、多くは、自然界では寄生者として、植物の個体群調節機能あるいは、多様性生成要因を担う重要な菌類である。サビキン綱には、複雑な生活史を持つ種が多く、異なる2種の植物を宿主として、その間を行き来したり(異種寄生性)、生活史上に最大5つの異なる胞子(それぞれ0-IVとして表記される)を形成するなど独特の特徴を持つ。日本では、本菌群の記載分類学的研究は特に進展しており、現在までに約1,000種が知られているが、神奈川県内でも、過去に三浦半島、箱根山地、丹沢山地などで調査報告例があり、約200種前後が知られている。

本調査では、2006年10月より2007年3月に至る期間、当博物館および、その近隣(小田原市入生田、風祭、早川、箱根町山崎)で野外調査を実施した。調査地の山林、人家周辺において、目視でサビキン状のコロニーが多発している病斑を採集して持ち帰り、乾燥標本として保管した。これを水(資料が硬化している場合にはKOH水溶液、必要に応じて乳酸アニリンブルーで染色)で包埋し、検鏡、観察した。原則として、Hiratsuka *et al.* (1992)を参照し、宿主植物および胞子の形態学的特徴から、暫定的な同定を実施した。学名、分類体系は、Index of fungorum (CABI)に従った。

以上の結果、現在までに、サビキン綱サビキン目の8科16属62種が確認された(Coleosporiaceae 1gen. 6 spp., Melampsoraceae 2gen. 3 spp. (うち1種 *Melampsora* sp. は未同定), Phakopsoraceae 1gen. 6 spp., Phragmidaceae 2gen. 4 spp., Piloeolariaceae 1gen. 2 spp., Pucciniaceae 3gen. 27 spp., Pucciniastraceae 3gen. 12 spp., Uropyxidaceae 2gen. 2 spp.)。宿主植物は計74種に及び、うち11種は植栽であった。このうち4種は耕作地の果樹(イチジク、ウメ、モモ、スモモ)であったが被害は著しくは無かった。63種の野生植物を宿主とする菌のうち、フユイチゴのサビキン(*Gerwasia rubi*)、アズマヤマアザミのサビキン(*Puccinia nishidana*)は、吾性沢沿い、石垣山付近などの森林域にのみ認められたが、これ以外の菌は、人家、水田、耕作地周辺から、河川敷、森林内の林道際に広く発生が見られた。異種寄生性の種として、ムラサキケマン(0, I) —ノダフジ(II, III) 上の *Phakopsora kraunhiae* (≡ *Ochropsora kraunhiae*)、ヒメウズ(0, I) —ウメ・モモ(II, III) 上の *Sorataea pruni-persicae* は各世代が調査地内各地に広く確認された。他方、針葉樹上にさび胞子世代(0, I) を過ごす多くの種(シダ植物

上に夏・冬胞子世代を過ごす種など)のさび胞子は、現在までに調査地内では確認できなかった。ヘクソカズラ上には、2種(*Coleosporium paederiae*, *Endophyllum paederiae*)が認められ、両者が共存することもあったが、後者は、胞子の発芽誘導により担子器の形成を観察し、短世代型の生活史を確認して同定した。

東京都千代田区の皇居には122科427種の維管束植物が確認されているが(近田ほか、2000)、柿嶋ほか(2000)による調査により、サビキン綱の14属35種が報告されている。このうち24種は本調査地にも確認された。本調査地内の吾性沢には計107科461種の維管束植物が確認されており(高橋ほか、1997)、本調査地では未だ菌が確認されていないがサビキンの宿主となる植物も多数含まれている。引き続き、春～夏の調査を進め、本調査域のサビキン綱フロラを完成させていきたい。

スラブ融解の温度・圧力条件—角閃岩高温高压融解実験からのアプローチ

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 平成17～18年度(2年計画の2年目)

[研究担当者] 平田大二

大陸地殻を構成する代表的岩石である花崗岩類は、海洋プレートの沈み込み帯で形成される。沈み込む海洋プレートの年代やプレートの温度、沈み込む角度などにより、花崗岩質マグマの形成メカニズムが異なることがわかってきた。年代が若く、まだ熱い海洋プレートが浅い角度で沈み込んだ場合、スラブの上部を構成する海洋地殻が融解して花崗岩質マグマが形成されるとするスラブ融解説が有力視されている。しかし、その形成条件である温度圧力関係などがすべて解明されたわけではない。そこで本研究では、沈み込み帯における火成活動を想定した高温高压岩石融解実験の論文から温度、圧力、出発物質、融解物質の化学組成、融け残り岩石の鉱物組合せなどのデータを網羅的に収集して、スラブ融解における花崗岩質マグマ形成の温度圧力条件についてレビューし、議論することを目的とした。

角閃岩融解実験の結果については、Lambert and Wyllie (1972)、Burnham (1979)、Ellis and Thompson (1986)、Beard and Lofgren (1989, 1991)、Hacker (1990)、Rapp *et al.* (1991)、Rushmer (1991)、Winther and Newton (1991)、Wolf and Wyllie (1991, 1994)、Wyllie and Wolf (1993)、Sen and Dunn (1994)、Rapp and Watson (1995)、Nakajima and Arima (1998) などにより報告されている。その結果を概観すると、角閃岩の融解は、温度750～1,050℃、圧力0.3～2 Gpaの条件化で起こるとされている。しかし、実験に使用した出発物質の違いや、融解させるための水分の付加により、融解条件は異なる。また、融解してできた融解物質の組成も、SiO₂量において玄武岩質から流紋岩質までの組成の幅がある。従来の角閃岩高温高压融解実験では、岩石の融解開始領域である低温域(800℃)付近で

形成される微量の花崗岩質融解物の測定が技術的に困難であったため、融解開始の温度圧力条件や最初にできる融解物の化学組成の決定について、有効なデータを示すことができなかった。そこで、平田ほか(1998)では、ダイヤモンド法を用いて海洋性玄武岩起源の角閃岩の融解実験を行った。その結果、温度800℃～950℃、圧力1.0～2.5 Gpaの領域において花崗岩質融解物の形成を確認できた。液相・固相境界の温度—圧力ラインは、1.0 Gpaで850℃以上、1.5 Gpaで800℃以上、2.0 Gpaで750℃以上、2.5 Gpaでは800℃以上となる。以上の結果から、角閃岩の融解は圧力1.0～2.5 Gpa、温度800～850℃の環境下で生じることが確認できる。今後、出発物質と温度圧力関係、融解物質と残存固相物質との元素共存の相関関係など詳細に検討する必要がある。

箱根火山の火砕密度流～その堆積構造・運搬メカニズム～

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 平成17～19年度(3年計画の2年目)

[研究担当者] 笠間友博

<目的>

箱根火山起源の火砕密度流(火砕流から火砕サーージまで多様な密度バリエーションをもつ火砕物+火山ガスの流れの総称)には、約50万年と言われる長い歴史を反映して様々なものがある。中でも大規模な多摩C上部1テフラ(TCu-1: 約25万年前)や東京軽石(TP: 約6万年前)に伴う軽石流(軽石質の火砕流)は神奈川県の大半を覆うような分布を示し、発生間隔はきわめて長いものの、防災上その活動形態をつかむことは重要である。

本研究では東京軽石に伴う軽石流、特に不明な点の多いラミナが発達した成層堆積物に着目して研究を進めた。

<これまでの研究>

東京軽石に伴う軽石流堆積物は典型的な塊状堆積物に加え、古くからラミナが発達した成層堆積物がある事が知られていた。これについては軽石流堆積物が風雨の作用で再移動した2次堆積物という解釈も存在し、研究は塊状堆積物ほど進展していない。

<結果と考察>

研究の開始直後、伊勢原市において保存状態の良い東京軽石に伴う軽石流堆積物の露頭が出現し、ラミナが発達した成層堆積物の詳細な層序が明らかとなった。この層序は横浜市泉区で自ら以前に確認していたものと全く同じで、これらの情報を元に県内各所の成層堆積物の層序組み立てをすることができた。広域にわたる共通層序が存在することは、この堆積物が局所的な風雨などの影響で再堆積した2次堆積物ではなく、火山活動によって生じた事を示唆する。

成層堆積物の各構成層を調べた結果、最下部には降下軽石層、降下火山灰層からなるユニット群があり、その上に流れ(火砕密度流)堆積物からなるユニット群が存在し、一部にはスコリアからなるユニットを含む事がわかつ

た。成層堆積物は常に塊状堆積物の上位に存在することから、塊状堆積物をもたらした軽石流から発生した火砕サーージ堆積物という見解もあったが、間に時間間隙を示す降下堆積物のユニット群がある事、複数の火砕密度流ユニット群から構成される事から、この見解は否定される。また、軽石流が外来水（海、川、湖水）と接触する事で生じた2次爆発堆積物の可能性もあるが、マグマ水蒸気爆発の最適条件から推定される水の量は0.1立方キロのオーダーで、河川水ではまかなえない。海か大きな湖（水深10mとして、1km×10kmの広さ）を考える必要があるが、海側からの流れは認められず、大きな湖の存在も認められていない。結論として成層堆積物は、軽石流そのものの堆積物である事、成層構造が発達することから、その軽石流は比較的希薄な火砕密度流であった事が考えられ、丹沢山地の東側に伊勢原付近を扇頂とする扇状の分布をしていることから、丹沢山地の地形的影響を受けて希薄化した軽石流からの堆積物である可能性がある。

<成果の公表>

日本地質学会 2004 年大会ポスター発表、神奈川県立博物館研究報告 34 号、35 号、神奈川自然誌資料 28（当館山下浩之学芸員との共著を含む）。

神奈川県におけるクロバネキノコバエ科の種多様性に関する研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 平成 18 年度（1 年計画の 1 年目）

〔研究担当者〕 須島充昭

昆虫綱ハエ目クロバネキノコバエ科は、幼虫期には土壌あるいは朽ち木中に生息して腐った植物質を摂食し、成虫期には森林性の昆虫として活動する。多くの種が都市域にも進出しており、植木鉢や花壇が発生源となることも多い。また、数種の農業害虫が知られている。本科は現在日本では 19 属 75 種が知られており、須島（2006）は神奈川県における本科の採集記録をまとめ、以下の 4 属 10 種を報告した。*Bradysia japonica* (Enderlein, 1911); *Ctenosciara hyalipennis* (Meigen, 1804); *C. japonica* Sutou & Ito, 2003; *Sciara helvola* Winnertz, 1867; *S. hemerobioides* (Scopoli, 1763)（ホンクロバネキノコバエ）; *S. kitakamiensis* Sutou, 2004; *S. multispinulosa* Mohrig & Kozánek, 1992; *S. pectilinealis* Sutou, 2004; *S. thoracica* Matsumura, 1916（セアカキノコバエ）; *Scythropochroa radialis* Lengersdorf, 1926（ナミホソミクロバネキノコバエ）。なお、本科にはまだ和名のつけられていない種が多い。

平成 18 年度は、本科の中でもこれまで神奈川県からは記録のなかった *Trichosia*, *Leptosciarella* の 2 属（互いに近縁）の分類学的研究を進めた。Menzel & Mohrig (2000) によれば、前者は世界で 31 種、後者は世界で 38 種が知られている。はじめにこれら 2 属の診断形質（diagnosis）を再検討した後、須島がこれまでに収集した標本、及び神奈川県立生命の星・地球博物館から借用中

の標本を詳しく調べた結果、神奈川県内から以下の 7 種を記録した（カッコ内は産地）。*T. hypertricha* Menzel & Mohrig, 1997（横須賀）; *T. sp. 1*（横浜、箱根）; *T. sp. 2*（丹沢大山、神奈川県博収蔵標本）; *T. sp. 3*（丹沢）; *T. sp. 4*（横浜）; *L. pilosa* (Staeger, 1840)（横浜）; *L. sp. 1*（横浜）。以上のうち、*sp.* とした種は未記載種である。なお、現在これら 2 属の日本産種の分類学的研究を、須島充昭、Frank Menzel (Deutsches Entomologisches Institut, Germany)、Kai Heller (Heikendorf, Germany) の 3 名による共同研究として論文にまとめており、平成 19 年度もこの作業を継続する。その結果として上記の未記載種には種名が与えられる予定である。

<参考文献>

須島充昭（2006）神奈川県産クロバネキノコバエ科—既知種のリストと新産地—。神奈川虫報 154: 27-28.

本州中部地域におけるセスジアカムカデの分類学的研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 平成 18 年度（1 年計画の 1 年目）

〔研究担当者〕 佐久間 将

セスジアカムカデ *Scolopocryptops rubiginosus* L. Koch, 1878（オオムカデ目：メナシムカデ科）は、北海道から沖縄にかけて見られる、日本においてもっとも普通なムカデ類の一種であり、国外では台湾、中国および北米にも産する分布の大変広い種である。日本のものは、その形態から *S. rubiginosus rubiginosus* (L. Koch, 1878) および *S. rubiginosus kasimensis* (Miyosi, 1957) の二亜種に分類されるが、ムカデ類を含む多足類は、一般的に拡散能力が低く、種内の地域集団化や遺伝的な分化が生じている可能性が考えられる。しかしながら、日本のムカデ類相は、これまでに多くの種が分類、記載されているものの、分子系統学的手法を導入した研究は少ないのが現状である。そこで本研究では、神奈川県を含む本州中部地域に生息する本種集団において、その形態および遺伝的構造から、集団の分化と集団内の多様性の程度を明らかにし、本種を分類学的に再検討することを目的とする。

長野県、山梨県、神奈川県、静岡県の各地で採集を行い、採集した個体は、エタノール液漬標本とした。長野県・静岡県では解析に十分な数の標本が得られたが、それ以外の地域における標本は不十分である。現在までに得られた標本を観察したところ、それぞれの地域の個体間では明瞭な形態学的差異が認められなかったが、長野産個体と静岡県産個体の間では、体色と体長にわずかな差異が認められた。また、得られた標本から DNA を抽出した。

今後は、十分な標本が得られていない地域で重点的に採集を行う必要がある。また、必要に応じて、神奈川県立生命の星・地球博物館を含む各地の博物館等に収蔵されている標本を調査する。十分な標本が得られ次第、より厳密な形態学的解析とともに、各標本から得られた 16 SrRNA 遺伝子の系統学的解析を行い、形態・分子両データから本種の分類を総合的に検討する。

細胞性粘菌 *Polysphondylium pallidum* 群の分類学的解析
[研究の種類] 外来研究員による研究
[研究期間] 平成 18 年度 (1 年計画の 1 年目)
[研究担当者] 川上新一

2006 年度までに、丹沢山地から以下の種類を単離した。
Dictyostelium brefeldianum

子実体の大きさが 6 mm 以下で、柄の先端が球頭状である。丹沢新産。イデン沢の 4 サンプルおよびユージンロッジ周辺の 1 サンプルから単離された。また、*D. brefeldianum* に似る株が、ユージンロッジ周辺の 2 サンプルから単離された。それらは、子実体の柄先端部が球頭状でなく、別種の可能性がある。

D. crassicaule

子実体の大きさが 2 mm 以下で、柄の先端が複数の細胞からなる球頭状である。イデン沢からの 1 サンプルから単離された。丹沢新産。神奈川県では、2002 年に神武寺の土壌サンプルから単離されている。

D. delicatum

子実体の大きさが 6 mm 以下で、柄の先端が棍棒状であるが、幾分尖る。イデン沢からの 1 サンプルから単離された。この種は、国立科学博物館の萩原博光博士により、1970 年 10 月に丹沢山地の落葉広葉樹林で採取された土壌から単離されている。この際に単離された株の標本がホロタイプに指定されている。

D. firmibasis

子実体の大きさが 10 mm 以下かそれ以上になり、胞子は縦に長い。イデン沢からの 1 サンプルから単離された。この種は、前出の萩原博士により、1970 年 10 月に丹沢山地で採取された腐朽したキノコの子実体から単離されている。この際に単離された株の標本がホロタイプに指定されている。

D. minutum

子実体の大きさが 2 mm 以下で、柄の先端が棍棒状で尖らない。ユージンロッジ周辺の 1 サンプルから単離された。この種は、前出の萩原博士により、1970 年 10 月に丹沢山地で採取された腐朽したキノコの子実体から単離されている。

D. purpureum

子実体が紫色を呈する。イデン沢の 1 サンプルおよびユージンロッジ周辺の 2 サンプルから単離された。この種は、前出の萩原博士により、1970 年 10 月に丹沢山地で採取されたニホンシカの糞から単離されている。

Polysphondylium album

子実体は輪生枝を有し、白色を呈している。輪生枝の分枝数が平均 4 本以上と比較的多い。ユージンロッジ周辺の 2 サンプルから単離された。丹沢新産。この種類は、1901 年に E. W. Olive によって新種記載された種類であるが、最近まで日本ではその存在が認識されていなかった。

P. pallidum

子実体は輪生枝を有し、白色を呈している。輪生枝の分枝数が平均 3 本前後と比較的少ない。ユージンロッジ周辺の 2 サンプルから単離された。丹沢新産。また別に、

ユージンロッジ周辺の 2 サンプルから単離された株は、*P. pallidum* に似るが、子実体がよくこの点から、別種の可能性がある。

P. violaceum

子実体は輪生枝を有し、紫色を呈している。イデン沢の 3 サンプルおよびユージンロッジ周辺の 1 サンプルから単離された。この種は、前出の萩原博士により、1970 年 10 月に丹沢山地の落葉広葉樹林で採取された土壌および鳥の糞から単離されている。

神奈川県下の完新世動物の形態変異に関する研究一特にニホンイノシシとニホンザルを中心にー

[研究の種類] 外来研究員による研究

[研究期間] 平成 18 年度 (1 年計画の 1 年目)

[研究担当者] 姉崎智子

<研究目的>

本研究では、神奈川県下における完新世の哺乳類の形態変異、特にニホンイノシシとニホンザルの時空間的な形態変異について、他県産のものと比較・検討し、特徴を明らかにすることを目的としている。本研究は 3 カ年計画であり、平成 18 年度は実施 2 年目となる。

<研究成果>

ニホンザルについては、考古資料と現生資料で身体サイズの変異に差異があることが確認された。現生資料については 581 体の計測が終了しており、そのうち神奈川県産のものは 10 体である。第 4 乳臼歯の萌出が完了した個体が 1 体、第 1 大臼歯の萌出が完了した個体が 4 体、第 3 大臼歯の萌出が完了した個体が 2 体、第 3 大臼歯の萌出が途中の個体が 1 体、第 3 大臼歯の萌出が完了した個体が 3 体含まれる。歯周病が 3 体で確認された。

イノシシについては、神奈川 (41 体)、三重、兵庫、広島、岡山、山口、長崎、宮崎に加え、宮城、福島、静岡、岐阜、滋賀、和歌山、大分、熊本、宮崎、鹿児島、奄美大島、沖縄本島、石垣島、西表島より得られた頭骨標本の計測・分析を実施した (総個体数 = 883 体)。イノシシの大きさについて、第 3 小臼歯、第 4 小臼歯、第 1 大臼歯、第 2 大臼歯の頬幅径 6 項目に基づき LSI 法 (計測点数 = 3,185) を用いて他地域個体群と比較した結果、神奈川県産のイノシシは群馬、福島よりも有意に大きく、静岡の変異幅にはいることが示された。また、歯周病が 4 体で確認された。いずれも第 3 大臼歯の萌出が途中 (3 体)、あるいは完了した (1 体) 個体であるが、推定年齢は 3 歳以下と比較的若い。飼育個体に高い頻度で見られる下顎低の凸形状も 7 体でみられた。日本列島全体でみると、本州と九州を比較すると九州のイノシシのほうが全体的に小さい傾向を示すことが確認された。しかしながら、群馬、福島のイノシシが本州集団の中では小さい傾向を示し、大分と鹿児島のイノシシの範囲と若干重なる傾向もみとめられた。これについては、資料の来歴も含めて再検討する必要がある。本州集団の中では静岡、和歌山、広島のイノシシが極めて大きい傾向を示し、とくに和歌山集団には飼育個体群に特徴的な形態が多くみられることが明らかとなった。

4.2. 研究成果 (外部資金助成・共同研究等)

子どもが主体的に学び、科学を好きになるための教育システムの開発に関する実証的な研究

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A)

[課題番号] 17200046

[研究期間] 平成 17～20 年度 (4 年計画の 2 年目)

[研究組織]

五島政一 (研究代表者; 国立教育政策研究所)・下野 洋 (星槎大学)・嶋貝太郎 (国立教育政策研究所)・田代直幸 (国立教育政策研究所)・立田慶裕 (国立教育政策研究所)・市川智史 (滋賀大学)・小林辰至 (上越教育大学)・熊野善介 (静岡大学)・品川 明 (学習院女子大学)・小川義和 (国立科学博物館)・平田大二・田口公則

[研究内容・成果]

本研究課題の趣旨に基づき、自然科学が好きな子どもを増やすカリキュラムや教材・教具の開発及び教師教育システムの開発に資することを目的として、博物館学芸員と神奈川県西部 (足柄地域) の小・中学校教員の連携による「あしがら NST 研究会」を組織した。教員研修プログラムの開発・実施、酒匂川流域の自然素材を理科教材としてどのように活かせるか、アースシステムの視点から開発しようと試みるものである。

平成 18 年度は野外での研修を主にし、平成 19 年度以降に実践化を図るための調査・研究、小・中学校教員を対象として、地域の自然の教材化を目指し、教材・教具の開発、地域素材の教材化を目指し、地域の自然を理解する野外研修プログラムを計画・実施、地域教材を取り入れた授業計画と実践を行い、研修プログラムの効果を評価し、改善することを目標として、教員研修会を実施した。5 月 28 日 (日) 講演会「今、理科教育を見直す」(生命の星・地球博物館)、6 月 25 日 (日) 野外実習「酒匂川の石と化石の観察」(山北町用沢)、7 月 30 日 (日) 実習「化石の模型づくり」(生命の星・地球博物館)、8 月 5 日 (土) 実習「天体望遠鏡の組み立てと月・星の観察」(南足柄市岡本公民館)、8 月 20 日 (土) 野外実習「火山灰の洗い出し」(南足柄市)・講話「地域教材を取り入れた授業計画」(南足柄市岡本公民館)、10 月 28 日 (土) 自然観察に関する講話とプラネタリウム見学 (平塚市博物館)。これらの研修会を通して得た内容の授業実践の報告と授業評価、研究のまとめを行った。

自然を理解するための人と博物館のネットワークの構築

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B)

[課題番号] 15300266

[研究期間] 平成 15～18 年度 (4 年計画の 4 年目)

[研究組織]

平田大二 (研究代表者)・新井田秀一・山下浩之・田口公則・笠間友博・小出良幸 (札幌学院大)

[研究内容・成果]

1. 地域の地球科学に関するデータベースの拡充

地域の自然 (地球科学分野) に関する情報収集と調査研究を進め、博物館情報として発信するために、神奈川県および周辺地域を対象とした地球科学分野のデータベース「神奈川の地球誌」を構築を進めた。H18 年度は、地球科学文献 DB、丹沢山地の地形・地質 DB、航空写真 DB、神奈川の川 DB、火山灰 DB の補完と、愛媛県西予市城川地質館と周辺地域を対象とした地形地質 DB の構築を行った。それぞれ、順次公開の予定である。

2. インターネットを活用した人と博物館のネットワークの構築

1) 遠隔地の博物館同士、あるいは博物館と利用者とは相互交流できるインターネットを活用した双方向型ネットワーク・システムの構築し、実践と評価を行う。博物館と利用者とは相互交流できる双方向型ネットワークの構築を行うため、ネットワーク・システムの見直しを進め、その成果について、2006 年地球惑星関連合同大会、日本地質学会にて発表した。

2) 小・中学校の教育活動との連携、博物館ボランティアや友の会との連携など、児童生徒から社会人、研究者まで多様な階層を交えたネットワークの構築し、交流活動の実践と評価を行う。小学校や中学校における授業や課外活動での連携、博物館活動におけるボランティアや友の会との連携などの活動を展開し、児童生徒から社会人、研究者まで多様な階層を交えたネットワークの構築を試みた。

3. 自然史リテラシーに基づく新たな学習プログラムの実践と評価

自然を総合的、能動的にとらえ、自然に接する能力や態度をもつことができるような自然史リテラシー育成に取り組む。自然史リテラシー育成への取り組みや、地域の自然の特徴を生かした学習プログラムの開発とその実践について、地域の小中学校との連携も含めて試験的に行なった。

歯の微小摩耗痕および安定同位体と微量元素に基づいた束柱類の食性復元

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B)

[課題番号] 17340156

[研究期間] 平成 17～20 年度 (4 年計画の 2 年目)

[研究組織] 甲能直樹 (国立科学博物館)・樽 創

[研究内容・成果]

本研究の目的は、前期漸新世後期～註記中新世後期にかけて北太平洋沿岸域だけに分布したテチス獣類の束柱類、とくにデスモスチルスとパレオパラドキシアの頭蓋および下顎骨と多数の歯を材料に用いて、従来の咀嚼における顎運動の機能形態学的復元に加えて、(1) 歯の表面に残された微小摩耗痕に基づいて、擦痕と窩痕を定量的・定性的に判別するとともに、食性がわかっている現生哺乳類

の歯の微小摩耗痕との間で多変量解析による比較を行なう。加えて、(2) 歯のエナメル質の炭酸塩鉱物から炭素と酸素それぞれの安定同位体を抽出して、それぞれの元素の安定同位体比から索餌内容と索餌の場を推定し、さらに(3) 食物連鎖の中での栄養段階(トロフィックレベル)の指標となるストロンチウムなどの微量元素量を検索することで、これまでのところまったくの謎となっている東柱類の食性、ひいては東柱類の生活史に関して最終的な解答を与えることを目的とする。

魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)

[課題番号] 16380140

[研究期間] 平成16～18年度(3年計画の3年目)

[研究組織]

松浦啓一(研究代表者;国立科学博物館)・篠原現人(国立科学博物館)・矢部 衛(北海道大学)・遠藤広光(高知大学)・瀬能 宏・大塚泰介(滋賀県立琵琶湖博物館)・高橋鉄美(京都大学)

[研究内容・成果]

近年のコンピュータ技術の向上により、大量のデータベースを短時間で処理できるようになった。すなわち、種の同定に有効な形質のデータベースを構築し、それを使用して種を同定するシステムを作成することが可能になったと言える。本研究では、産業上重要な種を多く含む日本産スズギ亜目魚類68科260属850種を例に、コンピュータを用いて種同定をダイレクトに行うシステムを構築することを目的とする。この同定ツールはインターネット上に公開し、多くの研究者や水産関係者など一般の人々が利用できるようにする。

アジア地域におけるオナガザル上科の進化に関する古生物学的研究

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)

[課題番号] 16405018

[研究期間] 平成16～19年度(4年計画の3年目)

[研究組織]

高井正成(研究代表者;京都大学霊長類研究所)・本郷一美(京都大学霊長類研究所)・毛利俊雄(京都大学霊長類研究所)・江木直子(京都大学)・鏑本武久(京都大学霊長類研究所)・樽 創・E.Maschenko(ロシア科学アカデミー)

[研究内容・成果]

本研究の目的は、現在アジア大陸に分布している霊長類のうち、オナガザル上科のサルがどの様にアジア大陸に分布するに至ったかを、古生物学的な証拠(化石記録)を元に復元しようとするものである。現在アジア大陸に生息するオナガザル上科は、オナガザル科(マカク類)とコロブス科の二つのグループに分けられる。現在までに知られてい

る化石記録によると、この両グループの起源はアフリカ大陸にあり、後期中新世にアフリカ大陸からユーラシア大陸に進入してきたと考えられている。

しかしその後ヨーロッパから西アジアにかけて繁栄した両グループが、どのように東部アジア大陸に移動していったかに関しては、まだ具体的な仮説も提案されていない状況である。本研究では後期中新世以降にアジアにおけるオナガザル上科の化石を再検討し、現生種との系統的な関連を明らかにすることにより、鮮新世から更新世にかけてアジア地域におけるオナガザル上科がどのように進化し分布を広げていったかを明らかにしようとするものである。

動物遺残体科学を構築するための自然史博物館協力機構の基盤形成

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)

[課題番号] 18637001

[研究期間] 平成18年度(1年計画の1年目)

[研究組織]

遠藤秀紀(京都大学霊長類研究所;研究代表者)・川田伸一郎・西海 功(以上 国立科学博物館)・山崎京美(いわき短期大学)・樽 創

[研究内容・成果]

分子生物学全盛の今日、実験系生物学者の大半がもつ動物遺体・遺残体に対する認識は、遺伝子資源のサンプリング対象以上のもでなくなっている。かつての博物学時代に、自然界を記録する情報源として、遺体全身が極力好適な研究環境下で普遍的に長期収蔵されていたことと対照的に、近代生物学にとって、動物の遺体・遺残体とは、遺伝子情報抽出のために占有的に利用されたあとは、合理的に廃棄するものと認識されてしまっている。それは、体制の単純な動物から鳥類・哺乳類といった高等動物に至るまで、例外なく見られる憂慮すべき事態である。本研究課題は、動物遺残体の全世界的なシステム構築を目指す準備段階として、企画調査を起案するものである。既存体系でいえば、伝統的には肉眼形態学、形態分類学、動物考古学などの領域が、遺体・遺残体研究を展開してきたが、その継承性科学哲学を巨大化・国際化し、さらに、分野を超えた動物遺体・遺残体利用研究システムを実現するための基礎調査ということになる。

日本産コイ(コイ目コイ科)のルーツ解明と保全へのシナリオ

[助成金の種類]

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)

[課題番号] 80202141

[研究期間] 平成18～20年度(3カ年計画の1年目)

[研究組織] 瀬能 宏(研究代表者)

[研究内容・成果]

日本産のコイ(コイ目コイ科)には、ミトコンドリアDNAの解析から在来系統の野生型と、ユーラシア大陸産コイと

の関連が示唆される飼育型の二型が知られている。しかしながら、飼育型の放流により、交雑や感染症などの問題が生じており、このまま放置すれば、日本在来のコイの系統が著しく変容するか、失われてしまうこともあり得る。本研究の目的は、1) 比較形態学・分子生物学の面から日本産コイの野生型および飼育型のルーツを解明する、2) 安定同位対や水中での行動観察の比較から野生型と飼育型の生態学的相違を把握する、3) 交雑の進行程度を核DNAの分析から明らかにし、保全すべき系統を確定する、4) 上記情報に立脚し、日本在来の“コイ”の適切な保全のためのシナリオを提示することにある。

本年度は放流が盛んに行われている日本の自然水域にはどのようなコイの系統が生息しているのかを明らかにする目的で、宮城県から高知県にかけての11地点(伊豆沼、松島町、北浦、霞ヶ浦、長良川、三方湖、琵琶湖、吉井川、児島湖、小田川、四万十川)から得られた132個体について、ミトコンドリアDNAの調節領域の塩基配列を調べ、大陸産の個体のデータとともに系統解析を行った。その結果、24個のハプロタイプが得られ、AからFまでの6系統に分類された。このうち、A系統は17ハプロタイプから構成され、きわめて多様性が高いと同時に大陸産のハプロタイプから区別されるため、これが在来系統とみなされた。一方、BからFまでの5系統は遺伝的多様性がきわめて低く、いずれも単一もしくは2つのハプロタイプから構成されていた。また、それぞれが大陸産のハプロタイプに類似していたことから、すべて大陸由来の移入系統であると考えられた。なお、ハプロタイプの出現頻度は、在来系統のAが9地点から出現し、琵琶湖や岡山県の3水域に多く見られた。これ以外では、どの地点でもほぼB、C、Eの3つに限られ、地域によって高頻度のハプロタイプは異なっていた。移殖放流が特に盛んな霞ヶ浦では4つの移入系統が出現した。5つの移入系統を明治期以降の記録と照合すると、中国、台湾、ドイツ、オーストリア、インドネシアの系統もしくは品種に相当することが判明した。

開発で失われた地質情報の収集・公開・教材化

〔助成金の種類〕

日本学術振興会研究費補助金 基盤研究(C)

〔課題番号〕18500694

〔研究期間〕平成18～21年度(4年計画の1年目)

〔研究組織〕

笠間友博(研究代表者)・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子

〔研究内容・成果〕

本研究は神奈川県内の多摩丘陵を中心とした開発地域にかつて存在した、或いは工事中に出現した地層、テフラに関する写真情報を収集・分析してウェブ上で公開し、地域の教材として役立ててもらうことを目的とする。高度経済成長時代当時の様子を知る人も高齢化し、収集活動は今行わないと永久に困難になる可能性があると考えている。平成17年度の実績は以下のとおりである。

データベースとなる写真情報の収集・デジタル化

1989年～1996年にかけて神奈川県内の平塚市、藤沢市、横浜市などで行われた開発工事の際に出現した地層やテフラ関係の銀塩カラー写真を455枚の中から重複する情報を除いて、テフラ写真243枚、露頭写真69枚をデータベース用にデジタル化処理をした。

現在行われている工事現場からの情報収集

神奈川県小田原市、箱根町、藤沢市などの工事現場、遺跡発掘現場において地質情報(地層・テフラのデジタル写真305枚)の収集を行った。これらから得られた重要な情報については博物館研究報告(笠間・山下,2007)、神奈川自然誌資料(笠間・山下,2007)にまとめた。

データベース公開用ホームページの作成準備

データベース公開を行うウェブページのデザイン作成を行った。今年度はインデックスマップ(神奈川県内の市町村別)の作成、写真に載せる情報及びその枠組み作成を行った。

小中学生の「科学の目」育成のための博物館による草の根地学教育の実証的研究

〔助成金の種類〕

日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(B)

〔課題番号〕18700639

〔研究期間〕平成18～20年度(3年計画の1年目)

〔研究組織〕石浜佐栄子(研究代表者)

〔研究内容・成果〕

実物資料に実際に触れることができ、学芸員という専門の研究者を抱えている博物館は、子どもたちの「学ぶ力」「考える力」「生きる力」を育むのに理想的な場であるといえる。しかし実際の博物館を見渡してみると、博物館を最も有効に活用して学ぶことができるはずの小学校高学年～中学生の利用率は低いと言わざるを得ない。地域の小学校高学年～中学生が休日に積極的に参加できるような草の根科学教育を実施し、科学教育の裾野を広げることが重要である。本研究は、博物館の利点を生かした草の根地学教育のケーススタディを実践するとともに、研究を進める中で得られた手法や成果を学校等に向けて広く発信することにより、博物館による科学教育の更なる可能性を実証することを目的としている。

科学的な物の見方や考え方を身につけさせ、物理、化学、生物分野も包括した総合的な「科学の目」を養うことを目標として、初年度である平成18年度は次のようなケーススタディを実施した。地層や現世干潟の簡易的な剥ぎ取りやボーリング等を行い、室内でじっくり観察できる地層の実物資料の収集と、子どもたちへの資料の演示を行った。体験を通して「科学の目」を養うため、ペットボトルやカラーサンドを使った堆積実験や、パンニング皿等を使った比重差による鉱物分離実験を、講座やイベント等の場を利用して、子どもたち一人一人に体験させた。また、大型の堆積実験用水路(長さ3.6メートル、幅10センチメートル)を

設計および製作して、砂粒が「動く」「たまる」といった現象を目の前で再現し、その物理現象をじっくり理解させるプログラムを、学校教育現場とも連携を取りつつ実施した。

博物館で人類学を学ぶ—博物館の特性をいかした子ども向け学習プログラムの作成と実践に関する研究—

[助成金の種類] 笹川科学研究助成

[課題番号] 18-280 G

[研究期間] 平成 18 年度 (1 年計画の 1 年目)

[研究組織] 広谷浩子

[研究内容・成果]

人類の進化を学ぶことは、学校のカリキュラムの中では扱いにくい面が多く、系統だてて学習されることが少ない。博物館では、学芸員の専門的知識と豊富な標本資料を活用することにより、人類進化をテーマとした学習プログラムをつくるのが可能である。本研究では、博物館において人類進化についての学習プログラムを扱う。研究の目的は以下の 2 点である。

1. 人類進化についての子ども向け学習プログラムを作成する。
2. 学習プログラムを博物館内外で実践し、その効果を評価する。

具体的には、3 つの研究を行なった。

- (1) 過去 8 年にわたって実施してきた講座のテキストと学習記録をふりかえり、問題点を整理した。教育プログラムを「ヒトはサル仲間」「ヒトの誕生」「現代人への道」の 3 部構成に整理し、学習ポイントをまとめて解説を加えたテキスト「サルからヒトへ—動物としての人間を知る旅—」を作成した。
- (2) 小・中学校の理科・社会のカリキュラムの中で、人類進化がどのようにとりあげられているか、調査した。本研究で作成する新プログラムの導入が可能な分野や課程はどこかを知るため、現場教師へのインタビューをおこなった。
- (3) 博物館主催の講座(連続講座)の実施、新しい教材を使った模擬授業の実施、テキスト(本と電子版)作成の 3 ステップによって、新しい教育プログラムの作成をめざした。

教育プログラムの作成と実施を通して、人類進化というテーマを学校と博物館のそれぞれで学習していくことの困難点と利点をまとめ、次段階の研究への指針とすることにした。

超背弧地域における玄武岩質マグマの成因解明：第 4 のマグマ生成場として

[助成金の種類]

平成 18 年度東京大学地震研究所長裁量経費

[研究期間] 平成 19 年 1 月～平成 19 年 3 月

[研究組織]

折橋裕二(東京大学地震研究所;研究代表者)・中井俊一・本多 了・三部賢治・飯高 隆(以上 東京大学地震研究

所)・元木昭寿(ブラジル連邦共和国リオデジャネイロ州立大)・T. Jslowizki(ブラジル連邦共和国リオグランデスル連邦大学)・G. Berttoto(アルゼンチン共和国・パンパ大学)・M. Haller・C.Meister(以上 アルゼンチン共和国バタゴニア国立大学)・平田大二

[研究内容・成果]

南米大陸南部のアンデス山脈の西側に広がるパタゴニア地方には、新生代に活動した火山が分布し、その活動によりもたらされた火山岩類が大量に分布している。本研究では、これらの火山の地質調査と火山岩類の採集を行い、岩石類の化学組成分析と年代測定により、年代の若いスラブの沈み込みに伴う火成活動の変遷と成因を検証することを目的としている。現地調査は第 1 および第 2 ステージにわけ、2007 年 1 月から 3 月にかけて実施した。第 1 ステージは 1 月から 2 月中旬にかけて、アルゼンチン共和国パタゴニア地方北部のメンドーサ地域ネパド火山およびその周辺地域の調査を行った。第 2 ステージは 2 月下旬から 3 月中旬にかけて、パタゴニア地方中部のソムンクラ台地南部地域からカンケル台地の 2 地域について実施した。第 1 ステージは折橋、平田、元木、G. Berttoto、T. Jslowizki の計 5 名、第 2 ステージは折橋、元木、T. Jslowizki、M. Haller、C. Meister の計 5 名でそれぞれ行った。採取した岩石試料は計 214 試料(595kg)。なお、採取した岩石試料は平成 19 年 5 月下旬頃に日本に到着予定であり、岩石薄片による鏡下観察後、岩石試料を選定し、化学分析および年代測定を開始する。

箱根火山のカルデラ構造の解明

[助成金の種類] 東京大学地震研究所特定共同研究

[課題番号] 2005 B-01

[研究期間] 平成 18～20 年度(3 年計画の 1 年目)

[研究組織] 萬年一剛(神奈川県温泉地学研究所;研究代表者)・山下浩之

[研究内容・成果]

箱根火山はプレート衝突境界に位置する、火山体が大断層によって分断されているなど特異なテクトニックセッティングにあるカルデラ火山である。本分担研究では箱根カルデラの地下構造について解析を進めるとともに、他の研究者との議論を通じ、箱根カルデラを中心にカルデラ火山のテクトニクス、火山学的意義をより深く理解することを目的とする。18 年度は特に、ラビリタフと湖成堆積物のセットからなるカルデラフィル堆積物の解析から、箱根カルデラの構造を地質学的に明らかにした。

現生哺乳類の雌雄差形質と化石哺乳類への応用

[助成金の種類]

京都大学霊長類研究所平成 18(2006)年度共同利用

[課題番号] 計画 3-7

[研究期間] 平成 18 年度(1 年計画の 1 年目)

[研究組織] 樽 創

[研究内容・成果]

頭骨における雌雄差が顕著な種（マントヒヒ）とそうではない種（ニホンザル）について、雌雄差が比較的明瞭に現れる側頭筋に関連する形態と推定される機能を比較した。形態的な比較は、側頭窩の頬骨弓内を円に近似すると仮定し、その面積を比較した。化石資料では骨格が不完全な場合が多く、頬骨弓は破損しやすいことから側頭上窩の面積を比較した。機能では、筋力は筋の断面積に比例することから、先に求めた2つ面積を筋の断面と仮定し、切歯部と第1大臼歯にかかる力を推定し、比較した。その結果、頬骨弓内の面積はマントヒヒでは大きな雌雄差が、ニホンザルでは小さな雌雄差が得られ、マントヒヒとニホンザルの雌では、同程度だった。筋力の推定ではマントヒヒ、

ニホンザルとも雄から大きな値が得られたが、マントヒヒでは雌雄差が大きく、ニホンザルでは小さく一部が重なる。そしてマントヒヒとニホンザルの雌が生み出す力は、同程度の可能性が示唆された。この点について種、大きさが異なるなかで、雌同士の値が近いことは興味深い。また側頭上窩の面積から推定した力は、頬骨弓内のほぼ倍の値が得られたが、力の強さの関係は頬骨弓内で求めた関係と近いものであった。本研究は予察的なものであったため計測ポイント、これまでの研究の調査、比較方法など多くの点でまだ不十分な部分が残されている。

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

〔土地概要〕

	本館	連絡橋EV棟
所在地	小田原市入生田499番地	
敷地面積	22,460.90㎡	153.60㎡
地目	宅地	宅地
用途	無指定（一部住居地域）	住居地域
建ぺい率	70%（住居 60%）	60%
容積率	400%（住居200%）	200%
現況	国道一号線と早川とはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	

〔建物概要〕

	本館	連絡橋EV棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下1階地上4階建て	地上2階建て
建築面積	8,218.11㎡	30.97㎡
延床面積	19,020.14㎡ (地下駐車場 4,800.14㎡含む)	43.86㎡
最高高さ	23.25m	

〔各階別面積〕

	面積	主要室
地下1階	5,852.14㎡	駐車場・機械室等
1階	7,427.00㎡	エントランスホール・ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2階	2,166.00㎡	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3階	3,017.00㎡	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4階	506.00㎡	機械室等
塔屋	52.00㎡	
合計	19,020.14㎡	

〔用途別面積〕（本館）

エントランススペース	984.00㎡
展示スペース	5,075.00㎡
学習スペース	867.00㎡
収蔵スペース	1,433.00㎡
研究スペース	804.00㎡
管理・その他	5,057.00㎡
地下駐車場	4,800.14㎡
合計	19,020.14㎡

〔建物仕上げ〕 外部（本館）

外部仕上げ	
屋根	（勾配屋根）カラーステンレス （陸屋根）アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ

〔建物仕上げ〕 内部（本館・主な箇所のみ）

エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	PB下地ガラスクロスEP
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付けCL及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレートOP

〔設計・施工〕（本館）

設計	
建築	（株）国設計
設備	（株）国設計
展示	（株）丹青社
造成	中野設計工務（株）
施工監理	
建築	（株）国設計
設備	（株）国設計
展示	（株）日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務（株）
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降機	（株）日立製作所
展示	（株）丹青社
造成	（株）杉山組・（株）若林組・箱根建設（株）・（株）加藤組 （株）吉沢組・日本鋼管工事（株）・（株）秋山組
外構	土谷建設（株）・（株）菊原建設
植栽	（株）加藤造園・（株）深谷造園・栄造園土木・緑栄造園 土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成4年10月10日～平成6年12月20日
展示工事	平成4年10月10日～平成7年 3月 1日

〔設計・施工〕（連絡橋EV棟）

設計・施工	中野設計工務株式会社
建築	内田建設（株）
電気	（株）昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター（株）

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

[電気設備]

受配電設備	受電電圧 3相3線式 6.6kV 50Hz 変圧器容量 2,375kVA (乾式モールド形) 進相コンデンサー 327kvar 高圧母線 5系統 低圧幹線 98系統
自家発電設備	原動機 ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm) 発電機 ブラシなし交流発電機 300kVA P.F.0.8 (1,500rpm) 起動方式 直流電動機起動式
蓄電池設備	種類 シール形ボケット式アルカリ電池 公称電圧 103.2V (86セル) 容量 350Ah (5時間率) 用途 受配電機器操作・非常灯用
電話設備	交換機 デジタル交換機 局線容量 72回線 (50回線実装) 内線容量 240回線 (150回線実装)
電気時計設備	親時計 水晶発振式 (出力2回線) 子時計 アナログ式 29台 デジタル式 5台 ソーラー時計 1台
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示1式
その他	身障者警報呼出表示装置・避雷針設備・インターホン設備・テレビ共聴設備

[空調設備]

空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式 中央式 各階ゾーンユニット方式+2管式 FCユニット併用方式 パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT 3台
空調機等	ユニット型空調機 16台 ファンコイルユニット 53台 ビルマルチエアコン 37台 パッケージエアコン 7組
換気設備	第1種及び第3種 給気ファン 7台 排気ファン 44台
自動制御設備	中央監視装置 1式

[衛生設備]

受水槽	75 t
雨水槽	300 t
中水槽	28 t
中水処理装置	5t/h 1台 1台 (上水用)
加圧給水ポンプユニット	540 ℓ/min 1組 (中水用)
加圧給水ポンプユニット	1,470 ℓ/min 1組
汚水ポンプ	300 ℓ/min 2台
雑排水ポンプ	300 ℓ/min 2台
雨水ポンプ	1,000 ℓ/min 6台
雨水ポンプ	200 ℓ/min 2台
湧水ポンプ	200 ℓ/min 2台
ガス設備	地下1階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温水機、レストラン、ともしびショップ等へ供給

[昇降機設備]

1号機	乗用 (展望用車椅子仕様) B1F, 1F, 2F, 3F 停止 13人乗り 45 m/min (電動式)
2号機	乗用 (車椅子仕様) B1F, 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
3号機	乗用 (車椅子仕様) 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
4号機	荷物用 1F, 2F, 3F 停止 3,000 kg 30 m/min (油圧式)
連絡橋	乗用 (車椅子仕様) 1F, 2F 停止 11人乗り 45 m/min (油圧式)
エスカレーター	(1200型・車椅子兼用) 1F~3F 30 m/min (電動式)

[防災設備]

自動火災報知設備	受信機 P型1級 70回線 防災連動制御盤 40回線 熱感知器・煙感知器 1式
消火設備	屋内消火栓 40箇所 屋内消火ポンプユニット 140 ℓ/min 1台 屋外消火栓 6箇所 屋外消火ポンプユニット 700 ℓ/min 1台 泡消火設備 (地下1階駐車場) 薬剂量 600 ℓ 泡ヘッド 696個 泡消化ポンプユニット 1,120 ℓ/min 1台 移動式粉末消火器 (駐車場他) 9台 連結散水設備 (地下1階部分) ヘッド数 12個 誘導灯設備 (避難口・通路・階段) 166台 ガス漏れ警報器 検知器12個 受信機1台
非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵)	電力増幅器 360W 2台 電力増幅器 120W 2台 スピーカー 232個
排煙設備	排煙機 (廊下系統) 15,800m ³ /h 1台 排煙機 (一般系統) 38,000m ³ /h 1台
ITV設備	本館監視用 固定カメラ 8台 可動カメラ 8台 モニターテレビ 17型4台×2箇所 連絡橋EV監視用 固定カメラ 3台 モニターテレビ 14型3台×2箇所

[その他の設備]

自動扉設備	エントランスホール等の出入口に設置 8台
自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用)	東側前庭 8系統・3階テラス11系統
カスケード設備 (人工滝)	間口 24m 高さ3m 水量 2.5m ³ /min 照明付き

5.2.2. 研究設備

【大型標本製作室】

品名	型番（メーカー）	数量
ロックトリマー（岩石粉碎機）	(IWAMOTO)	1台
ジョークラッシャー（岩石粉碎機）	2002-EX（吉田製作所）	1台
大型岩石カッター（自動送り）	SC-14（ニチカ）	2台
中型岩石カッター	MC-442（マルトー）	1台
小型岩石カッター	MC-100（マルトー）	1台
旋盤	FS450A（TOYOAS）	1台
超音波洗浄器	B-62（Braunson）	1台
ふるい震とう器	NVS-200（C.M.T.）	1台
岩石研磨回転台	RP-5（マルトー）	2台
遊星ボッド型ボールミル	LA-P04（伊藤製作所）	1台
解剖台		1台

【冷凍乾燥室】

品名	型番（メーカー）	数量
大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
中型冷蔵庫	RS-5203（日立フリーザー）	1台
インキュベーター	PCI-301（AS ONE）	3台
凍結乾燥機	RLE II（KYOWAC）	1台

【標本製作室】

品名	型番（メーカー）	数量
マイクロカッター	MC-201（マルトー）	1台
自動メノウ乳鉢	（日本地科学社）	1台
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10（オリンパス）	1台
プレパラップ（岩石薄片作成装置）	MG-300（マルトー）	1台
プランボール（精密研磨台）	Planopol-V（Struers）	1台
ディスコプラン（岩石切断研磨装置）	Discoplan-TS（Struers）	1式
エポバック（岩石試料作成用真空装置）	Epovac（Struers）	1式
真空装置	G-50S（真空機工）	1式
自動染色装置	DRS-601（サクラ精機）	1台
ミクロトーム	HM340（カールツァイス）	1台
パラフィン伸展器	PS-52（サクラ精機）	1台
パラフィン溶融機	（アルプ）	1台
荷重計測器	EGS-50V-L（日本電産シンボ）	1式
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10（日本電産シンボ）	2台
卓上帯のこ台	（PROXXON）	1台
透過型ノマルスキー式微分干渉顕微鏡	BX50-33-DIC, BX51（オリンパス）	2台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZX12（オリンパス）	1台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A（ニコン）	1式
ツルグレン装置	B-1（伊藤電子工業）	1台
植物標本乾燥機	（入江製作所）	1台
植蒸器	（特許理化学業）	1台
ドラフト	（ダルトン）	2台

【化学分析室】

品名	型番（メーカー）	数量
精密天秤	RC210P（Sartorius）	1台
化学天秤	Laboratory LC4200S（Sartorius）	1台
免震台		2台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200（Advantec）	1台
ビードサンプラー	NT-2100（東京科学）	1式
ピストンシリンダー型高圧発生装置	A1型（トライエンゼリアリング）	1式
マッフル炉	STR-11K（ISUZU製作所）	1台
乾燥機（Dry Oven）	ANS-111S（ISUZU製作所）	1台
超音波洗浄器	UT53N（SHARP）	1台
エアコンプレッサー	PA800S（日立製作所）	1台
電気泳動装置	Bio-Rad他	1式
凍結乾燥機	VD-31他（TAITEC他）	1式
限外濾過器	XX80（MILLIPORE）	1台
HPLC装置	PU-980他（日本分光）	1式
吸光度計	MPR-4A（TOSOH）	1台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B（TAITEC）	1台
冷蔵庫	SMR-120YAG（SANYO）	1台
遠心分離機	CFS-300, CFA-12（IWAKI）	2台
マルチポイントスターラー	F-6A（TAITEC）	1台
ディープフリーザー	BFH-110（ESPEC）	1台
オートクレーブ	SS240（トミー精工）	1台
ポータブルクリーンベンチ	APC4型（iuchi）	1台
乾熱滅菌器	DS-450（iuchi）	1台
ドラフト	（ダルトン）	1台

【試料分析室】

品名	型番（メーカー）	数量
蛍光X線分析装置	XRF-1500（島津製作所）	1式
試料固結装置（Briquetting Machine）	MP-35（島津製作所）	1台
走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV（日本電子）	1式
金蒸着装置	JFC-1200（日本電子）	1台
臨界点乾燥装置	JCPD-5（日本電子）	1台
炭素蒸着装置	SC-701C（サンユー）	1台
一眼レフデジタルカメラ（ボディー）	D70（ニコン）	1台
デジタルプロジェクター	V-1100Z（ブラッス）	1台

【写真室】

品名	型番（メーカー）	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
軟X線非破壊検査装置	CMB-2（ソフテックス）	1台
中判カメラ	Mamiya RB67（マミヤ）	1式
カラー撮影用照明	HMI-575（broncolor）	2台
マクロ撮影装置	（オリンパス）	1式
一眼レフカメラ	F70, F90（ニコン）	2台
レンズ用デシケーター		2台
紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor（ニコン）	1台
デジタル一眼レフカメラ	D1X（ニコン）	1式
フィルム用冷蔵庫	MR-18-H（三菱電機）	1台
暗室用具		1式

【化石ラボ】

品名	型番（メーカー）	数量
コンプレッサー	（日立製作所）	1台
サンドブラスター	CH-4000（WULSUG）	1台
エアスクライバー（小型削岩機）	CP9361他（Chicago Pneumatic他）	4台
デンチテストドリル	（Sverital）	2台
実体顕微鏡（ユニバーサルスタンド付き）	SMZ-2B（ニコン）	2台
集塵機	VF-5（AMANO）	2台

【実習実験室】

品名	型番（メーカー）	数量
実習・研究用生物顕微鏡	CHT（オリンパス）	15台
偏光顕微鏡	LABOPHOTO 2-POL（ニコン）	7台
ビデオマイクロスコプ	VMS-70（SCALAR）	1台
実習用実体顕微鏡	SZ40（オリンパス）	24台
透過型落射光顕微鏡	BX60F（オリンパス）	2台
ツルグレン装置		1台
エアサンプラー	LV-100（横河電機）	1台
堆積実験水路装置	（ケークラフト）	1式

【収蔵庫】

品名	型番（メーカー）	数量
電気炉	MAXI200°C（石塚電気製作所）	1台
電気炉	MAXI500°C（石塚電気製作所）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-20（200V）（Yamabishi Electric）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-50（200V）（Yamabishi Electric）	1台
パワーコントローラー	（石塚電気製作所）	1式
パワーコントローラー	MODEL-SU（チノー）	1式
ロックトリマー（改）	A型（IWAMOTO）	1台
実体顕微鏡	SZH110（オリンパス）	1台
顕微鏡計測装置		1台
ハンディオスライサー	（復建調査設計）	1式

【学芸部】

品名	型番（メーカー）	数量
夜間暗視スコープ	M-994（Lition Electric Devices）	1式
テレメトリー受信機	RX900（TELEVIEW）	1台
テレメトリー受信機	FI-290MkII（ヤエス）	2台
実体顕微鏡	SZH110（オリンパス）	2台
実体顕微鏡	SMZ-10A（ニコン）	2台

【その他】

品名	型番（メーカー）	数量
水中撮影写真機材	（ニコン／アンデイス）	1式
骨格標本作成槽		1式
大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
携帯型GPS	FG-0210（エンベックス）	3台
大型体重計	TRU・TEST SR2000（フジヤ商会）	1式

5.3. 面積表

〔エントランススペース〕

室名	面積 (㎡)
エントランスホール	782
(救護室)	(15)
(幼児室)	(13)
(ミュージアムショップ)	(26)
(ともしびショップ)	(35)
(ロッカー室)	(17)
レストラン	202
小計	984

〔展示スペース〕

室名	面積 (㎡)
ミュージアムシアター	467
1階総合展示室	2,348
(化石ラボラトリー)	(32)
3階総合展示室	1,245
(CPUルーム)	(93)
ジャンボブック展示室	581
(ジャンボブック編集室)	(45)
特別展示室	434
(準備室1)	(74)
(準備室2)	(44)
小計	5,075

〔学習スペース〕

室名	面積 (㎡)
講義室	306
(講師控室)	(16)
実習実験室	139
ミュージアムライブラリー	302
書庫	120
小計	867

〔研究スペース〕

室名	面積 (㎡)
学芸員室	246
共同研究室	39
試料分析室	74
化学分析室	44
(化学天秤室)	(5)
クリーンルーム (1)	12
クリーンルーム (2)	8
標本製作室	73
燻蒸室	11
乾燥室	9
昆虫標本製作室	17
冷凍乾燥室	39
大型標本製作室	72
液浸標本製作室	13
液浸標本準備室	13
写真室	18
準備室	16
小計	804

〔収蔵スペース〕

室名	面積 (㎡)
収蔵庫1	1,260
収蔵庫2	77
液浸標本収蔵庫	96
小計	1,433

〔管理スペース〕

室名	面積 (㎡)
館長室	47
第1会議室	42
第2会議室	42
管理課事務室	91
企画情報部事務室	83
ボランティア・友の会事務局室	34
学習指導員室	49
司書室	39
電話交換室	13
更衣室	13
警備員室	29
(簡易宿泊室)	(14)
湯沸室	11
総合案内員室	24
中央監視室	29
機械室・電気室等	1,824
倉庫	119
トイレ	332
搬入ロスペース	70
その他(廊下・階段等)	2,166
小計	5,057

〔地下駐車場〕

室名	面積 (㎡)
地下駐車場	4,800.14
(清掃作業室)	(32)
(トイレ)	(59)
(機械室)	(34)
小計	4,800.14

カッコ内の数字は内数

本館延床面積	19,020.14 (㎡)
連絡橋EV棟	43.86 (㎡)
総延床面積	19,064.00 (㎡)

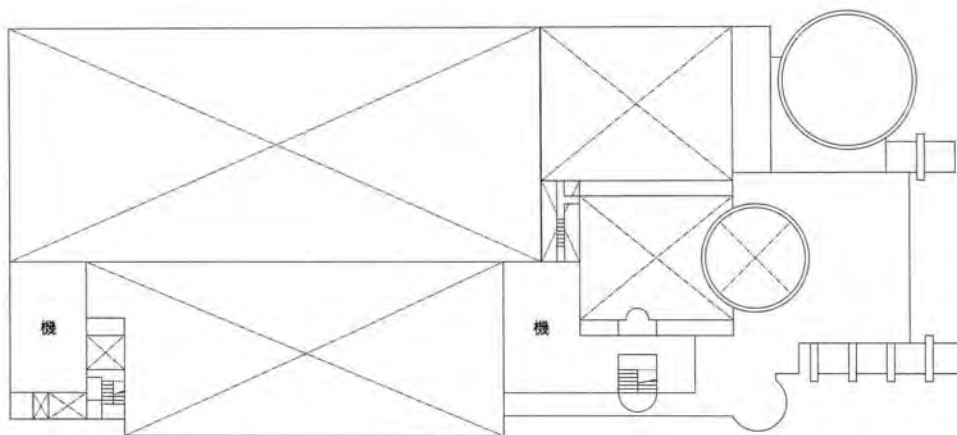
5.4. 平面図



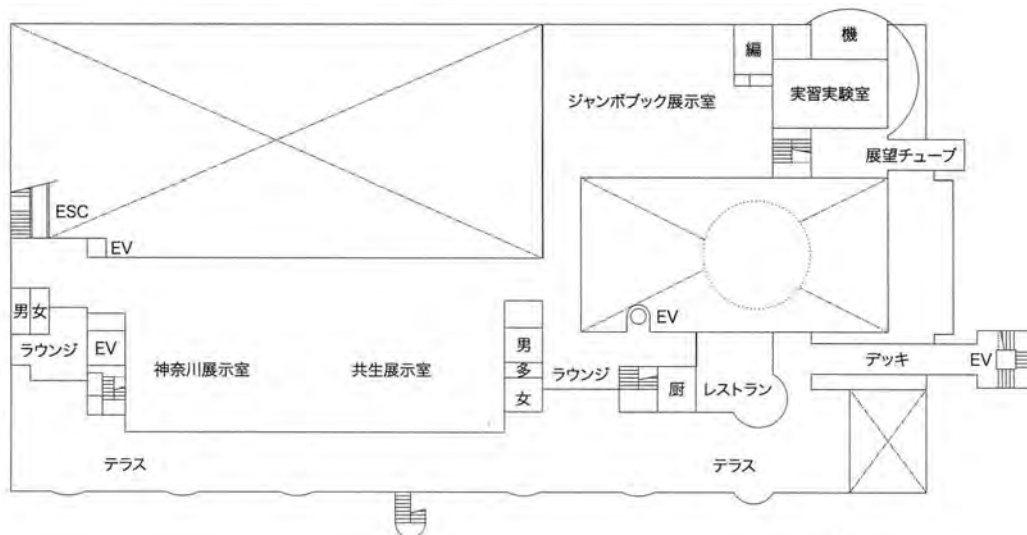
1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)



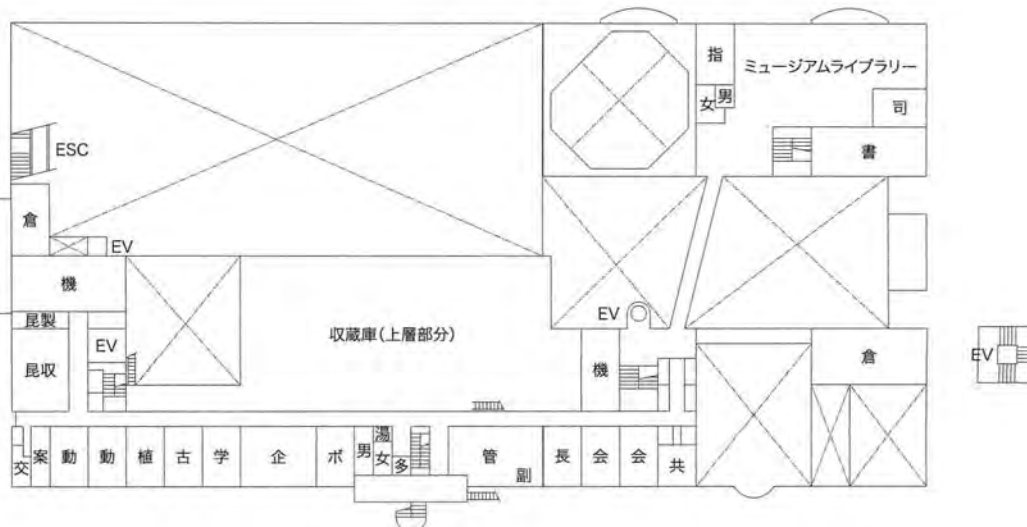
4F



3F



2F

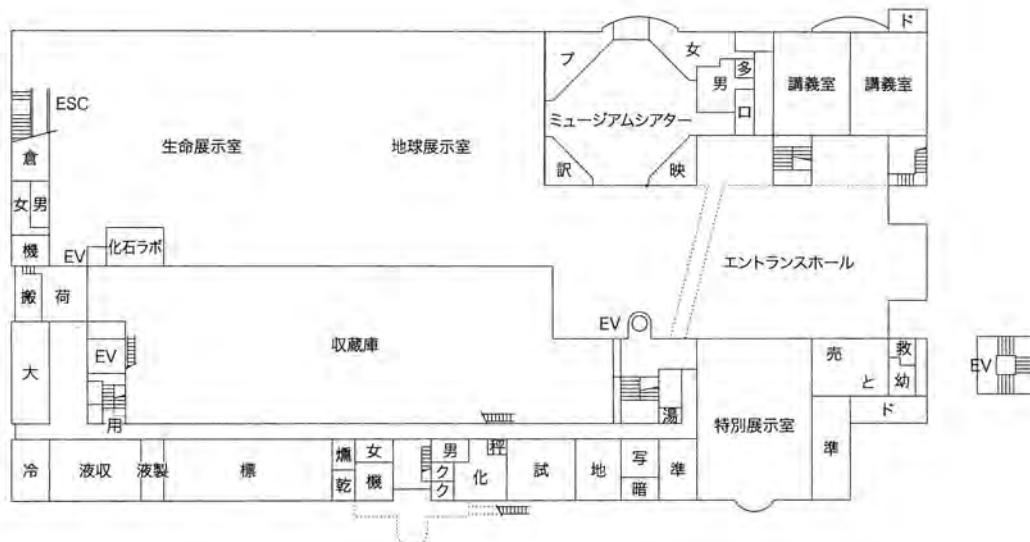


61,000 (mm)

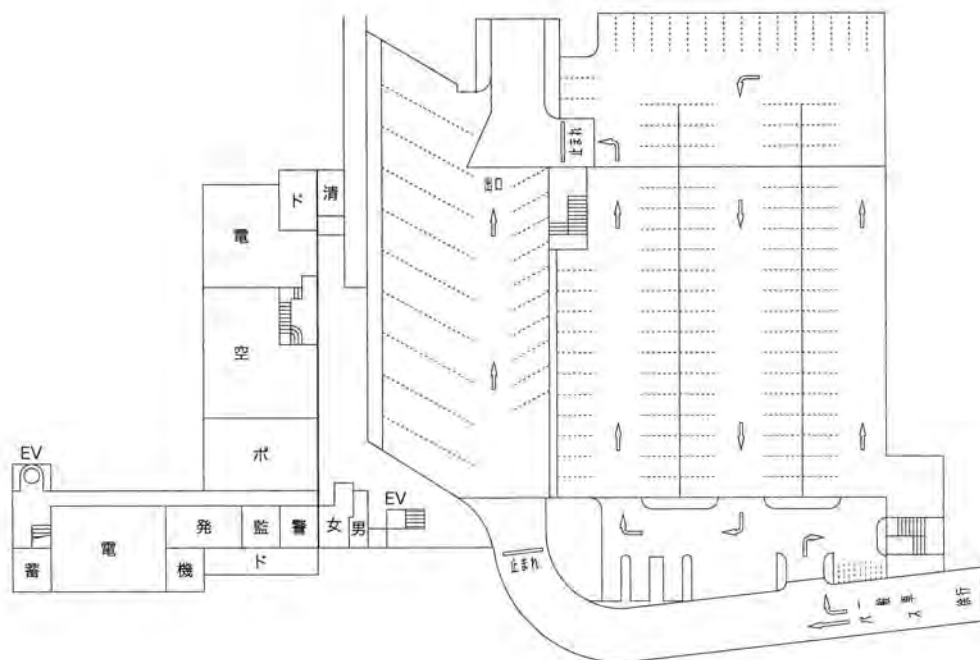


1:1,000 (図中の1cmが10m)

1F



BF



略字	フロア	室名
機	4 3 2 1 B	機械室
EV	3 2 1 B	エレベーター
男	3 2 1 B	男性トイレ
女	3 2 1 B	女性トイレ
ESC	3 2 1	エスカレーター
多	3 2 1	多目的トイレ
編	3	ジャンプブック編集室
厨	3	厨房
湯	2 1	給湯室
倉	2 1	倉庫
長	2	館長室
副	2	副館長
管	2	管理課
企	2	企画情報部
学	2	学芸部長室
動	2	学芸部(動物)研究室

略字	フロア	室名
植	2	学芸部(植物)研究室
古	2	学芸部(古生物・博物館学)研究室
司	2	司書室
指	2	学習指導員室
案	2	総合案内員室
ボ	2	ボランティア・友の会事務室
交	2	電話交換室
会	2	会議室
共	2	共同研究室
昆収	2	昆虫標本収蔵庫
書	2	書庫
昆製	2	昆虫標本製作室
ド	1 B	ドライエリア
地	1	学芸部(地球環境)研究室

略字	フロア	室名
売	1	ミュージアムショップ
と	1	ともしびショップ
救	1	救護室
幼	1	幼児室
ブ	1	プロジェクター室
訳	1	通訳室
映	1	映写室
ロ	1	ロッカー室
液収	1	液浸標本収蔵庫
搬	1	搬入口
荷	1	荷解室
大	1	大型標本製作室
標	1	標本製作室
液製	1	液浸標本製作室
冷	1	冷凍乾燥室
燻	1	燻蒸室
乾	1	乾燥室

略字	フロア	室名
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	B	ポンプ室

ご利用案内

開館時間

9:00～16:30（入館は16:00までです。）

休館日

月曜日（祝日・振替休日は開館します。また、夏季（海の日～9月の第1日曜日まで）は毎日開館します。）

祝日の翌日（火・土・日曜日にあたる場合は開館します。）

館内設備点検の日（奇数月の第2火曜日）

年末年始（12月29日～1月3日）

入館料

下記表のとおりです。

このほかに、別途料金が必要な特別展を開催することがあります。

区分	個人	団体（20人以上）
20歳以上（学生を除く）	510円	400円
20歳未満・学生	300円	200円
高校生以下・65歳以上	無料	

ミュージアムシアター

定時間帯に、博物館の基本テーマ「生命の星・地球」のガイダンス映像や、観客参加型のインタラクティブクイズ映像を上映しています。

	9	10	11	12	13	14	15	16
通常期	奇跡 9:30～9:45 生命の星・地球 奇跡の旅立ち	輪舞 10:30～10:45 生命の星・地球 生命の輪舞	クイズ 11:30～11:50 インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	クイズ 13:00～13:20 インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	奇跡 14:00～14:15 生命の星・地球 奇跡の旅立ち	輪舞 15:00～15:15 生命の星・地球 生命の輪舞		
春休み 夏休み ゴールデンウィーク	奇跡 9:30～9:45 生命の星・地球 奇跡の旅立ち	輪舞 10:30～10:45 生命の星・地球 生命の輪舞	クイズ 11:30～11:50 インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	クイズ 12:30～12:50 インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	クイズ 13:30～13:50 インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	奇跡 14:30～14:45 生命の星・地球 奇跡の旅立ち	輪舞 15:30～15:45 生命の星・地球 生命の輪舞	

交通

駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第12号（2006年度）

発行日 2007年10月10日
 発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
 館長 斎藤靖二
 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
 電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html>
 印刷所 有限会社あしがら印刷

編集担当 橋本 隆（管理課）・佐藤武宏（企画情報部）・田中徳久（学芸部）